DVS 605

シームレススイッチング機能付き 5入力HDCP準拠スケーラー

Extron® Electronics

INTERFACING, SWITCHING AND CONTROL

取扱説明書

68-2110-01JPN Rev. A
06 15

✚ 安全上のご注意

※エクストロン製品を安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
また本製品の設置・管理・操作に携わる方にお読み頂き、いつでも参照できるように適切な場所に備え置いて下さい。

絵表示について

この「安全上のご注意」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してからお読みください。
なお今回お買い上げいただきました製品に、当てはまらない注意事項もありますが、ご了承下さい。

警告　この表示を無視して誤った取り扱いをすると､人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して誤った取り扱いをすると､人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

▶ 絵表示の例

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

警告

1. 異常が発生したらすぐに電源プラグを抜く

■ 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて代理店等に修理を依頼して下さい。また、お客様による修理は危険ですので、絶対にお止めください。

2. 内部に水や異物が入ったら

■ 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて代理店等に修理を依頼して下さい。

3. 表示された電源電圧以外は使用しない

■ 火災､感電の原因となります。

4. 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

■ 本機の裏ぶた､カバー等は絶対にあけないで下さい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
■ 本機を分解､改造しないで下さい。火災､感電の原因となります。

5. 中に物を入れない

■ 本機の開口部から、金属物や燃えやすい物を差し込んだり､落とし込んだりしないで下さい。火災､感電の原因となります。

6. 放熱を妨げない

■ 本機の通風孔又は吸気孔をふさがないで下さい。内部に熱がこもり、火災の原因となります。
■ 本機をラック等風通しの悪い所に設置する場合は、必ず換気等の設備を設けてください。内部に熱がたまり火災の原因となります。
■ 本機にテーブルクロスをかけたり、また、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないで下さい。

7. 水の入った容器、小さな金属物を置かない

■ 本機の上に、水の入った容器、小さな金属物を置かないで下さい。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

8. 雷が鳴りだしたら機器に触れない

■ 雷が鳴りだしたら、機器や電源プラグや電源コードに触れないで下さい。感電の原因となります。

9. 故障した状態で使用しない

■ そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて代理店等に修理を依頼して下さい。

10. 落としたり破損した状態で使用しない

■ 万一、謝って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合はそのまま使用しないで下さい。火災、感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて代理店等に修理を依頼して下さい。

11. 電源コードを傷つけたり､加工しない

■ 電源コードが傷んだら（芯線の露出､断線など）代理店等に交換を依頼して下さい。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
■ 電源コードの上に重い物をのせたりしないで下さい。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。
■ 電源コードを傷つけたり、加工したり､無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないで下さい。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

12. 水のかかる所で使用しない

■ 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

注意

1. 指定された機器以外とは接続しない

■ 火災・感電・故障の原因となります。

2. 電源コード､電源プラグの注意

■ 電源コードを熱器具等高温になるもののそばに､近づけないで下さい。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となります。
■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないで下さい。感電の原因となります。
■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないで下さい。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグをもって抜いてください。
■ 電源コードを束ねた状態で使用しないで下さい。発熱し火災の原因となることがあります。
■ 長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
■ 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを全て外してから移動させてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

3. 設置上の注意

■ 強度の足りない台や、不安定な場所に置かないで下さい。落ちたり、倒れたりして怪我の原因となることがあります。
■ 本機の上に重い物を置かないで下さい。バランスがくずれて倒れたり、落下して、怪我の原因となることがあります。

4. 次のような場所には置かない

■ 湯気や油煙が当たるような場所に置かないで下さい。火災・感電の原因となることがあります。
■ 湿気やほこりの多い場所に置かないで下さい。火災・感電の原因となることがあります。

5. 点検、その他の注意

■ お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜いてから行なってください。感電の原因となることがあります。
■ 本機の吸気孔等にほこりのたまったまま、長期間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。
■ 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こす事が知られています。定期的にプラグのほこりを取り除いてください。

目次

目次

目次

目次

1

第一章 はじめに

本取扱説明書について

本書では、DVS 605シリーズの設置と設定方法、操作方法について説明します。

DVS 605 シリーズについて

デジタルビデオスケーラー DVS 605シリーズには以下の 4 モデルがあります。

- DVS 605、標準モデル
- DVS 605 A、オーディオ対応モデル
- DVS 605 D、3G/HD-SDI出力付
- DVS 605 AD 、オーディオ対応、3G/HD-SDI出力付

DVS 605 DとDVS 605 AD では3G/HD-SDI出力が、DVS 605 AとDVS 605 ADではバランス/アンバランスオーディオのスイッチング機能をご利用いただけます。すべてのモデルはフルラック幅で、HDMI入力3系統、ユニバーサルアナログビデオ入力2系統を装備し、HDMI 出力1系統および高解像度アナログRGB出力1系統の同時出力が可能な、高性能ビデオスケーラーです。HDCP準拠のHDMI信号、HDTV、RGBおよび標準画質ビデオなどの、さまざまなビデオフォーマットの信号入力に対応しており、1080iデインターレース、高品質なカラー処理、ハイレベルのプレゼンテーションを可能にする、高度なシームレススイッチングなど、エクストロンの最新ビデオ信号処理技術が搭載されています。また、イーサーネット、RS-232、USB、IR、接点入力などから、柔軟にコントロールが可能です。 2系統のアナログ入力は自動ファーマット検出機能を備え、RGBコンピューター、HDTV、コンポーネントビデオ、Sビデオ、コンポジットビデオを自動的に検出し処理できます。DVS 605は、HDCPに準拠しているため、ブルーレイディスクプレーヤーやケーブル、または衛星HD レシーバーとアナログビデオソースを統合することが可能です。入力のオートスイッチング機能は、システムの操作を簡素化し、プレゼンテーションスイッチャー、またはマトリックススイッチャーとの統合も効率化します。

出力レートは、640x480から1920x1200まで、および720p、1080i、1080p/60Hz、2k/60HzのHDTV解像度に対応しています。

メモ 詳細は3章8ページの「解像度とリフレッシュレート」のリストを参照してください。

DVS 605シリーズには、EDID Minder(EDIDマインダー)とKey Minder(Key マインダー)が装備されています。EDID Minderは、すべての入力とディスプレイ間における、EDID(Extended Digital Identification Data)通信を自動的に管理します。また、Key マインダーは入力デバイスと出力デバイスの間でHDCP認証を継続的に維持し、プロフェッショナルAV環境において保護されたコンテンツの、迅速で信頼性の高いスイッチングを実現します。

はじめに

オーディオ対応モデルには、HDMIオーディオのエンベディッドおよびディエンベディッド機能が搭載されています。すべてのオーディオ入力信号はHDMI信号にエンベディッドし、出力が可能です。また、HDMI信号にエンベディッドされたオーディオ信号は、アナログオーディオ出力およびS/PDIF端子から、デジタルオーディオ出力として取り出すことが可能です。3G-SDI/HD-SDI出力付のオーディオ対応モデルDVS 605 ADは、最大8チャンネルのデジタルオーディオを、SDI出力にエンベディッドできます。

DVS 605で使用しているサードパーティー製ソフトウェア

DVS 605では、サードパーティー製のさまざまなパッケージソフトウェアを使用しています。サードパーティー製のソフトウエアおよび関連するライセンスの詳細については、デフォルトのウェブページのUnit Information（ユニットインフォメーション）ページにある、License Information（ライセンスインフォメーション）ボタンをクリックします（5章23ページのユニット情報ページを参照）。これにより、DVS 605のLicense Information（ライセンスインフォメーション）ダイアログボックスが開きます。それぞれのパッケージのライセンス情報を表示するには、該当するライセンス欄のリンクをクリックします。これにより別のウィンドウが開き、ライセンス情報が表示されます。

License Information

License Information

Package	License
expat	MIT
ExtJS 4	Sencha Commercial License
fcgi	fcgi
freetype	FreeType License
gnupg-1.4.7	GNU GPL v2
gpgme	GNU LGPL
ifplugd	GNU GPL
jpeg	libjpeg
libassuan	GNU LGPL
libcgicc 3.2.3	GNU LGPL v2.1
libcurl	ICS
libdaemon	GNU GPL v2.1
libdnet	BSD
libgpg	GNU LGPL v2.1
libcap	BSD

Close

Close をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
下の表は、DVS 605で使用されているサードパーティのソフトウェアの一覧です。

メモ DVS 605で使用されているサードパーティのソフトウェアは、予告なしに変更される場合があります。

サードパーティー製 ソフトウェア			
パッケージ	ライセンス	パッケージ	ライセンス
avahi	GNU LGPL v2.1	libpng	libpng license
bstrib	BSD	lighttpd	BSD
busybox	GNU GPL v2	Linux	GNU GPL v2
bzip2	BSD	lua	MIT
cjson	MIT	lua-cjson	MIT
expat	BSD	luafilesystem	MIT
ExtJS4	Sencha Commercial License	luasocket	MIT
fcgi	fcgi	luastruct	MIT
freetype	Free Type License	mtd	GNU GPL v2
gnupg-1.4.7	GNU LGPL v2.1	ncurses	MIT
gpgme	GNU LGPL	openssh	BSD
ifplugd	GNU GPL	openssl	OpenSSL
jpeg	libjpeg	PAM	BSD
libassuan	GNU LGPL	pcre	BSD
libcgicc 3.2.3	GNU LGPL v2.1	psmisc	GNU GPL v2
libcurl	ICS	qt	GNU LGPL v2.1
libdaemon	GNU GPL v2.1	socat	GNU GPL v2
libdnet	BSD	spawn-fcgi	BSD
libgpg	GNU GPL v2.1	sqlite	Public Domain
libcap	BSD	xinetd	Custom
net-snmp	BSD		

特長

ビデオ入力

- **HDMI入力3系統とユニバーサルアナログビデオ入力2系統** — 2系統のユニバーサルアナログビデオ入力は、RGB、HDコンポーネントビデオ、YUVi、Sビデオ、またはコンポジットビデオの入力信号を自動的に検出します。HDMIソースとアナログビデオソース間におけるシームレスなスイッチングが可能です。
- **入力フォーマットの自動検出** — ユニバーサルアナログビデオ入力の入力信号フォーマットを自動的に検出して、適切なデコードおよび信号処理を行います。
- **入力のオートスイッチング** — DVS 605は入力のオートスイッチング機能を搭載しており、有効な信号が検出された入力に自動的に切り替えられます。複数の入力信号が検出されている場合は、入力番号の大きい順に優先する（5➔1）か、または番号の小さい入力から優先する（1➔5）かを指定し、優先順位に応じて入力が自動的に切り替わるように設定できます。 制御システムが無い場合でも、シンプルかつ簡単にDVS 605をコントロールできます。

  オートスイッチング機能は、入力ケーブルの有無や、ビデオ出力のないソースからの＋ 5 VDCの有無ではなく、有効な水平/垂直同期入力の有無により、「アクティブな」ビデオ入力を検出します。DVS 605は、すべての入力のビデオ検出を同時に行い、設定された優先順位（高➔低、または、低➔高）に従って、アクティブな入力に切り替えます。

  大型のプレゼンテーション用スイッチャーの出力や、シームレス機能のないスイッチャーの出力を接続し、オートスイッチングと組み合わせることにより、入力ソースの拡張に対応することが可能です。

メモ オートスイッチング機能を使用している場合、PIPモードを有効にすることはできません。
同様に、PIPモードを使用している場合、オートスイッチング機能を有効にすることはできません。

- **真にシームレスなスイッチング** — シームレスなカットおよびディゾルブトランジション効果は、入力1から4で使用できます。入力5では、グリッチのない黒にフェードするスイッチングが可能です。

ビデオ出力

- **3G/HD-SDI出力** — 出力解像度が720p、1080i、1080p、または2k 23.98/24/25 Hzに設定されている場合にのみ有効になります。出力解像度の設定はすべてのビデオ出力（HDMI、VGA、SDI）に共通して適用されます。
- **スケーリングされた HDMI、HD-SDI、およびアナログRGBまたはHDコンポーネントビデオの同時出力** — HDMIおよび高解像度アナログRGBまたはコンポーネントビデオ出力を使用して、2台のディスプレイに映像を出力することが可能です。
- **出力解像度** —出力解像度は、640x480から最大1920x1200のコンピュータービデオ、1080p/60 Hzを含む最大2048x1080（2k/60 Hz）のHDTVレートから選択可能です。
- **ピクチャーインピクチャー（PIP）** — 入力1から4がPIPのソースとして使用可能です。標準画質/高解像度 、デジタル/アナログビデオソースなどの制限なしに、2つのウィンドウに表示します。サイドバイサイドウィンドウなど、複数のPIPプリセットが利用可能です。メインおよびPIPウィンドウは、サイズ調整、配置、拡大などを自在に行えます。オーディオ対応モデルでは、メインウィンドウまたはPIPウィンドウの、どちらのオーディオ出力を選択するか、設定可能です。

はじめに

オーディオ

- **オーディオスイッチング** — DVS 605 AとDVS 605 ADモデルは、バランスまたはアンバランスのアナログステレオオーディオ5 系統の入力に対応しています。
- **出力ボリューム調整** — DVS 605オーディオ対応モデルは、マスターボリューム調整機能があります。ラインレベル出力は、ボリューム調整が可能なVariable（可変）出力とFixed（固定）出力が使用可能で、各出力はバランスでもアンバランスでも使用可能です。ステレオ入力信号はデュアルモノとして出力することもできます。また、DVS 605オーディオ対応モデルには、S/PDIFデジタルオーディオ出力も装備されています。
- **オーディオ入力のゲイン調整** — オーディオの入力レベル（-18dB から +24dB まで）は、RS-232/RS-422接続またはフロントパネルから設定できます。各入力のオーディオレベルは個別に調整できるため、音量差があるソース間を切り替えても、出力の音量差を最小に調整できます。
- **オーディオブレイクアウェイ（音声の非連動）** — エンベデッドオーディオ信号を、入力されたビデオ信号からスイッチャー内で分離でき、1つのソースデバイスからのオーディオ信号とビデオ信号を、それぞれ別の出力にルーティングすることも可能です。
- **オーディオのスイッチング効果** — 切替効果はオーディオスイッチング時にも適用され、切替えられたオーディオのレベルは下げられ、同時に新たに選択されたソースのオーディオレベルが滑らかに上がります。オーディオのクロスフェードの時間は、ビデオスイッチング効果の時間と同じです。
- **オーディオ遅延** — DVS605 は、内部のビデオ処理による遅延にあわせ、すべてのアナログおよびデジタルオーディオ入力を自動的に遅延して、オーディオ、ビデオの遅延量を補正します。システムによっては他の信号プロセッサー、スケーラー、またはディスプレイデバイスなどで発生するビデオの遅延に対応するために、追加のオーディオ遅延が必要な場合があります。DVS 605はオーディオ全体に追加で0から255 msの遅延設定が可能です。オーディオの遅延は、SISコマンドまたは内部のウェブページから設定が可能で、オーディオの「ずれ」の問題をトータルで解消することができます。
- **HDMIオーディオのエンベッドおよびディエンベッド** — オーディオ対応モデルでは、アナログ入力のオーディオ信号を、HDMI出力信号にエンベッドすることができ ます。また、HDMIにエンベッドされたデジタルオーディオ信号を取り出すこともできます。Dolby® Digitalまたは DTS® Digital Surround用の、エンコードされたビットストリームオーディオを、HDMIデジタルオーディオおよびS/PDIFから出力することができます。

一般

- **HDCP準拠** — HDCPコンテンツに対応。最大6.75 Gbpsのデータレート、ディープカラー、およびHDロスレスオーディオフォーマットに対応。
- **HDCP認証および信号の有無の確認** — DVS 605は、各デジタルビデオ入力および出力のHDCPステータスをリアルタイムに収集し、ステータスを外部から確認することが可能です。これにより、システムオペレーターまたはヘルプデスクのサポートスタッフはUSB、RS-232、またはイーサネットを経由して、外部から信号の有無やHDCP認証の状況を確認することが出来ます。
- **HDCPの映像による確認** — HDCPに準拠していないディスプレイに暗号化されたコンテンツが出力された場合、緑色のスクリーンを表示して、保護されたコンテンツはそのディスプレイでは表示できないことを通知します。
- **Key Minder（Key マインダー）**— 入力および出力機器との間でHDCP認証を継続的に維持することにより、迅速で、信頼性 の高いスイッチングを実現します。

- **最新のスケーリングエンジン** — 高性能 30ビットスケーリングエンジンを搭載しており、高解像度のコンピューータービデオおよびHDTVを高精度でスケーリングします。
- **EDID Minder（EDID マインダー）** — 接続された入力機器との間でEDID通信を自動的に管理することにより、すべてのソースを適切に起動して、コンテンツを確実にディスプレイに表示します。
- **AFL - Accu-RATE Frame Lock** — エクストロン独自の特許技術により、フレームレートの変換により生じる画像の乱れを防ぎます。
- **画像のフリーズコントロール** — USB、RS-232シリアル、イーサーネット、またはIRコントロール経由で制御し、ライブ画像をフリーズできます。
- **オートイメージ** — オートイメージを実行すると、ビデオ入力信号の解像度を自動的に検出し、トータルピクセル、アクティブピクセル、アクティブライン、水平および垂直開始点を自動で設定します。
- **オートインプットメモリー** — サイズ、センタリング、ディテール、コントラスト、ブライトネスなどの設定を保存できます。メモリーに保存された設定と同じ信号が検出された場合、設定値は自動的に呼び出されます。
- **オンスクリーンディスプレイ** — DVS 605は、現在選択されている入力のステータス情報を表示する、オンスクリーンディスプレイを装備しています。
- **オンスクリーン入力ラベル** — オンスクリーンで表示される入力名を設定することができ ます。ラベルは最長16文字で、RS-232またはイーサーネット経由で入力できます。
- **スクリーンセーバーモードとスタンバイモード** — DVS 605は、有効な入力信号が検出されなくなった場合、ディスプレイへのビデオおよび同期出力を、自動的にミュートするように設定できます。これにより、プロジェクターまたはフラットパネルディスプレイが、自動的にスタンバイモードに入るので、エネルギーを節約し、ランプやパネルの寿命を延ばすことができます。
- **画質調整** — 輝度とコントラスト、カラー、ティント（色相）、ディテール、水平と垂直の位置、サイズ、拡大縮小が調整可能です。これらの画像設定値は各入力ごとに、16のメモリープリセットに保存できます。
- **3:2と2:2自動プルダウン検出** — DVS 605は最新のフィルムモード処理技術により、フィルムから作成された NTSC、PAL、HDTV 1080iなどの映像ソースのディテールやシャープネスを最大限に高めます。
- **モーションアダプティブ1080iおよびSDデインターレース** — DVS 605は、高度なモーション補正を備えた高性能のデインターレースを搭載しており、衛星放送やケーブルTVのセットトップボックスなどからの、1080iおよびNTSCインターレース信号を、最適な画質でデインターレースします。
- **アスペクトレシオのコントロール** — フルスクリーン出力を行うFillモード、または、オリジナルの入力信号のアスペクトレシオを維持するFollowモードを選択可能です。
- **クワッド標準映像デコーダー** — デジタル3D アダプティブコムフィルターを搭載した、4種類のフォーマット対応のデコーダーが内蔵されており、NTSC 3.58、NTSC 4.43、PAL、そしてSECAM信号の入力に対応します。
- **キャリブレーションと設定用のテストパターン** — DVS 605は、14のテストパターン、クロップ、クロスハッチ、16バーグレースケール、カラーバー、交互ピクセル、ランプ、ホワイトフィールド、4 x 4クロスハッチ、4つのアスペクトレシオパターン（1.33、1.78、1.85、および2.35）を内蔵しています。

はじめに

- **オプションのゲンロック付き3G/HD-SDI出力** — この出力は、SMPTE 292M、424M、ITU デジタルビデオ標準に準拠しています。ゲンロックにより、外部の基準信号へ同期し、放送および制作アプリケーションに統合することができます。
- **フロントパネルセキュリティロック(Executive モード)** — 入力の選択を除き、すべてのフロントパネルの機能をロックアウトできます。ただし、ロックアウト中でも これらのフロントパネルの機能はUSB、RS-232、またはイーサーネット経由でアクセスが可能です。
- **IR接続** — リアパネルのIRポートは、Extron MediaLink Controllers、IP Link Control Processor、またはIR レシーバーなどからIRコマンドの受信が可能。柔軟な制御を可能にします。
- **イーサーネット 経由のモニタリングおよびコントロール** — DVS 605は、LAN、WAN、またはインターネット経由でコントロールしたり、監視することができます。設定や制御は内蔵のウェブページを使用して行うことができます。
- **RS-232通信ポート** — シリアルコマンドを使用して、内臓のウェブページやコントロールプログラム経由で、DVS 605のコントロールが可能です。エクストロンのコマンドセットSimple Instruction Set™ (SIS)を使用し、ASCII コードで簡単に制御することが可能です。
- **フロントパネルのUSB設定ポート** — リアパネルにアクセスせずに、簡単に構成できます。
- **接点入力ポート** — 外部の接点で、ソースのスイッチングを制御することができます。
- **ラックマウント可能な2U、フルラック幅の金属製筐体** — EIA 規格の19インチ標準ラックに取り付けが可能です。
- **LockIt HDMIケーブルブラケット** — 付属品として、製品に同梱されています。HDMIケーブルを製品に固定する際に使用します。
- **電源** — 内蔵電源は100VAC ～240VAC、50～60 Hz(入力電圧自動切り替え)に対応しており、世界中で使用できます。

DVS 605の操作について

DVS 605シリーズ は、以下の方法で操作できます。

- フロントパネルからの操作。
- USB、RS-232、イーサーネット経由でシリアル通信が可能なコンピューターや、タッチパネルなどの外部制御装置による操作。簡単かつシンプルなエクストロンのコマンドセット(SIS)は、これらのような様々なディバイスで使用可能です。
- 内臓のウェブページのインターフェースを使用して、LAN経由でコンピューターからスケーラーを制御することができます。
- IRポートからのコマンド入力。
- IP Link 経由でイーサーネット接続すると、LAN や WAN、インターネット経由で操作や監視ができます。

2
第二章
設置について

リアパネルの特長と接続

接続に必要なコネクターは、全てリアパネルに配置されています。
下図はDVS 605シリーズのリアパネルです。

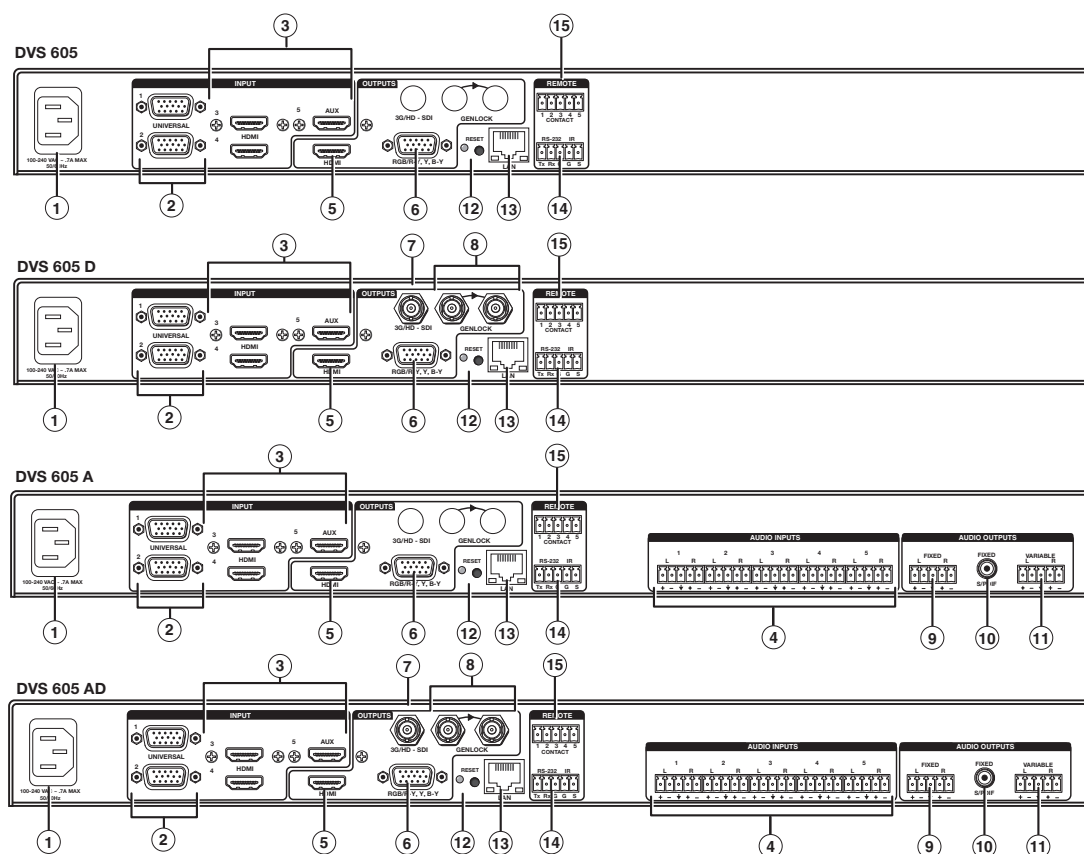
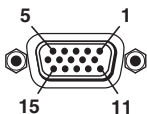



図 2-1　DVS 605 のリアパネル

電源とビデオ入力接続	出力とコントロール接続	
① AC電源コネクター ② ユニバーサルアナログ入力用ミニD-sub15ピンコネクター— 入力1と2 ③ HDMIコネクター —入力3から5（注: 入力5はPIPソースに使用できません） ④ オーディオ用5ピンミニターミナルブロック — 入力1から5（オーディオ対応モデルのみ）	⑤ HDMIコネクター ⑥ RGB/R-Y、Y、B-Yコンポーネント出力用ミニD-sub15ピンコネクター ⑦ 3G/HD-SDIコネクター（オプション）（SDIモデルのみ） ⑧ ゲンロックコネクター — 入力およびループアウト（SDIモデルのみ） ⑨ オーディオ出力（Fixed）用5ピンミニターミナルブロック（オーディオ対応モデルのみ） ⑩ S/PDIF デジタルオーディオ出力コネクター（オーディオ対応モデルのみ）	⑪ オーディオ出力（Variable）用5ピンミニターミナルブロック（オーディオ対応モデルのみ） ⑫ リセットボタンおよびLED ⑬ RJ-45 LANコネクター ⑭ RS-232およびIR用5ピンミニターミナルブロック ⑮ 接点制御用5ピンミニターミナルブロック（RS-232とGNDを共有）

① **AC 電源コネクター** — 添付のIEC電源コードをこのコネクターに差し込み、スケーラーを100-240 VAC、50-60 Hzの電源に接続します。電源が入ると、フロントパネルにある入力選択ボタンが点灯します。

② **入力1および2** — RGB、HDコンポーネントビデオ、YUVi、Sビデオ、またはコンポジットビデオ信号など適切な入力を、これらの2つのユニバーサルアナログ入力ポート(ミニD-sub15ピンコネクター)に接続します。

これらのユニバーサルアナログ入力ポートは、RGB(RGBHV、RGBs)、コンポーネントビデオ(2値シンクまたは3値シンク)、Sビデオ、またはコンポジットビデオ信号を入力できるように設定できます。デフォルト設定は、自動検出です。以下の表は、各フォーマットにおけるミニD-sub15ピンコネクターのピン配列です。ミニD-sub15ピンHDコネクターは、EDIDエミュレーションをサポートしています。

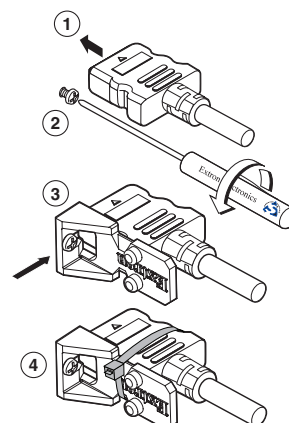
ミニD−sub15ピンコネクターのピン配列表

ピン	RGBHV	RGBs	コンポーネント	Sビデオ	コンポジット
1	赤	赤	R−Y		
2	緑	緑	Y	Luma(輝度)	ビデオ
3	青	青	B−Y	Chroma(色相)	
4	接続無し	接続無し			
5	接続無し	接続無し			
6	赤リターン	赤リターン	R−Y リターン		
7	緑リターン	緑リターン	Y リターン	L リターン	ビデオリターン
8	青リターン	青リターン	B−Y リターン	C リターン	
9					
10	接地	接地			
11	接続無し	接続無し			
12	EDID/DDC	EDID/DDC			
13	H(水平)同期	C 同期			
14	V(垂直)同期				
15	EDID/DDC	EDID/DDC			

5 1
15 11

③ **入力3から5** — HDMIソースを接続します。HDMIオーディオは、HDMIソースからディエンベッドできます。ユーザーはHDMIオーディオ、またはミニターミナルブロックから入力されたアナログオーディオのいずれかからオーディオを選択できます。(選択されなかったソースは出力されません。)デフォルトの設定では2チャンネルデジタルオーディオ が選択されています。DVI-Dソースはアダプターケーブルを使用して接続します。

以下のように LockIt™ ブラケットを使用して、HDMIコネクターをDVS 605本体に固定します。

1. HDMIケーブルを本体のHDMIコネクターに接続します。
2. HDMIコネクターの横にあるネジを緩め、**LockIt**ケーブルブラケットを差し込めるように、ケースとの間に隙間を作ります。ネジを完全に外す必要はありません。
3. ケーブルブラケットがネジを差し込んだ後、ネジを再び締めてケーブルブラケットを固定します。
4. 付属する結束バンドを、HDMIコネクターと**LockIt**ケーブルブラケットに巻き付け、結束バンドをゆるく締めます。

5. コネクターをしっかり押さえ、コネクターとケーブルブラケットが正しい位置で固定されている事を確認したら、結束バンドの端を引き、しっかり固定します 結束バンドの余った部分は切り捨てます。
   LockIt ブラケットは、以下の図のように、重ねて使用することもできます。

側面取り付け　　重ねた場合

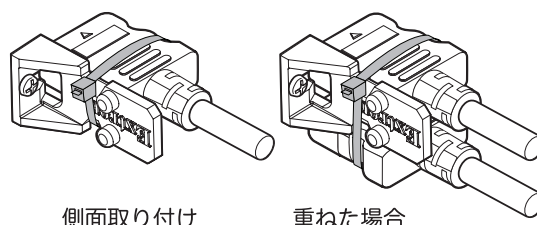



図 2-2　LockIt ブラケット取り付けオプション

④ **オーディオ入力1から5（オーディオ対応モデルのみ）**— ラインレベルの オーディオソースをこれらの５ピンミニターミナルブロックに接続します。次の図のように、バランスまたはアンバランスそれぞれに応じて配線します。

バランス入力（ステレオ）　　アンバランス入力（ステレオ）

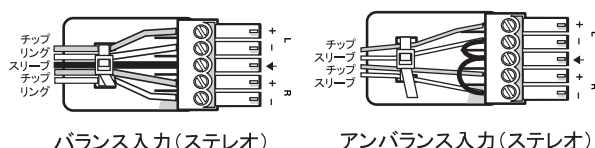



図 2-3　オーディオ入力コネクターの配線

メモ コントロール信号用アースピンには「G」と表示されています。オーディオアースピンには ⏚ が表示されています。

⑤ **HDMI 出力** — HDMIディスプレイなどを、このHDMIコネクターに接続します。

メモ 出力解像度の設定は、すべてのビデオ出力（HDMI、VGA、SDI）に共通して適用されます。

⑥ **RGBまたはHDコンポーネント（R–Y、Y、B–Y）ミニD–sub15ピンビデオ出力** — RGBビデオディスプレイまたはHDコンポーネントビデオディスプレイを、このミニD-sub15ピンコネクターに接続します。

メモ HDMIとアナログRGB、またはHDコンポーネントビデオを、同一スケーリングで同時出力が可能です。

⑦ **オプションの3G–SDI/HD–SDI出力コネクター** — SDI（シリアルデジタルインターフェース）ディスプレイを、このSDI出力用メスBNCコネクターに接続します。出力は、SMPTE 292Mと424MおよびITUビデオデジタル標準に準拠しています。

メモ 3G/HD-SDI出力は、解像度が720p、1080i、1080p、または2k 23.98/24/25 Hzに設定されている場合にのみ出力されます。

⑧ **ゲンロックコネクターおよびループスルー（SDIモデルのみ）**— SDI出力を同期させるための外部基準信号を接続します。ループスルーは追加の機器を同期させるために使用できます。

⑨ **オーディオ出力(Fixed:出力レベル固定、オーディオ対応モデルのみ)** — ラインレベルのオーディオ出力です。ミキサーやアンプなどのオーディオ機器を接続します。次の図のように、バランスまたはアンバランス接続用に配線します。

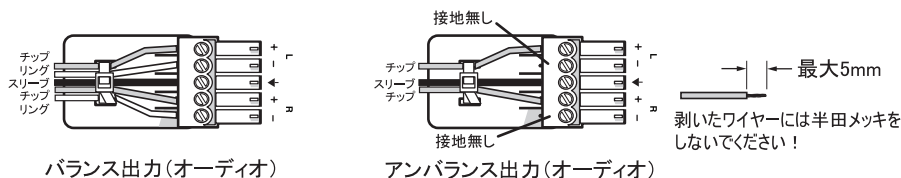



図 2-4　オーディオ出力コネクターのピン配列

⑩ **S/PDIFデジタルオーディオ出力(Fixed、オーディオ対応モデルのみ)** — SメスRCAコネクターとS/PDIF デジタルオーディオ入力デバイスを同軸ケーブルで接続します。このコネクターは、デジタルS/PDIFオーディオフォーマット(2チャンネルLPCM、Dolby Digital、またはDTS)を出力します。

⑪ **オーディオ出力(Variable:出力レベル可変、オーディオ対応モデルのみ)** — ラインレベルのオーディオ出力です。パワーアンプなどのオーディオ機器を接続します。次の図のように、バランスまたはアンバランス接続用に配線します。

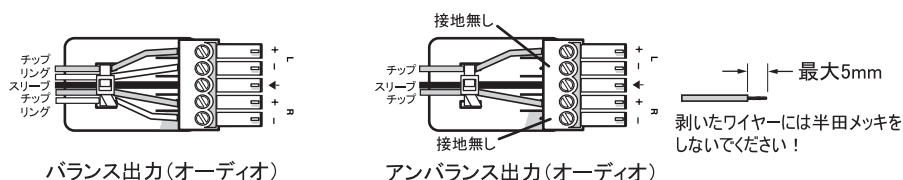
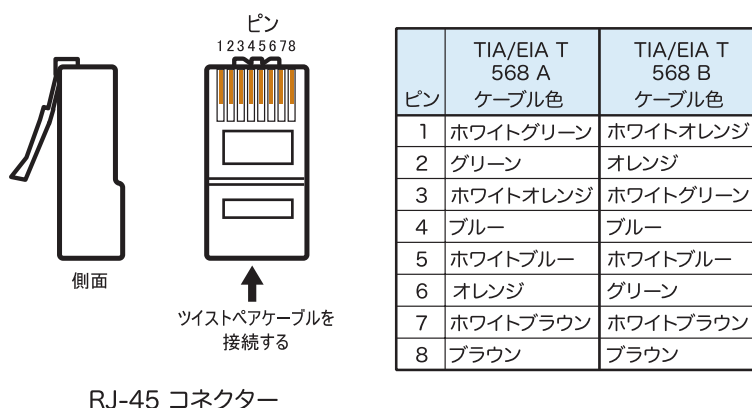



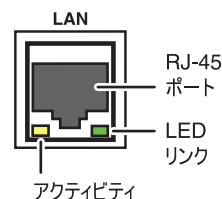
図 2-5　オーディオ出力コネクターのピン配列

⑫ **リセットボタンと LED** — 埋め込み式のリセットボタンを、ドライバーやボールペンなどを使用して押すとDVS 605をリセットできます。リセットには3つのモードがあります。詳細は、3章の「装置をリセットする」を参照してください。

⑬ **LAN コネクター** — イーサネットケーブルのRJ-45コネクターをこのジャックに差し込み、コンピューターネットワークに接続します。配線の詳細については、下図の表を参照してください。

ピン	TIA/EIA T 568 A ケーブル色	TIA/EIA T 568 B ケーブル色
1	ホワイトグリーン	ホワイトオレンジ
2	グリーン	オレンジ
3	ホワイトオレンジ	ホワイトグリーン
4	ブルー	ブルー
5	ホワイトブルー	ホワイトブルー
6	オレンジ	グリーン
7	ホワイトブラウン	ホワイトブラウン
8	ブラウン	ブラウン

RJ-45 コネクター

LAN Activity LED —橙色のAct LEDは、RJ-45コネクター経由でデータパケットが伝送されたことを示します。DVS 605が通信中は、このLEDが点滅します。

Link LED — 緑色のLink LEDは、スイッチャーがイーサネット のLANに適切に接続されていることを示し、点灯状態を保ちます。

⑭ RS-232/IRポート — 外部制御用のコントロールポートです。ホストコンピューターまたは制御システムからのRS-232信号および、外部IRコントローラーとのIR配線を5ピンミニターミナルブロックに接続できます。デフォルトのRS-232プロトコルは、9600ボー、1ストップビット、パリティなし、8データビット、フローコントロールなしです。デフォルトでは、IRポートは無効になっています。有効にすると、IRポートには38 kHz～1MHz、TTLレベル（0から5 V）の変調信号を入力できます。

⑮ リモート接点制御ポート — 外部スイッチなどの適切なコントロール用機器を、この5ピンミニターミナルブロックに接続します。GNDはRS-232ポートと共通です。

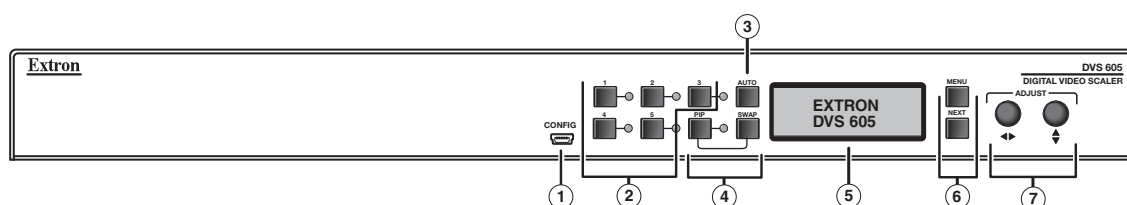
3
第三章
操作について

フロントパネル

図 3-1　DVS 605 のフロントパネル

① **ミニUSB設定ポート** — コンピューターまたはコントロールシステムをこのミニUSBポートに接続し、設定、コントロール、およびファームウェアのアップグレードを行うことができます。

② **入力選択ボタンとLED（1〜5）** —

入力LED — ボタンが押されると、選択された入力のLEDが点灯します。LEDが点滅している場合は、その入力がオーディオブレークアウェイ（オーディオの非連動）に設定されていることを示します（オーディオ対応モデルのみ）。

入力1と2（ユニバーサル入力） — 入力1と2では、アナログビデオ入力を選択します。RGB（RGBHV、RGBS、RGsB）、YUV、RGBcvS、Sビデオ、コンポジットビデオなどの入力フォーマットを自動検出できます。

入力3、4、5（HDMI/DVI） — 入力3、4、5では、HDMI/DVI入力を選択します。

③ **オートイメージボタン** — このボタンを使用してオートイメージを実行し、入力信号のサイズ調整および、センタリングを自動的に行います。

④ **PIP（ピクチャーインピクチャー）ボタンおよびSWAP（スワップ）ボタン** — PIPボタンでPIP（ピクチャーインピクチャー）モードを開始、終了します。Swap（スワップ）ボタンでメインウインドウおよび、PIPウィンドウに表示されている入力ソースの入れ替えが可能です。

⑤ **LCD表示部** — 2行表示のLCDに様々なメッセージやメニュー、設定情報などを表示します。

⑥ **メニュー操作ボタン** — 以下の２つのボタンを使用して、メニューを操作します。詳細は、本章の「DVS 605メニューシステム」を参照してください。

MENU（メニュー）ボタン — ８項目のメインメニューにアクセスします。

NEXT（次へ）ボタン — メインメニュー内のサブメニューにアクセスします。また、メニューを終了してデフォルト表示サイクルに戻る場合にも使用します。

⑦ **ADJUST（調整）つまみ** — これらの2つのつまみを使用して、メニュー操作および選択したサブメニューの設定値を調整します。

操作について

電源の投入

DVS 605に電源を投入すると、決まったシーケンスで自己診断テスト（下図を参照）が実行され、起動後はLCD画面にデフォルトのディスプレイサイクルが表示されます。

デフォルトディスプレイサイクル

メニューモードになっている場合を除き、LCDには入力信号、出力の設定値が交互に表示されます。これがデフォルトのディスプレイサイクルです。表示される内容は、入力されたビデオ信号によって異なります。図 3-2に一般的なデフォルトのディスプレイサイクルを示します。

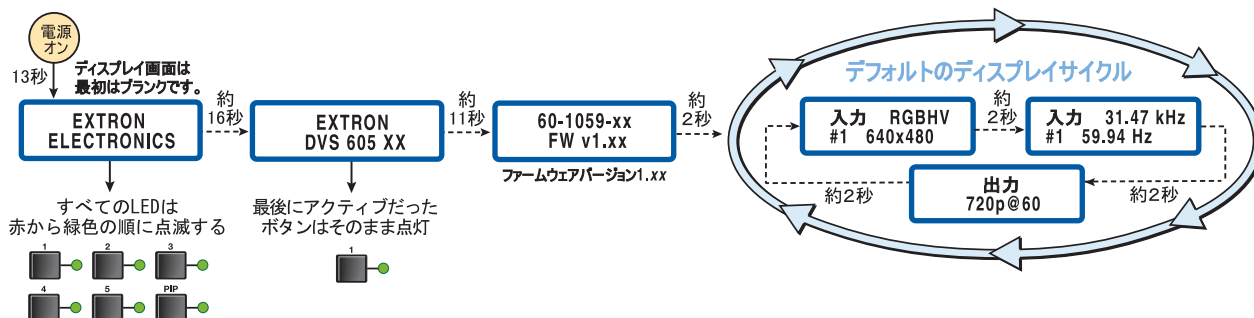



図 3-2　デフォルトディスプレイサイクルの例

デフォルト表示サイクルでは、現在選択している入力のフォーマット、解像度とレート、および出力解像度とリフレッシュレートを表示します。

メニュー、設定、および調整

DVS 605の設定と調整は、内蔵のWebページ（「内蔵のWebページを使用する」を参照）を使用するか、またはフロントパネルにあるボタンとつまみを使用して行います（メニューや調整値はLCD画面に表示されます）。

フロントパネルにあるボタンを使用して、各調整項目や設定メニューを選択する

MENU ボタン — このボタンを押して、8項目のメインメニューを順次表示させせます。

NEXT ボタン — このボタンを押して、選択したメインメニューのサブメニューを表示します。

水平 (◀▶) ADJUSTと垂直 (▲▼)ADJUSTつまみ — 水平、垂直のADJUSTつまみを使用し、サブメニュー内の設定値を選択し調整します。
詳細は次ページ以降のメニューのフローチャートおよび各調整項目を参照してください。

メニューについて

設定メニューを使用していない場合は、デフォルトのディスプレイサイクルがLCD画面に表示されます。LCDには選択されている入力の番号と映像フォーマット、水平、垂直周波数、出力解像度が繰り返し表示されます。以下の図に、この表示サイクルを示します。

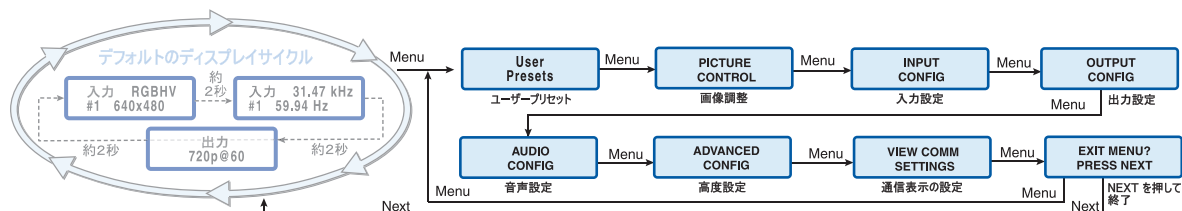



図 3-3　デフォルトディスプレイサイクルとメインメニュー

4番目のデフォルトサイクルのメニューは、ゲンロックが有効になっている場合にのみ表示されます。詳細については、3章10ページの「ゲンロック/AFLモード」を参照してください。

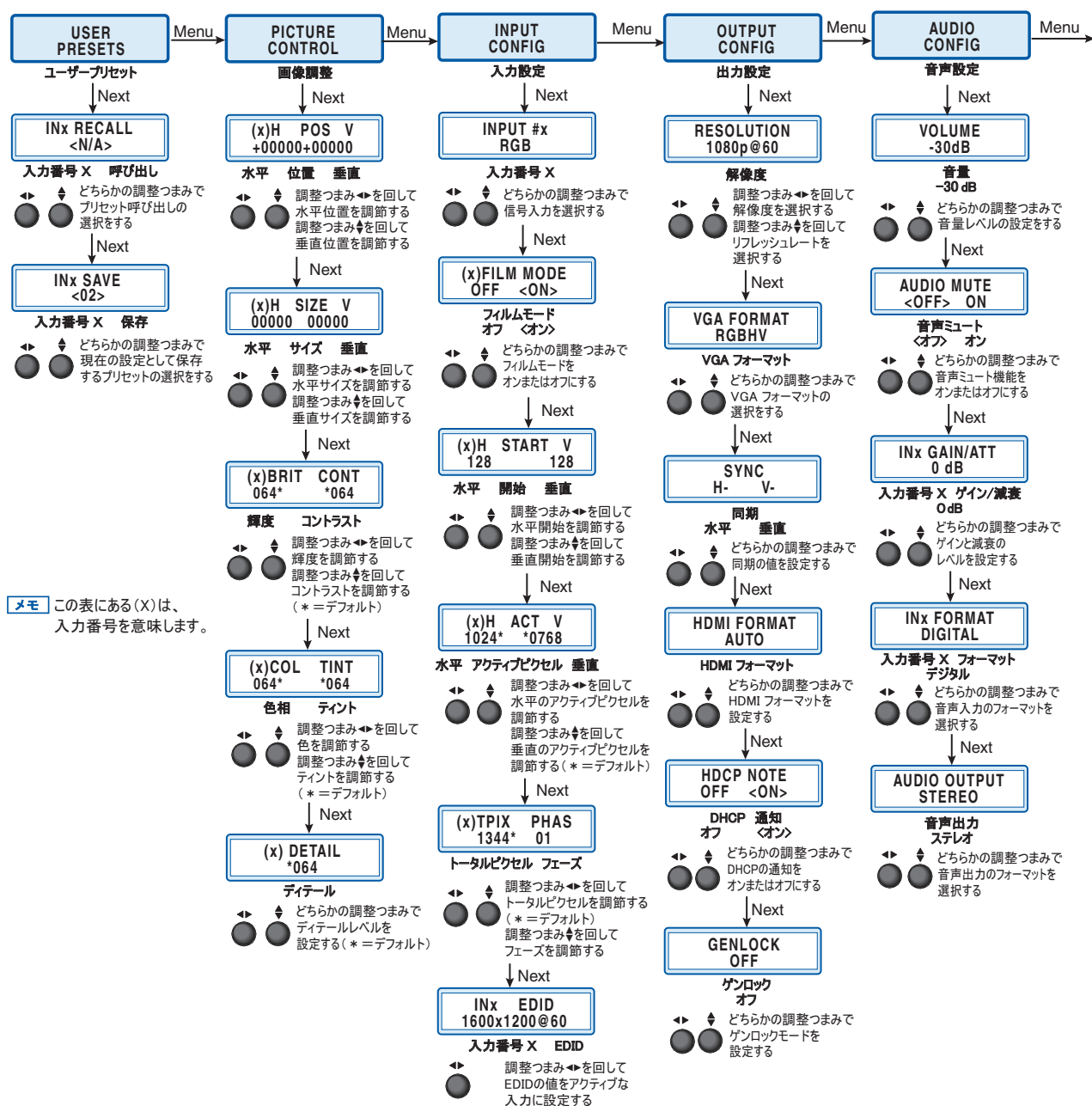
メモ メニューまたはサブメニュー内で約 20 秒以上何も操作しなかった場合は、すべての調整設定を保存し、デフォルトディスプレイサイクルに戻ります。

３章４と5ページに掲載されているフローチャートには、各設定用のサブメニューおよびオプションを含む、メニューシステムの概要が記載されています。フローチャートで「x」が使用されている場合（例えば、「x」またはInx）は、入力番号を示します。

Menu（メニュー）ボタンを使用してそれぞれのメニューをスクロールし、Next（次へ）を押してサブメニューに入ります。

メモ 現在選択されている入力コネクターに信号が入力されていない場合は、LCD 画面に NO SIGNAL（信号なし）と表示されます。

各メニューの詳細は、メインフローチャートの次のページに記載されています。

操作について

メモ 入力設定のサブメニューは、入力の種類によっては無効なメニューがあります。

Menu
ADVANCED CONFIG
高度な設定
Menu
VIEW COMM SETTINGS
通信設定の表示
Menu
EXIT MENU? PRESS NEXT
NEXT を押して終了
Next
AUTO IMAGE Input #x OFF
オートイメージ
入力番号 X オフ
どちらかの調整つまみでオートイメージ機能をオンまたはオフにする
Next
ASPECT RATIO IN#x FILL
アスペクトレシオ
入力番号 X フィル
どちらかの調整つまみでアスペクトレシオの選択をする
Next
AUTO MEMORY IN#x ON
オートメモリー
入力番号 X オン
どちらかの調整つまみでオートイメモリー機能をオンまたはオフにする
Next
OVERSCAN S-VIDEO 5.0%
オーバースキャン
S ビデオ 5%
どちらかの調整つまみでオーバースキャンモードの設定をする
Next
SWITCH TYPE DISSOLVE
スイッチタイプ
ディゾルブ
どちらかの調整つまみでスイッチタイプの切替えをする
Next
TEST PATTERN COLOR BARS
テストパターン
カラーバー
どちらかの調整つまみでテストパターンを変更する
Next
TEMPERATURE 96 F 35 C
温度
華氏96度 摂氏35度
内部温度の表示
（変更はできません）
Next
FACT. RESET HOLD AUTO
工場出荷時のリセット
AUTOボタンを押す
AUTO ボタンを押し続け
工場出荷時の設定に戻す
Next
Serial Port 9600 RS232
シリアルポート
Next
MAC Address 005A6003C24
MAC アドレス
変更できません
Next
DHCP Mode On
DHCP モード
オン
Next
I P 192.168 254.254
IP アドレス
Next
S M 255.255 000.000
サブネットマスク
Next
G W 192.168 000.000
ゲートウェイアドレス
*（隠れているメニュー）
EDIT COMM SETTINGS
通信設定の編集メニュー
Next
SERIAL PORT 9600 RS232
シリアルポート
調整つまみ▲▼を回して
RS232/422 モードを選択する
調整つまみ◀▶を回して
ボーレートを変更する
Next
DHCP MODE <ON>
DHCP モード
<オン>
どちらかの調整つまみで
DHCDモード機能を
オンまたはオフにする
Next
I P 192.168 254.254
IP アドレス
調整つまみ◀▶を回して
オクテットフィールドを選択する
調整つまみ▲▼を回して
IPアドレスを変更する
Next
S M 255.255 000.000
サブネットマスク
調整つまみ◀▶を回して
オクテットフィールドを選択する
調整つまみ▲▼を回して
サブネットマスクを変更する
Next
G W 192.168 000.000
ゲートウェイアドレス
調整つまみ◀▶を回して
オクテットフィールドを選択する
調整つまみ▲▼を回して
ゲートウェイアドレスを変更する
* メモ 「通信設定」メニューを表示するには、
入力5のボタンとNEXTボタンを同時に
約3秒押し続けます。
終了したい場合はMENUボタンを押します。

図 3-4　メインメニュー

任意のメニュー内からデフォルトサイクルに戻るには、繰り返しMenuボタンを押してExit Menu（メニュー終了）を表示させ、**Next**ボタンを押します。あるいは、DVS 605がタイムアウトする（20秒後）まで待ちます。

サブメニューには**Next**ボタンを押して、メインメニューからアクセスします。サブメニュー内を表示しているときに、**Menu**ボタンを押すと、サブメニューを終了して現在実行されているメインメニューに戻ります。

User Presets（ユーザープリセット）

このメニューを使用すると、選択された入力に対して最高16までのプリセットを保存したり呼び出したりすることができます。

このメニューを使用するには、**Next**を押して、該当するサブメニュー、Recall（呼び出し）またはSave（保存）を表示します。

サブメニュー内で、調整つまみを使用して、保存または呼び出すプリセットを選択します。**Menu**を押して、サブメニューを終了します。

図 3-5　ユーザープリセットメニュー

Picture Control (画像のコントロール)

このメニューを使用して選択された入力に対して、ウィンドウの水平と垂直位置、ウィンドウの水平と垂直サイズ、輝度とコントラスト、カラーとティント、ディテール設定などさまざまな映像調整を行うことができます。選択された入力は、LCD画面では（x）として表示されます。

このメニューを使用するには、Next を押して、該当するサブメニューを表示します。

サブメニュー内で、調整つまみを使用して、必要に応じて値を選択し調整します。

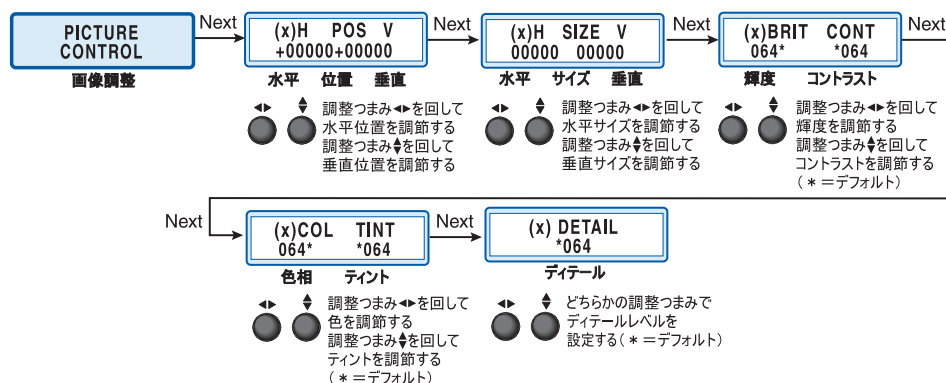



図 3-7　ピクチャーコントロールメニュー

Input Configuration（入力設定）

このメニューを使用してユーザーは選択された入力に対して、ビデオ信号フォーマット、フィルムモード、水平/垂直開始位置、水平/垂直のアクティブピクセル数、トータルピクセル数、位相、EDID設定などのさまざまな入力設定を調整することができます。選択された入力は、LCD画面の画像では(x)として表示されます。

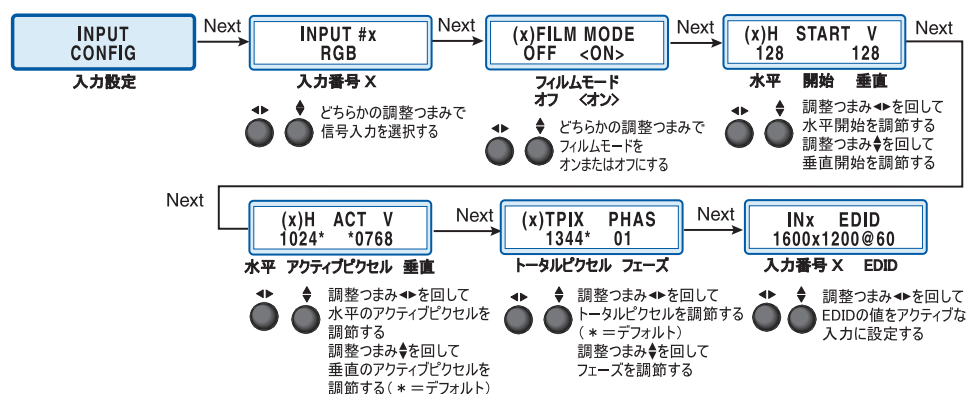



図 3-8　入力設定メニュー

メモ　ビデオ信号フォーマットが選択できるのは、入力1および2のみです。

ビデオ入力信号フォーマット

任意のInput（入力）サブメニュー内で、水平方向の調整つまみ（◀▶）または垂直方向の調整つまみ（▲▼）のいずれかを回転し、適切なビデオ信号フォーマットを選択します。

入力1

入力1は、RGB、YUV、RGBcvS、Sビデオ、コンポジットビデオのユニバーサルアナログ入力です。

入力1がYUV Auto（YUV自動）に設定されている場合、スケーラーはYUViが入力されているのか、あるいはYUVp/HDTVが入力されているのかを検出して、それに応じて入力を設定します。

デフォルトで入力信号フォーマットを自動検出するように設定されています。

入力2

入力2は、RGB、YUV、RGBcvS、Sビデオ、コンポジットビデオのユニバーサル
アナログ入力です。

入力2がYUV Auto（YUV自動）に設定されている場合、スケーラーはYUViが入力されているのか、あるいはYUVp/HDTVが入力されているのかを検出し、それに応じて入力を設定します。

デフォルトで入力信号フォーマットを自動検出するように設定されています。

入力3から5

入力3から5は、HDMIまたはDVI入力信号用のデジタル入力です。

Output Configuration (出力設定)

出力設定メニューを使用して、出力解像度、リフレッシュレート、アナログ出力フォーマット(RGBHV、RGBS、RGsBおよびY、B-Y、R-Y)、同期極性、HDMIフォーマット、HDCP通知表示、ゲンロック設定、オフセット値を選択できます。

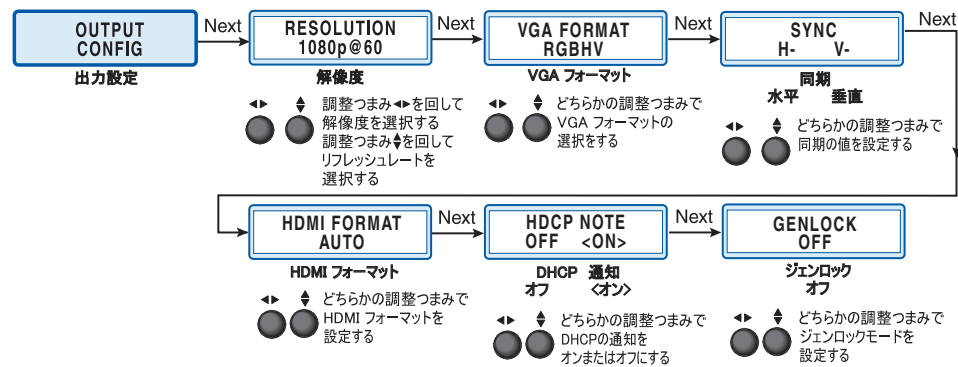



図 3-9 出力設定メニュー

解像度とリフレッシュレート

水平方向のつまみ(◀▶)を回転して解像度を選択し、垂直方向のつまみ(▲▼)でリフレッシュレートを選択します。デフォルトの解像度および リフレッシュレートは、720p/60 Hzです。
また、ユーザー定義のEDID値(解像度、リフレッシュレート)を、カスタムレートとして5種類まで登録可能です(C1からC5)。未登録の状態では、これら5つのユーザー定義レート(C1からC5)はデフォルトで720p/60 Hzに設定されています。

解像度	23.98 Hz	24 Hz	25 Hz	29.97 Hz	30 Hz	50 Hz	59.94 Hz	60 Hz	75 Hz
C1からC5	ユーザー定義の カスタムEDID (5種類)								
640 x 480						○		○	○
800 x 600						○		○	○
852 x 480						○		○	○
1024 x 768						○		○	○
1024 x 852						○		○	○
1024 x 1024						○		○	○
1280 x 768						○		○	○
1280 x 800						○		○	○
1280 x 1024						○		○	○
1360 x 765						○		○	○
1360 x 768						○		○	○
1365 x 768						○		○	○
1366 x 768						○		○	○
1365 x 1024						○		○	○
1440 x 900						○		○	○
1400 x1050						○		○	
1600 x 900						○		○	
1680 x 1050						○		○	
1600 x 1200						○		○	
1920x1200						○		○	
480p							○	○	
576p						○			
720p			○	○	○	○	○	○	
1080i						○	○	○	
1080p	○	○	○	○	○	○	○	○	
2K	○	○	○	○	○	○	○	○	

新しいカスタムレートが取り込まれた場合やアップロードされた場合には、その内容を反映してオンスクリーンディスプレイ（OSD）が自動的に更新されます。例えば、カスタムの480p EDIDがスロットC1にアップロードされた場合、LCDには「C1: 720x480」と表示されます。これら5つのカスタムレートは、カスタム出力解像度とカスタムEDIDで共通のテーブルとして共有されます。

アナログ出力フォーマット

調整つまみ（◀▶ ▲▼）のいずれかを使用して、RGBHV（デフォルト）、RGBS、RGsB、YUV 2値シンク、YUV 3値シンクの中から、必要なビデオ出力信号フォーマットを選択します。

Sync Polarity（同期極性）

一般に、ディスプレイまたはプロジェクターは、水平（H）と垂直（V）同期信号の組み合わせ極性が決まっています。調整つまみを回して、適切なHとV同期信号極性の組み合わせを選択します。

メモ このメニューは、出力フォーマットがRGBHVに設定されている場合にのみ適用されます。RGsB、YUV、またはRGBSが指定されている場合、このサブメニューは表示されません。

HDMIフォーマット

調整つまみ（◀▶ ▲▼）のいずれかを使用して、次の中からHDMIフォーマットを選択します。

- Auto（自動）－（シンクのEDIDが基準）、デフォルト
- DVI RGB 444
- HDMI RGB 444 FULL（0から255、オーディオ、インフォフレーム）
- HDMI YUV 444 FULL（0から255、オーディオ、インフォフレーム）
- HDMI YUV 444 LIMT（16から235、オーディオ、インフォフレーム）
- HDMI YUV 422 FULL（0から255、オーディオ、インフォフレーム）
- HDMI YUV 422 LIMT（16から235、オーディオ、インフォフレーム）

HDCP Notification（HDCP通知）

DVS 605には、HDCPで保護されたコンテンツをHDCP非準拠の出力ポート（15ピンHDまたは3G/HD-SDI）、またはHDCP非準拠のHDMI/DVIディスプレイで表示しようとしていることを、緑色の画面でユーザーに通知する機能が装備されています。
緑色の画面上で移動しながら「HDCP CONTENT」（HDCPコンテンツ）と表示する画面（3章22ページの「OSD（オンスクリーンディスプレイ）」を参照）か、またはHDCP通知をオフにして、ミュートされた（全黒の）画面をディスプレイに表示するかを選択できます。

HDCP通知設定は、フロントパネルメニューで調整つまみ（◀▶ ▲▼）のいずれかを使用して、HDCP通知のオン/オフを選択することができます。

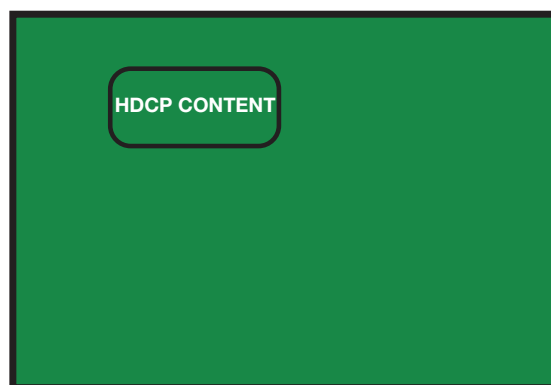



図3-10　緑色のHDCP通知画面

ウェブページ、またはSISコマンドを使用して設定することも可能です。

HDCPステータス: 入力および出力

DVS 605はSISコマンド（4章1ページから始まる「プログラミングガイド」を参照）を使用して、HDMI入力信号および出力に接続されたHDMIシンク機器の、HDCPステータスを検出する機能が搭載されています。HDCPの問い合わせに対して以下のように応答します。

- シンク、またはソースの接続の有無。
- 接続されたシンクのHDCP対応/非対応、接続されたソースからの信号がHDCPによる暗号化の有無。

選択中の入力のHDCPステータスはOSDに表示できます。入力が暗号化されている場合、OSD上にはHDCP有りを表す鍵のマークが表示されます。現在選択されている入力のHDCPステータスと、接続されたHDMIシンクデバイスの対応/非対応は、内蔵ウェブページ内のAV（オーディオ/ビデオ）コントロールパネルで確認することができます。

HDCP Authorized (HDCP認証)

この機能を使用すると、ソースからのHDCP認証要求に対してHDCP対応シンクとして応答するか、またはHDCP非対応のシンク機器として応答するかを選択、設定することができます。この機能は、ソースから出力されるコンテンツがHDCPによる暗号化が必要ないにも関わらず、ソースがHDCPによる暗号化を行うため、HDCP非準拠のディスプレイに表示できなくなる状況を解決することができます。

例えば、ユーザーがPCのHDMI出力を使用して、HDCP保護の無いプレゼンテーション資料を表示する場合、DVS 605のHDMI入力はHDCP認証要求 があるとそれに応え、認証が確立します。そのため、PCはHDMI出力を暗号化する可能性があります。ユーザーがDVS 605のHDMI出力にHDCP準拠のディスプレイ（シンク）のみを接続する場合は問題ありません。しかし、ユーザーがDVS 605のアナログ15ピンHD出力を、アナログ入力のシンク（ディスプレイ）に接続した場合、ソースからの信号は暗号化されているため、緑色のHDCP通知画面が表示されます。

DVS 605 のHDMI入力でHDCP認証を行わない設定にすると、PCは信号経路がHDCPに準拠していないと判断し、プレゼンテーション資料を暗号化しません。このようにHDCP認証を無効にすることで、ユーザーはHDCP非保護コンテンツを、DVS 605の任意のビデオ出力から表示できるようになります。ただし、HDCP認証を無効に設定した状態でHDCPコンテンツを再生した場合、ソースはビデオ出力を黒にミュートするかユーザーに対して警告メッセージを表示し、コンテンツは表示されません。

ゲンロック/AFLモード

DVS 605は、出力の垂直同期信号を、選択された入力の垂直同期信号にロックする機能（AFL）、およびSDIゲンロック信号（SDIモードのみ）にロックする機能を装備しています。

ゲンロックに使用可能な3つのモードは以下のとおりです:

- **オフ** — DVS 605内部で生成されたクロックを使用します。
- **入力AFL** — このモードでは、エクストロンのAccu-Rate Frame Lockテクノロジーを使用して、出力の垂直同期を現在選択されている入力の垂直同期信号にロックし、フレームレートの変換による入力のフレーム反復や欠落の発生を防止します。このモードでは、入力の垂直同期信号にロックしているため、入力に別の信号が選択された場合、または選択された入力にルーティングされた信号が変わった場合には、新たな信号にロックする際に出力同期にグリッチや一時的な中断が生じます。 入力信号が検出されない場合、または、入力信号へロックしたことによりでピクセルクロックが165MHzを超える場合、DVS605の内部で生成されたクロックを使用します。

- **SDI ゲンロック（SDIモデルのみ）** — この機能により、出力の垂直同期信号をアナログゲンロック入力にロックできます。SDIゲンロックモードで確実に作動させるため、入力されたSDIゲンロック信号と、DVS 605の出力解像度およびリフレッシュレートは、完全に一致するように設定する必要があります。

  SDIゲンロック信号と、DVS 605の出力解像度、リフレッシュレートが一致しない場合、DVS 605はSDIゲンロック信号にロックするため、ジッターが増加する可能性があります。

  SDIゲンロック信号が検出されない場合、あるいは検出されたSDIゲンロック信号により、ピクセルクロックが165 MHzを超える場合、DVS 605は内部生成したピクセルクロックを使用します。ゲンロック/AFLモードのいずれかが有効になっていると、「Genlock/AFL Locked（ゲンロック/AFLロック済み）」または「Genlock/AFL Not Locked（ゲンロック/AFL未ロック）」がDVS 605のデフォルトサイクルのメニューに追加され、ゲンロック/AFLステータスを表示します。ゲンロック/AFLステータスは、SISコマンドを使用しても問い合わせができます。

SDIゲンロック使用中は、例えば、1080i、59.94Hzのように、入力されたSDIゲンロック基準信号と一致するように設定する必要があります。

メモ SDIゲンロックモード では、出力信号はゲンロック入力にロックしているため、入力の切り替え中、出力同期にグリッチが発生する場合があります。

SDIゲンロックまたはAFLモードが有効になっているが、ゲンロックまたは基準入力信号がスケーラーに入力されていない場合、DVS 605はデフォルトで、現在の出力解像度設定と一致する垂直リフレッシュレートを使用します。

ゲンロック/AFLは、フロントパネルのメニューシステムから、いずれかの調整つまみ (◀▶ ▲▼) を使用して、オフ、入力AFL、またはSDIゲンロック（該当する場合）に設定できます。

ゲンロック/AFLが有効になると、4番目のデフォルトサイクルのメニューが表示されます。

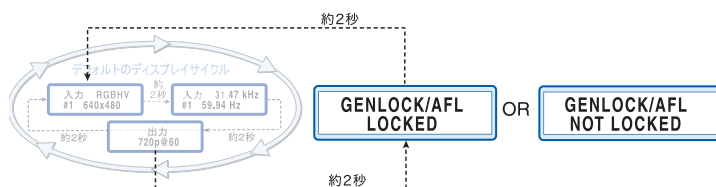



図3-11　4番目のデフォルトのディスプレイ項目 — ゲンロック/AFLメニュー

このメニューはゲンロックが有効に設定されている場合にのみ表示されます。

ゲンロック/AFLオフセットについて

システム全体でゲンロックを使用している場合、他の機器の出力映像と完全に一致するように、水平、垂直方向にピクセル単位でオフセットを調整することができます。このオフセット調整により、長いケーブル配線、または、上流側の機器により生じる遅延を補正することができます。調整は、SISコマンドを使用して行うか、または、Output Config Menu（出力設定メニュー）で行うことができます。これらの調整は、SDIゲンロックが有効で基準信号にロックされている、DまたはADモデルでのみ可能です。

メモ ゲンロックのオフセット調整を行う際、一時的にゲンロックが外れる場合があります。

Audio Configuration（オーディオ設定: すべてのモデル）

Audio Configuration（オーディオ設定）では、アナログ入力の音量レベル（0 dB〜–100 dB）、ミュートのオン/オフ切り替え、入力ゲインおよび減衰値（–53 dB〜+9 dB）の調整を行うことができます。また、オーディオ入力フォーマット（なし、アナログ、2チャンネルデジタル、フルデジタル、2チャンネル–オート、またはフル–オート）、およびオーディオ出力フォーマット（ステレオまたはデュアルモノ）の選択を行うことができます。これらは、入力ごとに設定できます。

メモ アナログ入力の音量レベル、入力ゲインおよび減衰調整はオーディオ対応モデル (DVS 605 AおよびDVS 605 AD)でのみ使用可能です。

- アナログ入力1および2の場合、オーディオ入力フォーマットの選択肢は「アナログ」または「なし」です。
- オーディオ対応モデル以外の場合、入力3〜5で選択可能なフォーマットは、「なし」、「2チャンネルデジタル」、または「フルデジタル」です。
- 入力3、4、5で オートモードを選択した場合、HDMI信号にデジタルオーディオ信号が含まれている場合はそれが使用されます。デジタルオーディオ信号が含まれていない場合には、アナログオーディオが選択されます。

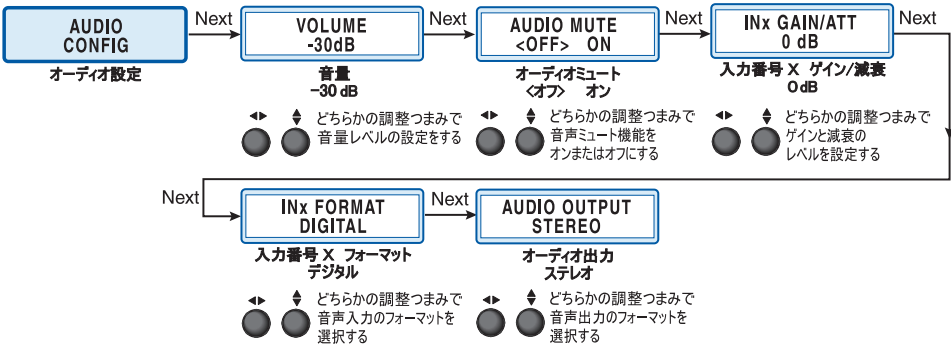



図3-12　オーディオ設定メニュー

Next（次へ）ボタンを使用して設定するサブメニューに移動し、両方の調整つまみ（◀▶ ▲▼）を使用して、必要に応じて設定を変更します。

オーディオ入力の信号フォーマット	説明
NONE（なし）	すべてのオーディオ入力が無効になります。ソースに対して送信されるEDID情報はVGA/DVI（128バイトEDID)になります。
ANALOG（アナログ）	5ピンミニターミナルブロックのオーディオ入力が使用されます。ソースに対して送信されるEDID情報は、VGA/DVI（128バイトEDID)になります。
2CH DIGITAL（2チャンネル デジタル）	ソースには256バイトのEDID (HDMI)情報が送信され、2チャンネルPCMオーディオがリクエストされます。
FULL DIGITAL（フルデジタル）	256バイトEDID (HDMI) 情報が送信され、すべてのデジタルオーディオフォーマットが許可されます。
メモ アナログオーディオ、またはHDMI入力3、4、5で2チャンネルPCMオーディオが入力されている場合のみアナログオーディオを出力します。ビットストリーム（デジタルマルチチャンネル）入力時はアナログオーディオは出力しません。	
2CH AUTO（2チャンネルオート）	ソースには256バイトのEDID情報が送信され、2チャンネルPCMオーディオがリクエストされます。 デジタルオーディオが検出されない場合は、自動的に5ピンミニターミナルブロックのアナログオーディオ入力が選択されます。
FULL AUTO フルオート	ソースには256バイトのEDID情報が送信され、すべてのデジタルオーディオフォーマットを受付ます。 デジタルオーディオが検出されない場合は、自動的に5ピンミニターミナルブロックのアナログオーディオ入力が選択されます。

オーディオ遅延の設定

DVS605は、内部のビデオプロセスにより発生する遅延を補正するため、すべてのアナログおよびデジタルオーディオ入力を自動的に遅延します。システム内の他の信号プロセッサー、スケーラー、またはディスプレイデバイス等によっては、さらにオーディオの遅延が必要な場合があります。DVS 605は最大255 msまでオーディオ遅延を調整することが可能で、オーディオとビデオの「ずれ」の問題を解消することができます。オーディオ遅延の調整は、SISコマンドまたは内蔵のウェブページで行います。

Advanced Configuration (高度な設定)

このメニューは、オートイメージ(オンまたはオフ)、アスペクトレシオ(FillまたはFollow)、オートメモリー(オンまたはオフ)、オーバースキャン(なし、2.5%、および5.0%)、トランジション(ディゾルブまたはカット)、テストパターンの選択(25ページの表を参照)、OSD表示時間、内部温度の表示、およびDVS 605をデフォルト設定へリセットする場合に使用します。

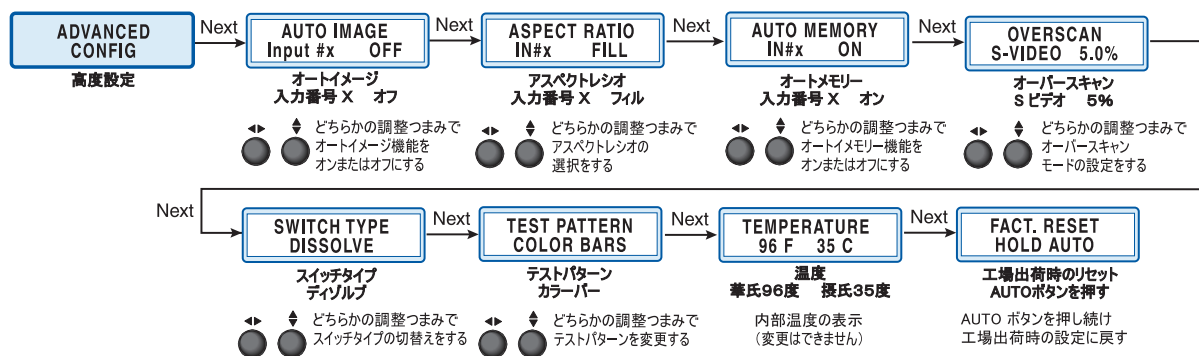



図3-12　高度な設定メニュー

Aspect Ratio (アスペクトレシオ)

いずれかの調整つまみ(◀▶ ▲▼)を使用して、アスペクトレシオをFillまたはFollowに設定します。アスペクトレシオ設定は入力ごとに設定します。各入力を出力画面全体に表示するか(Fill – デフォルト設定)、各入力のオリジナルのアスペクトレシオを維持して表示するか (Follow – 4:3、5:4、15:9、16:9、16:10)のいずれかを選択できます。適切なレターボックスまたはピラーボックス設定が、Image Size(画像サイズ)および Image Position Picture Control (画像位置の設定)の下に表示されます。

Fillモードでは、単一入力レート用のアスペクトレシオ調整が必要な場合に、適切なサイズと中心をPicture Controls(画像の調整)の下の、Image Size(画像サイズ)およびImage Position(画像位置)から、アスペクトレシオのテストパターンの1つをテンプレートとして使用して設定ができます。オートメモリーが有効になっている場合は、これらの設定が保存され、次回に信号が検出されたときに呼び出されます。

入力用のアスペクトレシオ設定が調整されるたびに、DVS 605は以前のサイズと位置設定を消去します。

メモ SISコマンドを使用して、現在のアスペクトレシオに関わらず、オートイメージ + Fillまたはオートイメージ + Followに設定できます。

オートイメージ

いずれかの調整つまみ（◀▶ ▲▼）を使用して、オートイメージをオンまたはオフ（デフォルト）にします。オートイメージとオートメモリーがオンの時は、検出された入力周波数に対応するオートメモリーの値を適用します。オートメモリーに情報がない場合はオートイメージを実行し、現在のアスペクトレシオ設定に対して、画像のサイズ/ 配置を画面上で自動的に調整します。

オートイメージがオフでオートメモリーがオンになっている場合で、オートメモリーに何もセーブされていない場合、新しい入力に対してデフォルトの設定値を適用します。

オートイメージのしきい値設定

デフォルトで輝度が25%を超えるアナログビデオ信号を有効な入力とみなし、オートイメージ機能が作動します。PCの暗い背景や、暗い色使いのプレゼンテーションなど、一部のビデオソースではオートイメージ機能が適切に機能し、サイズ調整およびセンタリングを行えるように、「Auto-Image Threshold（オートイメージのしきい値）」を低く設定する必要があります。アナログ用ツイストペア製品などで、RGB信号に同期パルスが重畳されているような場合は、オートイメージのしきい値の設定を高く設定する必要があります。

オートイメージのしきい値は、SISコマンドを使用するか、内蔵のウェブページから設定できます。範囲は0%（黒/～0.0 VDC）から100%（白/～0.7 VDC）で、デフォルト値は25%です。

メモ オートイメージのしきい値の設定は、アナログ入力信号のみに影響し、自動的にサイズ調整および、センタリングされるデジタル入力では作動しません。

オートメモリー

いずれかの調整つまみ（◀▶ ▲▼）を使用して、オートメモリーをオン（デフォルト）またはオフにします。

DVS 605 はそれぞれの入力に32のオートメモリーが用意されており、入力と画像の調整値を保存できます。このメモリーに保存された入力と画像の調整値は自動的に呼び出され、その設定値が適用されます。
オートメモリーがオフの状態では、入力された信号はすべて、デフォルトのパラメータを使用して処理されます。オートメモリーはデフォルトで、オンです。

オートメモリーとオートイメージの詳細		
オートメモリー	オートオメージ	機能
オン	オン	DVS 605 が以前に検出したことがない、新たな入力解像度とリフレッシュレートが検出された場合、デフォルトのパラメータが使用されます。次にオートイメージが自動的に作動し、この設定値が保存されます。以降、同じ信号が検出されると、オートメモリーに保存されている値が適用されます。
オン（デフォルト）	オフ（デフォルト）	DVS 605 が以前に検出したことがない新たな入力解像度とリフレッシュレートが検出された場合、デフォルトのパラメータが使用されます。この入力に対して入力と画像設定が手動で行われた場合、これらの設定値がオートメモリーに保存されます。以降、同じ信号が検出されると、オートメモリーに保存されている値が適用されます。
オフ	オン	入力信号、入力の切替え、電源の再投入などを行うとオートイメージが自動的に作動します。オートメモリー機能をオフにするとすべての信号が新しい信号として認識され、オートイメージが作動します。手動で変更した画質調整値などは、オートイメージの適用により上書きされます。
オフ	オフ	入力信号が変更されると、デフォルト値が適用されます。手動で変更した画質調整値などは、新たな入力信号が検出されると上書きされます。

図3-13　オートメモリーとオートイメージの詳細

Overscan (オーバースキャン)

水平方向の調整つまみ(◀▶)を使用して、ビデオ入力の信号フォーマット(RGB、YUV、RGBcvS、Sビデオ、コンポジット、またはHDMI)を選択し、垂直方向の調整つまみ(▲▼)を使用してオーバースキャンモード(なし、2.5%または5.0%)を選択します。
オーバースキャンにより、入力信号がズーム、クロップされ、放送信号に重畳されている補助データが表示されないようにすることが出来ます。オーバースキャンを有効にしてオートイメージを発行すると、Auto Phase(自動位相)のサイクル(YUVおよびRGBのみ)が実行され、テーブル値に応じて入力のセンタリングとサイズが調整されます。

メモ オーバースキャンはSMPTE入力レート (NTSC、PAL、480p、576p、720p、1080i、または1080p)でのみ有効です。

トランジションの切り替え

入力の切り替え時のトランジション効果(カットまたはディゾルブ)を選択します。
いずれかの調整つまみ (◀▶ ▲▼) を使用して、必要に応じてトランジションの種類を選択します。

メモ 入力4と入力5の入力切り替えでは、黒にフェードするトランジションを使用します。

テストパターン

DVS 605はディスプレイの調整などに便利なテストパターンを内蔵しています。

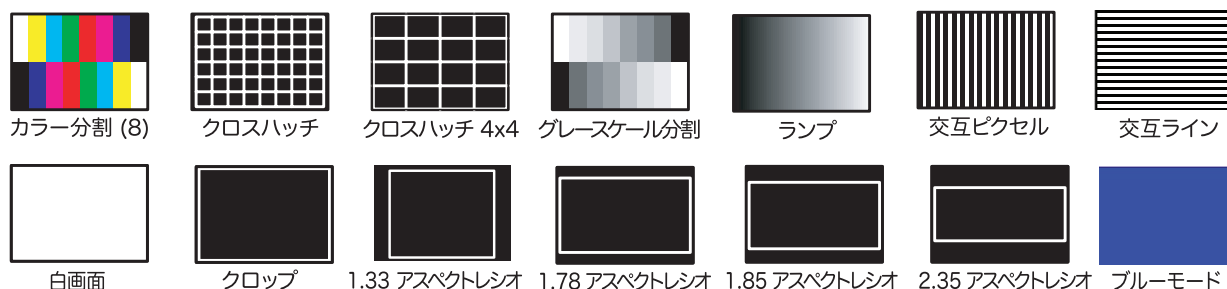



図3-14　テストパターンの種類

- **交互ピクセル** — ディスプレイの入力サンプリングのタイミングを調整するために使用されます。このパターンを使用して、ディスプレイで垂直の帯が見えなくなるように、クロッキングおよび位相を調整します。
- **クロップ** — ディスプレイの表示をセンタリングするために使用されます: 水平と垂直を調整して、4本のクロップラインがすべて表示されるように、センタリングを調整します。
- **カラーバー** — ディスプレイの色設定の調整、配線の確認などに使用されます。
- **ブルーモード** — このモードを使用すると、カラーとティントのレベルを設定しやすくなります。

水平方向の調整つまみ (◀▶) または垂直方向の調整つまみ(▲▼)のいずれかを使用して、テストパターンを選択します。デフォルトの状態ではオフになっています。

OSD duration (OSD表示時間)

DVS 605は入力が切替えられた際、画面左上に小さなOSDメッセージを表示します。このメッセージには、検出された入力レートとフォーマット、選択された入力のHDCPステータス、およびメイン入力かPIP入力であるか等の情報が含まれています。OSDをスクリーン上に表示する時間(秒単位)は、1から500秒の範囲でフロントパネルメニューから設定できます。「No OSD (OSDなし)」または「Always On(常にオン)」に設定することもできます。

Temperature (温度)

DVS605の内部温度(摂氏および華氏)を表示します。読み取り専用メニューで、調整することはできません。

Factory Reset (工場出荷時のデフォルトにリセット)

DVS 605を工場出荷時のデフォルトにリセットすることができます。
Advanced (高度な)メニューから、Factory Reset のメニューをLCD画面に呼び出し、
LCDの表示がResettingに変わるまで、オートイメージボタンを押し続けます。

View Comm Settings (通信ポートの設定)

RS-232およびIP設定の読み取り専用メニューです。設定の変更を行うには、通常は非表示になっているEdit Comm Settings(通信ポートの編集)メニューにアクセスする必要があります。
(以下のメモを参照)
Next(次へ)を押してシリアルポート(ボーレートおよび通信ポートの種類)、MACアドレス(変更不可)、DHCPステータス(オンまたはオフ)、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを表示します。

メモ 通常は非表示の Edit Comms Settings メニューに入るには、入力5とNext(次へ)ボタンを同時に押し続けます。以下のようにEdit Comms Settings メニューが表示されます。

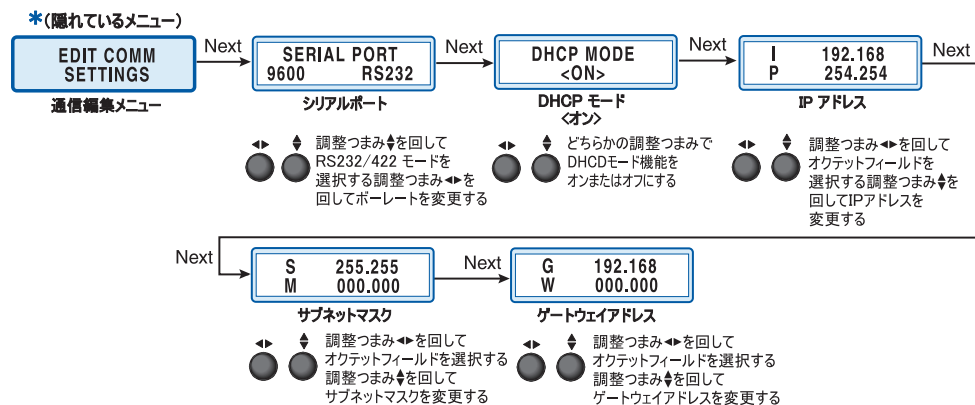



図3-15　通信編集のメニュー

Exit Menu (メニューの終了)

このメニューが表示されている時にNEXTボタンを押すと、メニューシステムが終了してデフォルトディスプレイサイクルに戻ります。

フロントパネルのロック設定(Executive モード)

誤操作を防ぐため、フロントパネルからの操作をロックする、2種類のセキュリティロック機能が搭載されています。Menu(メニュー)とNextボタンを同時に2秒間押すと、フロントパネルのセキュリティロック(Executive モード2)が有効になります。

Executive モード2では、入力スイッチング、PIP有効化とPIPスワップ、およびオートイメージを除く、すべてのフロントパネル機能がロックされます。Menuボタン、Nextボタン、調整つまみは無効になります。

Executive モード2が有効になっている場合でも、USB、RS-232、またはイーサネットコントロール経由で、すべての機能の制御と調整が可能です。詳細については、4章1ページから始まる「プログラミングガイド」を参照してください。

Executive モード2を無効にするには、MenuとNextボタンを同時に2秒間押します。下記のフローチャートを参照してください。

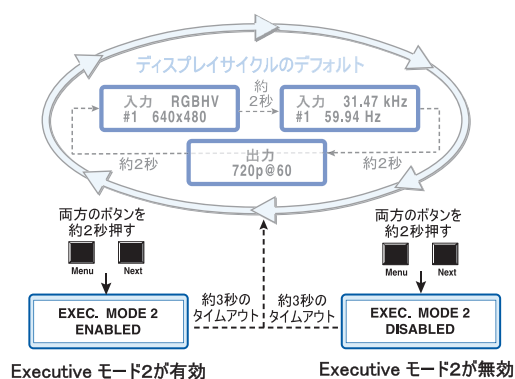



図 3-16　フロントパネルロックのロックアウト

Executive モード1は、すべてのフロントパネル機能を全てロックします。このモードはSISコマンドでのみ有効または無効にできます。

ウィンドウと画像のサイズ/位置 — 概要

DVS605では、ウィンドウのサイズ/位置および画像(コンテンツ)のサイズ/位置を出力設定ごとに独立して調整できます。この機能はメインウィンドウとPIPウィンドウの両方で使えるため、非常に柔軟な出力設定が可能になります。
以下の最初の例は、ウィンドウサイズを画像サイズより小さく設定することで、入力の一部(テロップやRSS表示など)のみを表示し、残りの部分を隠す方法を示したものです。

次の例は、PIPモードの柔軟性を示したものです。左のメインウィンドウでは画像サイズをウィンドウサイズの4倍に設定することで、入力の右上をズームし、入力の残りの部分を隠しています。右のPIPウィンドウは、アスペクトレシオを「Follow(フォロー)」に設定した場合です。画像のサイズと位置が自動的に調整され、入力のアスペクトレシオを保持してで表示されています。

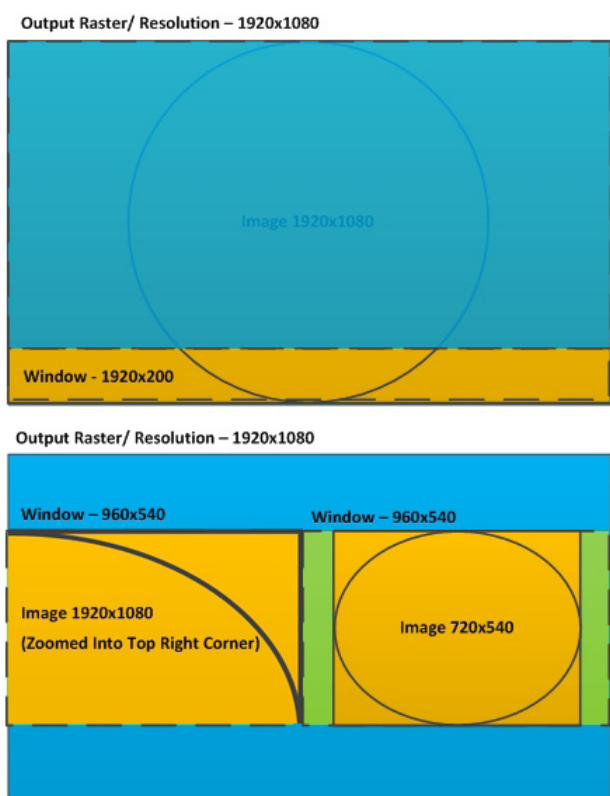



図 3-17　ウィンドウと画像のサイズおよび位置の例

メモ PIPモードでは、入力切り替え、電源ON、または新しい入力信号を検出した場合、毎回FillおよびFollowの計算が行われ、ウィンドウ内で入力のオリジナルのアスペクトレシオを維持し、表示するために、画像のサイズと位置が調整されます。

ピクチャーインピクチャー (PIP) モード

DVS 605は、ピクチャーインピクチャー機能を使用して、同時に2つのソースからの画像を画面上に表示できます。フロントパネルのPIPボタン、SISコマンド、PIPプリセット、または内蔵のウェブページから、ピクチャーインピクチャーモードに入ることが出来ます。詳細については、4章1ページから始まる「プログラミングガイド」、または5章1ページから始まる「HTMLの操作」を参照してください。

メモ 入力5はPIPモードには使用できません。

フロントパネルの操作

ピクチャーインピクチャーモードに入っている時は

- フロントパネルのPIP LEDが赤で点灯します。
- サブウインドウ入力のLEDが赤で点灯します。
- メインウィンドウ入力のLEDが緑色に点灯します。

メモ
- 入力1～4は任意の組み合わせでメインウインドウとサブウインドウに使用できます。
- 入力5はピクチャーインピクチャーのソースには選択できません。
- 入力5が選択されているときにPIPモードを有効にしようとすると、入力5のLEDが赤/緑に1秒間点滅し、LCDに「IN5 PIP NOT AVAILABLE (入力5はPIP使用不可)」と表示されます。
- PIPモードがアクティブなときに入力5をPIP入力に選択しようとすると、入力5LEDが赤/オフに1秒間フラッシュし、LCDに「IN5 PIP NOT AVAILABLE (入力5はPIP使用不可)」と表示されます。
- PIPモードでは、オーディオブレイクアウェイ(オーディオの非連動)はサポートされていません。オーディオは、メインウィンドウまたはサブウィンドウのいずれかに準拠し、SISコマンドを使用して選択できます。

ピクチャーインピクチャーモードを開始するには、以下の手順で行います。

1. メインウィンドウ入力信号用の入力を選択します。LEDが緑色に点灯します。
2. PIPボタンのPIPボタンを押します。LEDが赤で点灯し、入力1または入力2のLEDが赤に点灯します。
3. 必要に応じて、別の入力選択ボタンを押してサブウインドウへの入力を選択します。対応するLEDが赤で点灯します。

ピクチャーインピクチャーモード時は、フロントパネルのすべての入力の選択、入力設定、画像調整はサブウインドウに対して有効となります。

ピクチャーインピクチャーをフロントパネルから、または、SISコマンドを使用して(PIPプリセットを使用せずに)実行すると、DVSはメインウインドウのサイズ調整、センタリング、メイン　像、PIPウインドウ、PIP映像等を含む最後に使用したウインドウレイアウトの設定を使用します。工場出荷直後、またはリセット後はデフォルトでPIPプリセット1に保存されているレイアウトを使用します。メインウインドウとサブウインドウへの入力はフロントパネルのSwap(スワップ)ボタンまたはSISコマンドを使用して交換できます。コマンドの詳細については、「プログラミングガイド」を参照してください。

入力のスワップ(交換)は、以下の方法で行います。
Swapボタンを押します。メインウィンドウへ入力されていたソースがサブウインドウへの入力になり、入力のLEDが緑から赤に変わります。それまでのサブウインドウ入力は新しいメインウィンドウ入力になり、LEDが赤から緑に変わります。

ピクチャーインピクチャーモードがオフの場合にSwapボタンを押すと、現在選択されている入力から、最後にピクチャーインピクチャーモードでサブウインドウ用に選択されていた入力とスワップされます。

PIPプリセット

PIPプリセットには、サブウィンドウのサイズと位置、メインウインドウ入力とサブウインドウ入力に関連する設定が含まれます。PIPプリセットを使用して、メインウィンドウとサブウィンドウの設定とコンテンツの設定を、素早く呼び出すことができます。16のグローバルPIPプリセットが使用できます。

工場出荷時にはデフォルトで10種類のレイアウトが設定されており、すぐに使用可能です。これらのプリセットには新たに作成したレイアウトを上書き保存できます。
PIPプリセットは工場出荷時のデフォルト設定にのみ復元が可能で、削除することはできません。

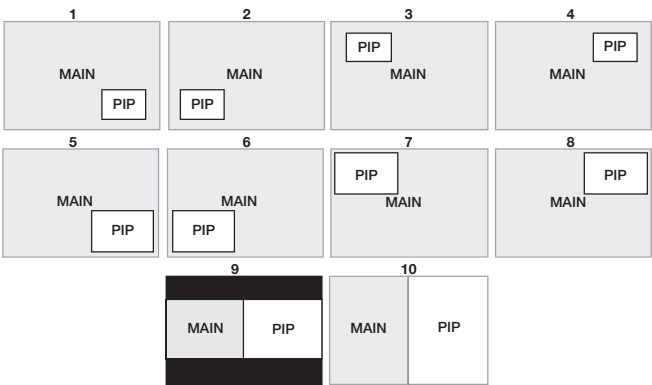



図 3-18　メインとPIPウィンドウのレイアウト（デフォルト）

PIPプリセットはSISコマンドまたは内蔵のウェブページを使用して、作成や保存ができます。詳細については、4章 1 ページから始まる「プログラミングガイド」、または5章1ページから始まる「HTMLの操作」を参照してください。

PIPプリセットには、プリセットが保存されたときに選択されていた、メインウインドウ入力とサブウインドウ入力が保存されます。

PIPプリセットは入力を指定せずに呼び出すことができます。

	プリセット			
設定	入力プリセット	ユーザープリセット	PIP プリセット	オートメモリー
水平/垂直開始位置	○			○
アクティブピクセル数	○			○
アクティブライン数	○			○
総ピクセル数	○			○
位相	○			○
ブライトネスとコントラスト	○	○		○
カラーとティント	○	○		○
ディテール	○	○		○
入力タイプ	○			
オーディオのゲインおよび減衰	○			
メインウィンドウのサイズおよび位置	○	○		
ウィンドウのサイズおよび位置			○	
プリセット名	○	○	○	
メイン入力			○	
PIP入力			○	
フィルムモード	○			
使用可能なプリセット数	128グローバル	入力チャンネルごとに32	入力チャンネルごとに16	16グローバル
呼び出しのロケーション	プリセットに保存されている入力タイプをサポートできる任意の入力	入力信号をベースに自動的に呼び出し	現在の入力	入力5以外の任意の入力

DVS 605のその他の操作機能

Screen Save (スクリーンセーブ)

Screen Save(スクリーンセーブ)モードを使用して、選択されている入力の信号が検出されなくなった場合のビデオ出力への表示設定と、その表示時間を設定できます。デフォルトでは、ミュートされた(黒の)ビデオを出力し続けますが、この設定により、ブルーバックの画面上に有効な入力がないことを通知するテキストメッセージを表示することができます。

また、スクリーンセーブの表示時間を設定すると、黒または青のビデオ出力が設定時間、出力された後、ビデオおよび同期出力が遮断されます。同期出力を遮断することで、接続されたディスプレイ機器は低電力、またはスタンバイの状態に入り、ランプ/パネルの寿命を助長することができます。ビデオ入力が検出されなくなってから同期出力を遮断するまでの時間は、0から500秒後に設定することができます。デフォルトはタイムアウトなしです。Screen Save(スクリーンセーブ)モードは内蔵ウェブページ(5章21ページの「Screen Saver Settings(スクリーンセーバー設定)」を参照)、またはSISコマンド (4章15ページの「Screen saver mode(スクリーンセーバーモード)」コマンドを参照)を使用して設定することができます。

Power Save (節電)

SISコマンド(4章14ページの「Power Save Mode(節電モード)」を参照)、または内蔵のウェブページ(5章26ページの「Executive/Power Mode Page(パネルロック/パワーモードページ)」を参照)を使用して、DVS 605をPower Save(節電)モードに設定し、電力消費を抑えることができます。このモードでは、DVS 605の電力消費は約半分に低減されます。このモードでは、オーディオおよびビデオの処理は行われず、すべてのオーディオまたはビデオ出力は無効になります。また、すべてのフロントパネルLEDおよびLCDバックライトは消灯し、LCDに「STANDBY MODE(スタンバイモード)」と表示されます。ユーザーは、フロントパネルのボタンを押すか、SISコマンド、または内蔵のウェブページを使用して節電モードを終了できます。Power Save Mode実行のコマンドが受信されるとすぐに節電状態に入りますが、通常の状態に戻るには、約5から10秒かかります。

カスタムEDID/カスタム出力解像度

DVS605はEDIDデータの取り込み、EDIDファイルのインポート/アップロードが可能で、これらのEDIDデータを使用して、EDIDのエミュレーションやカスタムEDIDデータの作成ができます。128または256バイトのEDID「.bin」ファイルをPCから取り込むか、またはEDIDに接続されたシンク(ディスプレイ)デバイスから取り込むことができます。カスタムEDIDは5種類まで保存でき、EDIDエミュレーション、またはEDIDのカスタマイズ(EDID推奨タイミング1を基準)に使用できます。これらの機能はSISコマンド(4章9ページの「Input EDID(入力EDID)」を参照)、または内蔵のウェブページから使用可能です。

メモ カスタムEDIDのオーディオ情報は、入力オーディオフォーマットの設定変更により影響は受けません。

DVS605のHDMI入力から、ソース機器に対して送信されるEDIDのオーディオ情報は、入力のオーディオフォーマット設定によって自動的に変わります。例えば、None(なし)またはAnalog(アナログ)オーディオが設定されている場合、CEAエクステンションブロックは除外され、ソース機器が確実にアナログオーディオを出力するようにします。2チャンネルデジタルおよび2チャンネル自動モードでは、2チャンネルLPCMデジタルオーディオフォーマットのみをサポートする、CEAエクステンションを含むEDIDが送られます。フルデジタルおよび完全自動モードでは、出力可能なデジタルオーディオフォーマットのすべてを許可する内容のCEAエクステンションを含むEDID情報が送信されます。

アップロードしたカスタムEDIDや、ディスプレイから取り込んだEDID情報を入力のEDID エミュレーションに使用している状態で、DVS605のオーディオ入力設定を変更しても、これらのEDIDに含まれているオーディオ情報は入力設定の変更による影響を受けることはありません。カスタムEDID情報はオーディオ入力設定の変更により書き換えられることはありません。オーディオ入力フォーマットは設定に従い、指定されたオーディオソース（なし、アナログオーディオ、またはエンベディッドデジタルオーディオ）が使用されます。

オーディオフォーマット	オーディオソース	アナログ入力（Input 1、2）	デジタル入力（Input 3、4、5）	EDID
なし	ミュート	○	○	CEAなし
アナログ	5ピンミニターミナルブロック	○	○	CEAなし
LPCM-2Ch	エンベディッドデジタル	×	○	LPCM-2チャンネル CEA
Multi-Ch	エンベディッドデジタル	×	○	マルチチャンネル CEA
LPCM-2Ch Auto	エンベディッドデジタル（存在する場合）、その他の場合は5ピンミニターミナルブロック	×	○	LPCM-2チャンネル CEA
Multi-Ch Auto	エンベディッドデジタル（存在する場合）、その他の場合は5ピンミニターミナルブロック	×	○	マルチチャンネル CEA

アナログデジタル入力で選択可能なフォーマットとその説明

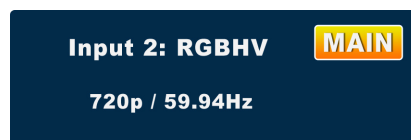
メモ　オーディオフォーマット設定の変更は、エミュレートに使用しているカスタムEDID情報に影響を与えません。

アナログ（VGA）入力用のEDIDをデジタル（HDMI）入力に、またはその逆に割り当てる可能性があるため、カスタムEDIDファイルを割り当てるときには注意が必要です。不適切なEDIDファイルが割り当てられると、接続されたソースがビデオ、オーディオを出力しなくなったり、予期せぬ状況が発生する場合があります。

OSD（オンスクリーンディスプレイ）

入力を切り替えると、出力画面の左上に小さなOSDが表示されます。このOSDには選択された入力の解像度とフォーマット、HDCPの有無、およびメインウインドウに選択されている入力とサブウインドウに選択されている入力が表示されます。OSDは、フロントパネル、内蔵のウェブページ、またはSISコマンドを使用して、表示時間を0.0秒に設定することで非表示に設定できます。
OSDに表示される項目は以下のとおりです。

- メイン、サブウインドウの入力
- 入力の解像度
- HDCPの有無

Input 2: RGBHV　MAIN
720p / 59.94Hz

IR配線ポート

DVS 605には、エクストロンのMLCシリーズ、IPLシリーズなどのコントローラーのIR制御出力に接続可能な、IR入力ポートが装備されています。このポートを使用すると、IR出力を装備したホストコントローラーから、DVS 605に対して単方向のコントロールが可能です。
DVS 605 IRドライバーは、エクストロンのウェブサイトからダウンロード可能です。このドライバーで制御可能な項目は、以下のとおりです。

- 入力切り替え
- オートイメージ、オートイメージ + Fill、オートイメージ + Follow
- オーディオミュート、ビデオミュート、A/Vオーディオ/ビデオミュート
- 音量
- PIPオン/オフ、PIPスワップ
- ユーザープリセット呼び出し1、2、および3
- PIPプリセット呼び出し1から6
- オンスクリーンディスプレイ（OSD）の表示

メモ　DVS 605にはIRリモコンは使用できません

スケーラーのリセット

リアパネルにある RESETボタンでDVS 605をリセットすることが出来ます。リセットには3つのモード（リセットモード 1、4、5）があります。RESETボタンはリアパネルより奥まったところにありますので、先の細いドライバーやボールペン、付属のTweekerなどを使用して押します。各リセットモードの詳細については、次の表を参照してください。

注意　リセットモードの選択は、十分に確認してから行ってください。 間違ったモードでリセットすると、フラッシュメモリー内のプログラムを不用意に削除したり、ポートの再割り当てやDVS605の再起動が必要になる場合があります。

メモ　リセットを行うと、モードにかかわらず、すべてのイーサーネット接続とテルネット接続が切断され、すべての通信が終了します。各リセットモード(1 から 5) は独立して機能し、1 から 5 までが連続しているわけではありません。

リセット モード比較 / 概要				
		リセットモードの実行方法	リセット内容	目的と注意
デフォルトのファームウェアを使用する	1	RESET (リセット) ボタンを押しながら DVS 605に電源を入れます。 メモ　モード 1 リセットを実行した後は、DVS 605のファームウェアを最新バージョンに更新してください。デフォルトのファームウェアへリセットされますが、これは一時的なものです。再度電源が入ると、装置は最後に更新されたファームウェアを使用します。このリセットモードで得られたファームウェアバージョンは使用しないでください。工場出荷時のファームウェアを使用する場合は、そのバージョンを再度アップロードする必要があります。	**モード1**は、DVS 605のファームウェアを、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。 ● 電源を切るまでの間、工場出荷時のファームウエアに戻す ● すべてのユーザーファイルと設定(ドライバー、オーディオとビデオの設定、調整値、IP設定など)は維持される メモ　ファームウェアを更新する必要がない、または誤ってモード 1 リセットを行ってしまった場合は、一度装置の電源を切り、再び電源を入れてモード 1 リセットの前に稼働していたファームウェアバージョンに戻してください。SIS コマンドの「Q」を使用して、デフォルトのファームウェアでないことを確認します。	新たにアップロードしたファームウェアが互換性の問題を起こした場合などに有効です。
すべてのIP設定をリセットする	4	約 6 秒間 RESET (リセット) ボタンを押し続け、RESET LED が 2 回点滅したら放します。(1 回目は 約 3 秒後、2 回目は約 6 秒後に点滅します。) 放したら直ぐに (1 秒以内) もう一度 RESET ボタンを押して放します。	**モード4** リセットが成功した場合はRESET LEDが4回続けて点滅します。 ● ポートのマッピングをデフォルト設定に戻す ● DHCP をオフにする - IP アドレをデフォルト設定に戻す(192.168.254.254)	**モード4** を実行すると、すべてのIP設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻します。
工場出荷時のデフォルトにリセットする	5	約 9 秒間 RESET (リセット) ボタンを押し続け、RESET LED が 3 回点滅したら放します。(1 回目は 約 3 秒後、2 回目は約 6 秒後、3 回目は約 9 秒後に点滅します。) 放したら直ぐに (1 秒以内) もう一度 RESET ボタンを押して放します。	**モード 5** は、すべての設定 (ファームウェアを除く) を工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。リセットが成功した場合はRESET LEDが4回続けて点滅します。 ● モード 4 のすべてを実行する ● ユーザーがアップロードしたすべての設定(IP設定、現行時間の調整を含む)をデフォルト値にリセットする ● ユーザーがアップロードしたファイルを削除する	**モード 5** は、工場出荷時のデフォルト状態から設定をやり直す場合などに便利です。SISコマンドの ZQQQと同等です。
		メモ　モード4と5においては、RESETボタンを1秒以内に再度押さないとリセットされません。		

図 3-19　リセットモードの比較

4
第四章
プログラミングガイド

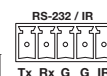
シリアルポート

DVS 605は、ホストコンピューターまたは他の制御機器から設定やコントロールができます。リアパネルのRS-232コネクター、LANポートまたはフロントパネルのUSBポートから、エクストロンのSimple Instruction Set(SIS)コマンドまたは、DVSの内蔵ウェブページを経由して、設定とコントロールが可能です。

コマンドは、DataViewer(データビュワー)などのTelnet用アプリケーションを使用して入力することができます。DataViewer(データビュワー)はExtronのWebページからダウンロードが可能です。

シリアル通信ポートの既定のプロトコルは以下のとおりです。
9600ボー、8 ビット、1ストップビット、パリティなし、フロー制御なし。

PCからDVS 605 へのコマンド送信

RS-232 / IR
Tx Rx G G IR

SISコマンドは1文字以上の文字列で構成されます。コマンド文字列の始めと終わりに特別な文字は必要ありません。SISコマンドに対するスケーラーのレスポンスは、1文字以上の文字列からなり、キャリッジリターンおよびラインフィード (CR/LF = ↵) がレスポンス文字列の終了を意味します。

スケーラー発行のメッセージ

フロントパネルでの入力選択や調整などのローカルイベントが発生すると、スケーラーからホスト宛にメッセージを送信します。これらのメッセージに対して、ホストからレスポンスを送信する必要はありません。下記はスケーラー発行のメッセージの例です。

- **↵ © Copyright 2012, Extron Electronics, DVS 605, Vx.xx,60-1059 - 01↵ Thur, 17 February 2012 11:27:33 ↵**
  スケーラーの電源を投入したとき、著作権メッセージが表示されます。Vx.xx はファームウェアのバージョン番号です。
- **In X1 All ↵**
  X1 は 入力切替時の入力番号です。
- **Reconfig ↵**
  入力が切り替えられるか新しい信号が検出されると、スケーラーはこのレスポンスを送信します。

著作権情報

↵ © Copyright 2012, Extron Electronics, DVS 605, Vx.xx,60-1059 - 01↵ Thur, 17 February 2012 11:27:33 ↵ ↵ © Copyright 2012, Extron Electronics, DVS 605, Vx.xx,60-1059 - 01↵ Thur, 17 February 2012 11:27:33 ↵
TCP/IP または Telnet 経由で IP Link に接続した場合は、この著作権メッセージが表示されます。Vx.xx はファームウェアバージョン番号です。現在の日付と時間が表示されます。パスワードが設定されている場合は、この後にパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

プログラミングガイド

パスワード情報

Password: プロンプトは、アドミニストレーターまたはユーザーのパスワードと、その後キャリッジリターンを必要とします。正しいパスワードが入力されるまで、入力を求めるプロンプトが繰り返し表示されます。

正しいパスワードが入力されると、入力されたパスワードのレベルによって「↵ Login Administrator ↵」または「↵ Login User ↵」が表示されます。ユーザーパスワードとアドミニストレーターパスワードが同じ場合、ユーザーでログインしてもアドミニストレーターと同じ権限が与えられます。

エラーレスポンス

DVS 605 は、受け取った SIS コマンドが有効だと判断するとコマンドを実行し、ホストにレスポンスを送ります。コマンドが無効であったり、または不正なパラメーターを含むために、DVS 605 がコマンドを実行できない場合は、ホストにエラーレスポンスを返します。

E01 - 無効な入力番号
E06 - このモードに無効なスイッチの試み
E10 - 無効なコマンド
E11 - 無効なプリセット番号
E12 - 無効なポート番号
E13 - 無効なパラメーター
E14 - 無効なコマンド
E17 - 信号フォーマットに対し無効なコマンド
E22 - ビジー
E24 - 権限違反
E25 - デバイスが存在しない
E26 - 接続可能な数を上回っている
E28 - 不正なファイル名、またはファイルが見つからない

エラーレスポンスについての参考情報

14 = 現在のDVS605の構成状態ではそのコマンドをサポートしていない場合に E14（構成上、無効なコマンド）レスポンスを返します。

24 = アドミニストレーター権限でログインしていない場合、E24 (権限違反) を返すコマンド

28 = 指定されたファイルが見つからない、または不正なファイル名の場合、E28（ファイルが見つからない）エラーを返します。

コマンドとレスポンス

コマンド/レスポンス表を使用する

表ではホストに返されるレスポンス、コマンドの機能、またはその結果についての説明と ASCII（テルネット）またはURLエンコード（ウェブ）による例が記述されています。

メモ 特に記載されている場合を除き、入力の大文字小文字は識別されません。

ASCII から 16 進への変換表										Esc	1B	CR	ØD	LF	ØA
ｽﾍﾟｰｽ	2Ø	!	21	“	22	#	23	$	24	%	25	&	26	‘	27
(	28	)	29	*	2A	+	2B	,	2C	-	2D	.	2E	/	2F
Ø	3Ø	1	31	2	32	3	33	4	34	5	35	6	36	7	37
8	38	9	39	:	3A	;	3B	<	3C	=	3D	>	3E	?	3F
@	4Ø	A	41	B	42	C	43	D	44	E	45	F	46	G	47
H	48	I	49	J	4A	K	4B	L	4C	M	4D	N	4E	O	4F
P	5Ø	Q	51	R	52	S	53	T	54	U	55	V	56	W	57
X	58	Y	59	Z	5A	[	5B	\	5C	]	5D	^	5E	_	5F
`	6Ø	a	61	b	62	c	63	d	64	e	65	f	66	g	67
h	68	i	69	j	6A	k	6B	l	6C	m	6D	n	6E	o	6F
p	7Ø	q	71	r	72	s	73	t	74	u	75	v	76	w	77
x	78	y	79	z	7A	{	7B	|	7C	}	7D	~	7E	DEL	7F

図 4-1　ASCII コマンドの 16 進数による表

記号の定義

• ＝　スペース

↵ ＝ キャリッジリターン / ラインフィード

| または← ＝ キー キャリッジリターン（ラインフィードなし）

Esc またはW ＝ エスケープキー

14, 24, 28 = コマンドが正しく入力されなかったり、不正なパラメーターが入力された時、上付き数字のエラーコードが返されます。詳細は前頁を参照してください。

X1 ＝ 1 から 5 の入力選択 - 0 は現在の入力（入力設定のみ有効）で、PIPが無効の場合はメイン、有効の時はPIPとなります。

X2 ＝ 出力選択
0 = すべての出力（デフォルト）
1 = アナログ（VGA、YUVp、HDTV）
2 = HDMI
3 = 3G/HD-SDI
4 = 無し

X3 ＝ 入力ビデオフォーマット
0 = 検出された信号なし（X1*\または「I」などの、入力フォーマットの問い合わせに対するレスポンスの場合のみ）
1 = RGB
2 = YUV オート
3 = RGBcvS
4 = Sビデオ
5 = コンポジットビデオ
6 = DVI/HDMI（入力 3 、4 、5 のみ有効）
7 = 自動検出（入力 1 と 2 のデフォルト）

X4 ＝ 水平/垂直開始位置 — 0 から 255（デフォルトの位置は 128）

X5 ＝ ピクセル位相 — 0 から 63（デフォルトは 31）

X6 ＝ トータルピクセル — デフォルト値 ±512

X7 ＝ アクティブピクセル — デフォルト値 ±512

X8 ＝ アクティブライン — デフォルト値 ±512

X9 ＝ 有効/無効　0 = オフ/無効　1 = オン/有効

X10 ＝ 入力の信号規格：
0 = 信号無し　　3 = NTSC 4.43
1 = NTSC 3.85　　4 = SECAM
2 = PAL
- = N/A（入力がRGB、NTSC/PAL以外のYUVオート または、HDMI信号の場合のレスポンス）

X11 ＝ 内部温度（℃）

X12 ＝ ユニット名は、アルファベット（A〜Z）、数字（0〜9）、およびマイナス記号/ハイフン（ - ）が使用可能、最長24文字の文字列。最初の文字はアルファベット文字である必要があります。最後の文字をマイナスにすることはできません。ブランクまたはスペース文字は使用できません。また、大文字と小文字は区別されません。

X13 ＝ 水平/垂直周波数（先行 0 の 3 桁と小数点 - 例：075.3）

X14 ＝ テキストラベル/プリセット名。最長16文字まで。

メモ　名前無しに保存されたユーザープリセットおよび入力プリセットは、デフォルト名の「User Preset xx」(例えば、User preset 12) または「Input preset xxx」(例えば、input preset 122) で保存されます。

X15 ＝ 画質調整 - 0 から127（デフォルトは64）

X16 ＝ 水平/垂直位置（±11000 で先頭に「+」または「-」、例：-02040）

X17 ＝水平と垂直のサイズ：(0から1100)

X18 ＝映像/ウィンドウ番号： 1 はメインウィンドウ、2 はPIPウィンドウ

X19 ＝ スケーラーの解像度/EDIDエミュレーション：

0 = 自動：出力解像度の設定に一致。(EDIDエミュレーションのデフォルト値)LCDにはMatch Outputと表示されます。

1 = 出力1(アナログVGAコネクター — SaveおよびExport EDIDのコマンドのみに使用できます)

2 = 出力2 (HDMIコネクター — SaveおよびExport EDIDのコマンドのみに使用できます)

3 = カスタムEDI/出力レート1

4 = カスタムEDI/出力レート2

5 = カスタムEDI/出力レート3

6 = カスタムEDI/出力レート4

7 = カスタムEDI/出力レート5

10 から 92までは下記の表を参照

EDID用SIS変数 X19 の解像度とリフレッシュレートの組み合わせ(X19 は10から92まで)

解像度	23.98 Hz	24 Hz	25 Hz	29.97 Hz	30 Hz	50 Hz	59.94 Hz	60 Hz	75 Hz
640x480						10		11	12
800x600						13		14	15
852x480						16		17	18
1024x768						19		20	21
1024x852						22		23	24
1024x1024						25		26	27
1280x768						28		29	30
1280x800						31		32	33
1280x1024						34		35	36
1360x765						37		38	39
1360x768						40		41	42
1365x768						43		44	45
1366x768						46		47	48
1365x1024						49		50	51
1440x900						52		53	54
1400x1050						55		56	
1600x900						57		58	
1680x1050						59		60	
1600x1200						61		62	
1920x1200						63		64	
480p							65	66	
576p						67			
720p			68	69	70	71	72	**73***	
1080i						74	75	76	
1080p	77	78	79	80	81	82	83	84	
2048x1080 2k	85	86	87	88	89	90	91	92	

＊デフォルトの出力解像度

図 4-2 EDIDのSIS コマンド表

X20 ＝ テストパターンの種類

0 = オフ(デフォルト)

1 = クロップ

2 = 交互ピクセル

3 = 交互ライン

4 = クロスハッチ

5 = 4x4 クロスハッチ

6 = カラーバー

7 = グレースケール

8 = ランプ

9 = 白画面

10 = アスペクトレシオ 1.33

11 = アスペクトレシオ 1.78

12 = アスペクトレシオ 1.85

13 = アスペクトレシオ 2.35

14 = ブルーモード

X21 = アナログ出力極性
0 = H-/V- (デフォルト)
1 = H-/V+
2 = H+/V-
3 = H+/V+

X22 = アナログ出力同期フォーマット
0 = RGBHV(デフォルト)
1 = RGBS
2 = RGsB
3 = Y、R-Y、B-Y　2 値シンク
4 = Y、R-Y、B-Y　3 値シンク

X23 = ユーザープリセットまたはPIPプリセット – 1から16まで

X24 = 入力プリセット – 1から128まで

X25 = オンスクリーンメニューのタイムアウトまたはスクリーンセーバーのタイムアウト、(デフォルト = 3秒)/出力同期のタイムアウト (デフォルト = 501 - タイムアウトなし)。0 = OSDは非表示/入力が検出されなくなった場合、映像出力はすぐに遮断。1から500まで1秒ずつ増加します。501 = OSDはタイムアウトせず常に表示/出力は遮断されません。

X26 = Executiveモードのステータス
0 = オフ/無効、(デフォルト)
1 = Executiveモード1 — フロントパネルの完全なロックアウト
2 = Executiveモード2 — フロントパネルの部分的なロックアウト(入力選択、オートイメージ、およびPIP/スワップは使用可能)

X27 = PIPウィンドウ入力選択: 0から4 (0 = オフ)。(入力5はPIPモードには使用できません。)

X28 = オーバースキャン(SMPTE [NTSC、PAL、480p、576p、720p、1080i、1080p] 入力レートに適用):
0 = 0.0% (RGB/HDMI用のデフォルト)、
1 = 2.5% (YUV、RGBcvS、Sビデオ、コンポジット用のデフォルト)

X29 = アスペクトレシオ
1 = Fill: 自動的に出力画面全体に表示します(デフォルト)。
2 = Follow: 各入力のアスペクトレシオで表示されます。

X30 = スクリーンセーバーモード
1 = 黒の画面(デフォルト)
2 = OSDテキストと青画面

X31 = ビデオミュート
0 = オフ/無効
1 = オン/有効(黒画面)
2 = 出力同期およびビデオをミュート

X32 = オートイメージのしきい値
0 (黒) から100 (白)、デフォルト = 25

X33 = HDCPステータス(HDMI/DVI出力でのみ有効)
0 = シンクまたはソースが検出されない
1 = HDCP有りのシンクまたはソースを検出
2 = HDCP無しのシンクまたはソースを検出

X35 = ビデオの切り替えにかかる時間: 2 (0.2秒)から50 (5.0秒)。デフォルト値は3または0.3秒

X36 = HDMI出力フォーマット
0 = 自動(シンクEDIDが基準)、デフォルト
1 = DVI
2 = HDMI 444 RGB (0から255、オーディオ、インフォフレーム)
3 = HDMI 444 YUV “FULL” (0から255、オーディオ、インフォフレーム)
4 = HDMI 444 YUV “LIMITED” (16から235、オーディオ、インフォフレーム)
5 = HDMI 422 YUV “FULL” (0から255、オーディオ、インフォフレーム)
6 = HDMI 422 YUV “LIMITED” (16から235、オーディオ、インフォフレーム)

X37 = オートスイッチング
0 = 無効 (デフォルト)
1 = 番号が大きい入力を優先、
2 = 番号が小さい入力を優先

X38 = オーディオレベル: -100 dBから0 dBまで、1.0 dBずつ増加。デフォルト = -30 dB、
0 = 0 dB（最大値）

X39 = オーディオ出力フォーマット:
1 = デュアルモノ
2 = ステレオ（デフォルト）

X40 = オーディオゲイン/減衰: -53から+ 09 dB、（先頭に「+」または「–」）

X41 = オーディオソース:
0 = メインウィンドウのオーディオ
1 = PIPウィンドウのオーディオ
2 = ソースを切り替える

X42 = オーディオ入力の種類:
0 = なし：入力ミュート（EDIDにCEAエクステンションを含まず）
1 = アナログ：5ピンミニターミナルブロック（EDIDにCEAエクステンションを含まず）
2 = 2チャンネルデジタル：HDMIにエンベディッド、（EDIDでは2チャンネルPCMオーディオをリクエスト）
3 = フルデジタル（EDIDでは任意のデジタルオーディオフォーマットを許可）
4 = 2チャンネルオート（EDIDでは2チャンネルPCMオーディオをリクエスト）、エンベディッドデジタルオーディオがある場合にはそれを使用します。ない場合には、デフォルトで入力のアナログ5ピンミニターミナルブロック入力を使用します。
5 = フルオート（EDIDでは任意のデジタルオーディオフォーマットを許可）。エンベディッドデジタルオーディオがある場合にはそれを使用します。ない場合には、アナログ5ピンミニターミナルブロック入力を使用します。

メモ
- 入力1および2はX42 = 0 (すべてのモデル) または1 (オーディオ対応モデル) にしか設定できません。これらの入力を他のフォーマットに設定しようとすると、「E14」エラーメッセージが表示されます。
- DVS 605のオーディオ非応のモデルでは、X42 = 0 を入力1および2に、また、X42 = 0、2、または3を入力3、4、および5に設定できます。

X43 = オーディオの遅延、0から255ミリ秒（デフォルトは0）

メモ ここで設定する遅延は、ビデオの内部処理による遅延を補正するための自動オーディオ遅延に追加して遅延が加えられます。

X44 = ビデオ信号ステータス
0 = ビデオ/ TMDS信号を非検出
1 = ビデオ/ TMDS信号を検出

X45 = 節電モード
0 = フルパワーモード（デフォルト）
1 = 低電力状態

X46 = スクリーンセーバーのステータス
0 = 有効な入力を検出中。タイマーは停止中。
1 = 入力信号なし。タイマーはカウント中、信号は出力中。
2 = 入力信号なし。タイマーの設定時間終了。同期出力は遮断。

X47 =ゲンロック/AFL
0 = オフ、（デフォルト）
1 = AFL(入力信号ゲンロック) オン。選択された入力の同期信号にロックします。
2 = SDIゲンロックにオン。ゲンロック入力にロックします（「D」モデルのみ）。

X48 = 入力信号/ゲンロックステータス
0 = 入力信号/SDIゲンロック無効
1 = 入力信号/SDIゲンロックは有効ですが、適用された入力信号/SDIゲンロック入力にロックできません。DVSはデフォルトで出力レート/リフレッシュを設定します。
2 = 入力信号/SDIゲンロックは有効です。出力は適用された入力信号/SDIゲンロック入力にロックされています。

X49 = 入力HDCP HDMI認証ステータス:
0 = HDCP認証オフ
1 = HDCP認証オン（入力3、4、および5はオンがデフォルト）

X50 = 水平ゲンロックオフセット:
設定可能な範囲は±（総水平ピクセル数 -1）。1080pの場合、総水平ピクセル数は2200なので -219～+2199の範囲。

X51 = 垂直ゲンロックオフセット:
設定可能な範囲は±（総ライン数 -1）。1080pの場合、総ライン数は1125なので -1124～+1124の範囲。

SIS IPコマンドの定義

X100 = デフォルト名: モデル名とMACアドレスの最後の3対の16進数の組み合わせ(例: DVS-605-Series - 07-8C-EC)。

X104 = オン/オフのステータス: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効

X106 = ユニット名。アルファベット(A〜Z)、数字(0〜9)、およびマイナス記号/ハイフン(-)が使用可能、最長24文字の文字列。最初の文字はアルファベット文字である必要があります。最後の文字をマイナス にすることはできません。ブランクまたはスペース文字は使用できません。また、大文字と小文字は区別されません。

X107 = 日付と時刻。設定時のフォーマットはMM/DD/YY-HH:MM:SSです。
例: 06/21/02-10:54:00。読み取りフォーマットは曜日、日、月、年 (HH:MM:SS)です。
例: Thu, 20 Feb 2003 (18:19:33)

X108 = = IPアドレス(xxx.xxx.xxx.xxx)。設定時、先行ゼロは任意で、戻り値では省略されます。

メモ DHCPはデフォルトで無効です。デフォルトのIPアドレスは、192.168.254.254です。

X109 = ハードウェア (MAC)アドレス(00-05-A6-xx-xx-xx)。

X110 = サブネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx)。設定時、先行のゼロは任意で、戻り値では省略されます。デフォルトサブネットマスク = 255.255.0.0

X111 = 詳細表示モード (デフォルト: テルネット接続時=0　RS-232およびUSB接続時=1)
0 = 消去/なし
1 = 詳細表示モード
2 = 問い合わせに対するタグ付き応答
3 = 問い合わせに対する詳細表示モードとタグ付き応答。

メモ タグ付きレスポンスが有効な場合、値を設定する際と同様に、文字列 + データをレスポンスとして返します。例:コマンド: Esc CN ← レスポンス: Ipn ● X106↵

X121 = パスワード(最長 1 2 文字、特殊文字は使用できません。)

メモ アドミニストレーターパスワードが未設定の場合、ユーザーパスワードを割り当てようとするとE14エラーコードが返されます。アドミニストレーターパスワードが消去すると、ユーザーパスワードも削除されます。

X125 = 　接続セキュリティレベル:
0 = 匿名、1から10 = 拡張セキュリティレベル1から10
11 = ユーザー、12 = アドミニストレーター

X127 = IP接続でタイムアウトするまでの秒数: 最低 = 1、最大 = 65000、(デフォルト = 30 = 300秒)。タイムアウト期間にデータが受信されない場合、イーサーネット接続は切断されます。増分単位 = 10秒。イーサーネット経由で接続している場合にのみ適用されます。

X131 = ファームウェア問い合わせ (「Q」コマンド)
*Q = ファームウェアおよびビルド番号 [<X.YY.ZZZZ>]
0Q =ファームウエアバージョン詳細表示 [<2Q> - <3Q> - < 4Q>]下記2Q、3Q、4Qに対する応答を並べて表示
1Q = ファームウェアバージョン [<現在実行中のコード (X.YY)>]
2Q = 最終ステージブートローダー (Uboot) バージョン [<X.YY>]
3Q = 工場出荷時のコードバージョン [< 工場出荷時のコード (X.YY)>*<カーネルバージョン (X.YY) – 説明 – アップロードした日付>]
4Q = アップデートしたファームウェアバージョン [<アップデートしたコードバージョン (X.YY)>* <カーネルバージョン (X.YY) – 説明 – ロードした日付>]

メモ 3Qおよび4Qの場合、バージョン番号の後のアスタリスク「*」はどのバージョンが実行中であるかを示します。疑問符 (?.??) は、工場出荷時のファームウェアバージョンのみがアップロードされていることを示します。カレット記号 (^) は実行中であるべきのファームウェアバージョンを示しますが、モード1リセットが実行されたため、デフォルトのファームウェアがアップロードされていることを示します。感嘆符 (!) は破損したファームウェアを示します。[例: 1.03*(1.42-DVS 605 -Thur, 21 Apr 2012 22:30:57 GMT).]

プログラミングガイド

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
入力選択			
ビデオとオーディオ	X1!	In X1 •All ↵	入力ソース X1 からビデオとオーディオを選択します。
ビデオ	X1&	In X1•RGB ↵	入力ソース X1 からビデオを選択します。
オーディオ	X1$	In X1•Aud ↵	入力ソース X1 からオーディオを選択します。
ビデオ入力を表示する	&	X1↵	現在のビデオ(ビデオの非連動)入力 X1 を表示します。
オーディオ入力を表示する	$	X1↵	現在のオーディオ(オーディオの非連動)入力 X1 を表示します。
現在の入力を表示する	!	X1↵	現在選択されている入力 X1 を表示します。(ビデオのみ)

メモ 詳細については、5章4ページの「オーディオの ブレイクアウェイ (非連動)について」を参照してください。

- オーディオの非連動 ($) は、デジタルオーディオが選択されている入力に対しては使用できません。
- ビデオの非連動(&) はデジタルオーディオが選択されている入力に対しては使用できません。
- これらの無効なコマンドを送信すると、E17エラーが発生します。
- オーディオの非連動は現在のビデオ入力に戻す場合には常に使用できます。
- PIPモードでは、オーディオブレイクアウェイはサポートされていません。オーディオはメインウィンドウまたはPIPウィンドウのいずれかに準拠し、SISコマンドを使用して選択できます。

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
入力ビデオのフォーマット			
ビデオフォーマットを設定する	X1*X3\	Typ X1*X3 ↵	入力X1をフォーマットX3に設定します。
設定されたフォーマットを表示する	X1\	X3↵	入力X1に設定されたビデオフォーマットを表示します。
検出されたフォーマットを表示する	X1*\	X3↵ VTyp X1*X3 ↵	入力X1から自動検出されたビデオフォーマットを表示します。
入力EDID(VGAおよびHDMI)			
EDIDを入力に割り当てる	Esc A X1*X19 EDID←	Edid A X1 *X19 ↵	X19に割り当てられているEDID情報を表示します。
割り当て済みのEDIDデータを表示	Esc A X1*EDID←	X19 ↵ Edid A X1 *X19 ↵	X1て済みのEDID解像度およびリフレッシュレートX19を入力X1用に表示します。 詳細表示モード時のレスポンス
出力EDIDをカスタムスロットへ取り込む	Esc S X2*X19 EDID←	Edid S X2 *X19 ↵	出力X2EDIDをX19へ取り込みます。(X19 = 3、4、5、6、7のみ、およびX2 =1または2のみの場合に有効。)
EDIDファイルをエクスポート	Esc E X19,<ファイル名>EDID←	Edid E X19 ↵	EDID X19を <ファイル名>をつけてエクスポートします。
EDIDファイルをインポート	Esc I X19,<ファイル名>EDID←	Edid I X19 ↵	EDID X19を<ファイル>からインポートします。 インポートはX19= 3、4、5、6、7の場合に有効です。

メモ <ファイル名> EDIDファイルは128バイトまたは256バイトのバイナリーデータで、拡張子は「bin」です。デフォルトのEDID (X19の値が10以上の場合)をエクスポートすると、「2CH Digital」のテーブルがエクスポートされます。

メモ
X1 = 入力選択: 1から5
X2 = 出力選択: 0 = すべての出力 (デフォルト)、1 = アナログ (VGA、YUVp、HDTV)、2 = HDMI、3 = 3G/HD-SDI、4 = なし
X3 = ビデオ入力の信号フォーマット: 0 = 検出された信号なし、1 = RGB、2 = YUV自動、3 = RGBcvS、4 = Sビデオ、5 = コンポジット、6 = DVI/HDMI (入力3、4、および5のみに使用可能)、7 = 自動検出 (入力1および2用のデフォルト)
X19 = スケーラー解像度/EDIDエミュレーション、0 = 自動: 現在の出力解像度と一致 (デフォルト)、1 = 出力1アナログVGAコネクター、2 = 出力2 HDMIコネクター、3 = カスタムEDID/出力レート1、4 = カスタムEDID/出力レート2、5 = カスタムEDID/出力レート3、6 = カスタムEDID/出力レート4、7 = カスタムEDID/出力レート5
変数10～78については、4章4ページのSIS EDIDテーブルを参照してください。

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
入力名			
入力名を書き込む	Esc X1,X14 NI ←	Nmi X1,X14 ↵	入力X1に名前X14を設定します。
入力名を読み出す	Esc X1 NI ←	X14 ↵	入力X1の名前X14を表示します。
メモ 入力名を消去するには、シングルスペース文字をX14に入力します。これにより、入力名がデフォルト値にリセットされます。			
オートイメージ			
オートイメージを有効にする	X1 *1A	ImgX1*1↵	入力X1に対してオートイメージを実行します。
オートイメージを無効にする	X1 *0A	ImgX1*0↵	入力X1のオートイメージをオフにします。
オートイメージを表示する	X1 A	X9 ↵	オートイメージ設定を表示します。(0 = オン、1 = オフ)。
オートイメージを実行する	0*A	Img0 ↵	選択した入力に対してオートイメージを実行します。(現在のアスペクトレシオ設定に準拠)
オートイメージを実行/Fill	1*A	Img1 ↵	オートイメージを実行して、出力をFillモードにします。
オートイメージを実行/Follow	2*A	Img2 ↵	オートイメージを実行して、Followモードで出力します。
オートイメージのしきい値(オートイメージが実行可能な有効な入力と判定するためのしきい値)			
しきい値を設定する	Esc X32 ALVL ←	Alvl X32 ↵	しきい値(明度)X32を設定します。
しきいの値を表示する	X32 ALVL ←	X32 ↵	しきい値(明度)X32を表示します。
水平の開始位置			
開始位置の値を指定する	Esc X1*X4 HSRT ←	Hsrt X1*X4 ↵	入力X1の最初のアクティブピクセルの水平位置を設定します。
開始位置の値を増加する	Esc X1+HSRT ←	Hsrt X1*X4 ↵	水平の開始位置の値を増加します。
開始位置の値を減少する	Esc X1-HSRT ←	Hsrt X1*X4 ↵	水平の開始位置の値を減少します。
開始位置を表示する	Esc X1 HSRT ←	X4 ↵	入力X1の最初のアクティブピクセルの水平位置を表示します。
垂直の開始位置			
開始位置の値を指定する	Esc X1*X4 VSRT ←	Vsrt X1*X4 ↵	入力X1の最初のアクティブピクセルの垂直位置を設定します。
開始位置の値を増加する	Esc X1+VSRT ←	Vsrt X1*X4 ↵	垂直の開始位置の値を増加します。
開始位置の値を減少する	Esc X1-VSRT ←	Vsrt X1*X4 ↵	垂直の開始位置の値を減少します。
開始位置を表示する	Esc X1 VSRT	X4 ↵	入力X1の最初のアクティブピクセルの垂直位置を表示します。

メモ
X1 = 入力選択: 1から5
X4 = 水平/垂直開始位置: 0から255(デフォルトの中心点=128)
X9 = 有効/無効: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効
X14 = テキストラベル/プリセット名: 16 文字まで
X32 = オートイメージしきい値: 0(黒)から100(白)、デフォルト値= 25

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表(続き)

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
ピクセル位相(RGBおよびYUVの自動入力信号のみに適用可能)			
位相値を指定する	Esc X1 * X5 PHAS ←	Phas X1 * X5 ↵	入力X1のピクセル位相を指定した値X5に合わせます。
位相値を増加する	Esc X1 +PHAS ←	Phas X1 * X5 ↵	位相値を上げます。
位相値を減少する	Esc X1 -PHAS ←	Phas X1 * X5 ↵	位相値を下げます。
位相値を表示する	Esc X1 PHAS ←	X5 ↵	入力X1の位相値を表示します。
ピクセルの合計(RGBおよびYUVの自動入力信号のみに適用可能)			
合計値を指定する	Esc X1 * X6 TPIX ←	Tpix X1 * X6 ↵	入力X1のトータルピクセルを指定した値X6に合わせます。
合計値を増加する	Esc X1 +TPIX ←	Tpix X1 * X6 ↵	トータルピクセルの値を上げます。
合計値を減少する	Esc X1 -TPIX ←	Tpix X1 * X6 ↵	トータルピクセルの値を下げます。
合計値を表示する	Esc X1 TPIX ←	X6 ↵	入力X1のピクセルの合計値を表示します。
アクティブピクセル			
ピクセル数を指定する	Esc X1 * X7 APIX ←	Apix X1 * X7 ↵	入力X1のアクティブピクセル数を指定した値X7に合わせます。
ピクセル数を増加する	Esc X1 +APIX ←	Apix X1 * X7 ↵	アクティブピクセル数を上げます。
ピクセル数を減少する	Esc X1 -APIX ←	Apix X1 * X7 ↵	アクティブピクセル数を下げます。
ピクセル数を表示する	Esc X1 APIX ←	X7 ↵	入力X1のアクティブピクセル数を表示します。
アクティブライン			
アクティブライン数を指定する	Esc X1 * X8 ALIN ←	Alin X1 * X8 ↵	入力X1のアクティブライン数を指定した値X8に合わせます。
アクティブライン数を増加する	Esc X1 +ALIN ←	Alin X1 * X8 ↵	アクティブライン数を上げます。
アクティブライン数を減少する	Esc X1 -ALIN ←	Alin X1 * X8 ↵	アクティブライン数を下げます。
アクティブライン数を表示する	Esc X1 ALIN ←	X8 ↵	入力X1のアクティブライン数を表示します。
3:2、2:2、および 24:1 フィルムモード自動検出			
フィルムモードの自動検出を有効にする	Esc X1 *1FILM ←	Film X1 *1 ↵	フィルムモードの自動検出をオンにします。
フィルムモードの自動検出を無効にする	Esc X1 *0FILM ←	Film X1 *0 ↵	フィルムモードの自動検出をオフにします。
フィルムモードの自動検出の設定を表示する	Esc X1 FILM ←	X9 ↵	フィルムモードの自動検出の設定を表示します。

メモ

X1 = 入力選択: 1から5
X5 = ピクセル位相: 0から63(デフォルト=31)
X6 = トータルピクセル:デフォルト値の±512
X7 = アクティブピクセル:デフォルト値の±512
X8 = アクティブライン:デフォルト値の±512
X9 = 自動検出/オフ:0=オフ/無効、1=オン/有効

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
画質調整			
ビデオのミュート			
すべてのビデオ出力を黒にミュートする	1B	Vmt 1↵	すべてのビデオ出力を黒にミュートします。
すべての同期とビデオをミュートする	2B	Vmt 2↵	すべての出力の同期とビデオをミュートします。
すべての出力のミュートを解除する	0B	Vmt 0↵	すべての出力のミュートを解除します。
ミュートを表示する	B	X31↵	ミュート状態を表示します。(0＝無効、1＝有効 - 黒にミュート、2＝出力同期とビデオをミュート)
カラー			
カラー値を指定する	Esc X1 * X15 COLR ←	Colr X1 * X15 ↵	入力X1のカラー値をX15のレベルに設定します。
カラー値を増加する	Esc X1 + COLR ←	Colr X1 * X15 ↵	色を濃くします。
カラー値を減少する	Esc X1 - COLR ←	Colr X1 * X15 ↵	色を薄くします。
カラー値を表示する	Esc X1 COLR ←	X15↵	現在設定されている入力X1のカラー値を表示します。
ティント(色相)			
ティント値を指定する	Esc X1 * X15 TINT ←	Tint X1 * X15 ↵	入力X1のティント値をX15のレベルに設定します。
ティント値を増加する	Esc X1 + TINT ←	Tint X1 * X15 ↵	ティント値を上げます。
ティント値を減少する	Esc X1 - TINT ←	Tint X1 * X15 ↵	ティント値を下げます。
ティント値を表示する	Esc X1 TINT ←	X15↵	現在設定されている入力X1のティント値を表示します。
コントラスト			
コントラスト値を指定する	Esc X1 * X15 CONT ←	Cont X1 * X15 ↵	入力X1のコントラスト値をX15のレベルに設定します。
コントラスト値を増加する	Esc X1 + CONT ←	Cont X1 * X15 ↵	コントラスト値を上げます。
コントラスト値を減少する	Esc X1 - CONT ←	Cont X1 * X15 ↵	コントラスト値を下げます。
コントラスト値を表示する	Esc X1 CONT ←	X15 ↵	現在設定されている入力X1のコントラスト値を表示します。
ブライトネス(輝度)			
ブライトネス値を指定する	Esc X1 * X15 BRIT ←	Brit X1 * X15 ↵	入力X1のブライトネス値をX15のレベルに設定します。
ブライトネス値を増加する	Esc X1 + BRIT ←	Brit X1 * X15 ↵	ブライトネス値を上げます。
ブライトネス値を減少する	Esc X1 - BRIT ←	Brit X1 * X15 ↵	ブライトネス値を下げます。
ブライトネス値を表示する	Esc X1 BRIT ←	X15 ↵	現在設定されている入力X1のブライトネス値を表示します。

メモ
X1 = 入力選択: 1から5
X15 = 画質調整: 0から127(デフォルト=64)
X31 = ビデオミュート:0＝オフ/無効、1＝オン/有効(黒にミュート)、2＝出力同期とビデオをミュート

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表（続き）

コマンド	ASCII コマンド （PCからスケーラーへ）	レスポンス （スケーラーからPCへ）	説明
ディテールフィルター			
ディテールフィルター値を設定する	[Esc][X1]*[X15]HDET ←	Hdet [X1]*[X15] ↵	入力[X1]のディテールフィルター値を[X15]のレベルに設定します。
ディテールフィルター値を増加する	[Esc][X1]+HDET ←	Hdet [X1]*[X15] ↵	ディテールフィルター値を上げます。
ディテールフィルター値を減少する	[Esc][X1]-HDET ←	Hdet [X1]*[X15] ↵	ディテールフィルター値を下げます。
ディテールフィルター値を表示する	[Esc][X1]HDET ←	[X15] ↵	設定されている入力[X1]のディテール値を表示します。
ウインドウの水平位置			
水平位置の値を設定する	[Esc]1*[X18]*[X16]HCTR ←	Hctr1*[X18]*[X16] ↵	ウインドウ[X18]の水平位置の値を[X16]に設定します。
水平位置の値を上げます。	[Esc]1*[X18]+HCTR ←	Hctr1*[X18]*[X16] ↵	ウインドウ位置を右にシフトします。
水平位置の値を下げます。	[Esc]1*[X18]-HCTR ←	Hctr1*[X18]*[X16] ↵	ウインドウ位置を左にシフトします。
水平位置の値を表示する	[Esc]1*[X18]HCTR ←	[X16] ↵	水平位置の値[X16]を画面[X18]に表示します。
ウインドウの垂直位置			
垂直位置の値を設定する	[Esc]1*[X18]*[X16]VCTR ←	Vctr1*[X18]*[X16] ↵	ウィンドウ[X18]の垂直位置の値を[X16]に設定します。
垂直位置を上げます。	[Esc]1*[X18]+VCTR ←	Vctr1*[X18]*[X16] ↵	ウインドウ位置を下にシフトします。
垂直位置を下げます。	[Esc]1*[X18]-VCTR ←	Vctr1*[X18]*[X16] ↵	ウインドウ位置を上にシフトします。
垂直位置の値を表示する	[Esc]1*[X18]VCTR ←	[X16] ↵	垂直位置の値[X16]を画面[X18]に表示します。
ウインドウの水平サイズ			
水平サイズの値を設定する	[Esc]1*[X18]*[X17]HSIZ ←	Hsiz1*[X18]*[X17] ↵	ウィンドウ[X18]の水平サイズの値を[X17]に設定します。
水平サイズを広げる	[Esc]1*[X18]+HSIZ ←	Hsiz1*[X18]*[X17] ↵	ウインドウサイズを横に広げます。
水平サイズを狭くする	[Esc]1*[X18]-HSIZ ←	Hsiz1*[X18]*[X17] ↵	ウインドウサイズの横を縮めます。
水平サイズの値を表示する	[Esc]1*[X18]HSIZ ←	[X17] ↵	水平位置の値[X17]を画面[X18]に表示します。
ウインドウの垂直サイズ			
垂直サイズの値を設定する	[Esc]1*[X18]*[X17]VSIZ ←	Vsiz1*[X18]*[X17] ↵	ウィンドウ[X18]の垂直サイズの値を[X17]に設定します。
垂直サイズを広げる	[Esc]1*[X18]+VSIZ ←	Vsiz1*[X18]*[X17] ↵	ウインドウサイズを縦に広げます。
垂直サイズを短くする	[Esc]1*[X18]-VSIZ ←	Vsiz1*[X18]*[X17] ↵	ウインドウサイズの縦を縮めます。
垂直サイズの値を表示する	[Esc]1*[X18]VSIZ ←	[X17] ↵	垂直サイズの値[X17]を画面[X18]に表示します。
映像の水平位置			
水平位置の値を設定する	[Esc]2*[X18]*[X16]HCTR ←	Hctr 2*[X18]*[X16] ↵	ウィンドウ[X18]に表示されている映像の水平位置の値を[X16]に設定します。
水平位置の値を上げます。	[Esc]2*[X18]+HCTR ←	Hctr 2*[X18]*[X16] ↵	映像を右にシフトします。
水平位置の値を下げます。	[Esc]2*[X18]-HCTR ←	Hctr 2*[X18]*[X16] ↵	映像を左にシフトします。
水平位置の値を表示する	[Esc]2*[X18]HCTR ←	[X16] ↵	ウィンドウ[X18]に表示されている映像の水平位置の値[X16]を表示します。

メモ
[X1] = 入力選択: 1から5
[X16] = 水平と垂直の位置: ±11000で、先行に「+」または「−」が付きます。例:02040
[X17] = 水平と垂直のサイズ:0 から11000 = 現在の構成
[X18] = 画像/画面番号:1= メインウインドウ、2=PIPウインドウ

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
映像の垂直位置			
垂直位置の値を設定する	Esc 2*X18*X16 VCTR ←	Vctr2*X18 *X16 ↵	ウインドウX18に表示されている映像の垂直位置の値をX16に設定します。
垂直位置を上げます。	Esc 2*X18 +VCTR ←	Vctr2*X18 *X16 ↵	映像を下にシフトします。
垂直位置を下げます。	Esc 2*X18 - VCTR ←	Vctr2*X18 *X16 ↵	映像を上にシフトします。
垂直位置の値を表示する	Esc 2*X18 VCTR ←	X16 ↵	ウインドウX18に表示されている映像の垂直位置の値X16を表示します。
映像の水平サイズ			
水平サイズの値を設定する	Esc 2*X18*X17 HSIZ ←	Hsiz2*X18 *X17 ↵	ウインドウX18に表示されている映像の水平サイズの値をX17に設定します。
水平サイズを広げる	Esc 2*X18 +HSIZ ←	Hsiz2*X18 *X17 ↵	映像を横に広げます。
水平サイズを狭くする	Esc 2*X18 - HSIZ ←	Hsiz2*X18 *X17 ↵	映像の縦を縮めます。
水平サイズの値を表示する	Esc 2*X18 HSIZ ←	X17 ↵	ウインドウX18に表示されている映像の水平サイズの値X17を表示します。
映像の垂直サイズ			
垂直サイズの値を設定する	Esc 2*X18*X17 VSIZ ←	Vsiz2*X18 *X17 ↵	ウインドウX18に表示されている映像の垂直サイズの値をX17に設定します。
垂直サイズを伸ばす	Esc 2*X18 +VSIZ ←	Vsiz2*X18 *X17 ↵	映像を縦に伸ばします。
垂直サイズを短くする	Esc 2*X18 - VSIZ ←	Vsiz2*X18 *X17 ↵	映像の縦を縮めます。
垂直サイズの値を表示する	Esc 2*X18 VSIZ ←	X17 ↵	ウインドウX18に表示されている映像の垂直サイズの値X17を表示します。
出力の設定			
スケーラーの出カレート			
出カレートを設定する	Esc X19 RATE ←	Rate X19 ↵	出力の解像度とリフレッシュレートを選択します。
出カレートを表示する	Esc RATE ←	X19 ↵	選択された出カレートを表示します。
出力の極性(VGAフォーマットがRGBHVに設定されている場合のみ有効)			
極性を設定する	Esc X21 OPOL ←	Opol X21 ↵	極性をVGA RGBHV出力に設定します。
極性の設定を表示する	Esc OPOL ←	X21 ↵	現在の出力の極性を表示します。
VGA出力の同期信号フォーマット			
同期信号のフォーマットを設定する	Esc X22 OSYN ←	Osyn X22 ↵	VGA出力の同期信号のフォーマットを設定します。
同期信号の設定を表示する	Esc OSYN ←	X22 ↵	現在の出力同期信号のフォーマットを表示します。

メモ

X17 = 水平と垂直のサイズ:0 から11000
X18 = 画像/ウィンドウ番号。1 = メインウィンドウ、2 = PIPウィンドウ
X19 = スケーラー解像度/EDIDエミュレーション:
例: 1024x768/60、720p/60、1080p/60、1920x1200/60
詳細については、4章4ページのEDIDテーブルを参照してください。
X21 = 出力極性: 0 = H-/V- (デフォルト)、1 = H-/V+、2 = H+/V-、3 = H+/V+
X22 = 出力同期フォーマット: 0 = RGBHV (デフォルト)、1 = RGBS、2 = RGsB、3 = Y、R-Y、B-Y 2値シンク、4 = Y、R-Y、B-Y 3値シンク

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表（続き）

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
HDMI出力フォーマット			
出力フォーマットを設定する	Esc X36 VTPO←	Vtpo X36 ↵	HDMI 出力のカラースペース/フォーマット X36 を設定します。
設定を表示する	Esc VTPO←	X36 ↵	現在のHDMI 出力フォーマットを表示します。
節電モード			
節電モードをオフにする	Esc 0PSAV←	Psav0 ↵	DVSはフルパワーモードで稼働します (デフォルト)。
節電モードをオンにする	Esc 1PSAV←	Psav1 ↵	DVSはローパワーモードに入ります。Esc 0PSAV← コマンドを使用してのみ終了できます。
設定を表示する	Esc PSAV←	X45 ↵	節電ステータスを表示します。
スクリーンセーバーモード（入力信号が無い場合に作動）			
スクリーンセーバー画面を設定する	Esc M X30 SSAV ←	SsavM X30 ↵	スクリーンセーバー画面を X30 に設定します。(デフォルト：1＝黒)
設定状態を表示する	Esc MSSAV←	X30 ↵	現在の設定状態を表示します。
タイムアウト時間を設定する	Esc T X25 SSAV ←	SsavT X25 ↵	入力同期が無くなってからスクリーンセーバーに移行するまでの時間 (デフォルト：501＝無し)
タイムアウト時間を表示する	Esc TSSAV←	X25 ↵	タイムアウト時間 X25 を表示します。
スクリーンセーバーの状態を表示する	Esc SSSAV←	X46 ↵	X46 の内容はメモを参照。

メモ

X25 = オンスクリーンメニューのタイムアウト：(デフォルト3秒)、出力同期のタイムアウト(デフォルト=501- 無し)
0＝OSD 非表示/出力同期はアクティブな入力が無い場合は無効になります。
1から500まで、1秒ごとに増減。501=OSDはタイムアウトしない/出力同期はタイムアウトしない

X30 = スクリーンセーバー画面 1 = 黒画面(デフォルト)、2 = 青画面にOSDテキスト

X36 = HDMI出力フォーマット:
0 = 自動 (シンクEDIDをベースに)、デフォルト
1 = DVI
2 = HDMI 444 RGB (0〜255、オーディオ、InfoFrames)
3 = HDMI 444 YUV “FULL” (0〜255、オーディオ、InfoFrames)
4 = HDMI 444 YUV “LIMITED” (16〜235、オーディオ、InfoFrames)
5 = HDMI 422 YUV “FULL” (0〜255、オーディオ、InfoFrames)
6 = HDMI 422 YUV “LIMITED” (16〜235、オーディオ、InfoFrames)。
詳細については4章5ページのHDMI出力フォーマットを参照してください。

X45 = 節電モード: 0 = フルパワーモード (デフォルト)、1 = ローパワー状態

X46 = スクリーンセーバーの状態:0＝入力が検出されている:タイマーは作動していない
1= 入力なし:タイマーカウントダウン中、スクリーンセーバー画面を出力中
2＝入力無し:タイマーカウントダウン中、スクリーンセーバー画面を出力中

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
オーディオの設定			
オーディオのミュート			
オーディオをミュートする	1 Z	Amt 1↵	選択された入力をミュートします。
オーディオのミュートを解除する	0 Z	Amt 0↵	選択された音声入力のミュートを解除します。
ミュートの状態を表示する	Z	X9↵	ミュートの状態を表示します。(0＝ミュート解除、1＝ミュート、オン)
オーディオゲインと減衰（オーディオ対応モデルのみ/アナログ入力）			
オーディオゲインと減衰の値を設定する	X40 G	Aud X40 ↵	現在の入力をX40 dBのゲイン/減衰に設定します。
オーディオを増加する	+G	Aud X40 ↵	音声レベルを上げます。
オーディオを減少する	-G	Aud X40 ↵	音声レベルを下げます。
ゲインと減衰を表示する	G	X40 ↵	現在のオーディオレベルを表示します。
音量の調整（オーディオ対応モデルのみ）			
音量の値を指定する	X38 V	Vol X38 ↵	X38 の音量を設定します。
音量を増加する	+V	Vol X38 ↵	音量を上げます。
音量を減少する	-V	Vol X38 ↵	音量を下げます。
音量を表示する	V	X38 ↵	現在の音声レベルを表示します。
オーディオの遅延（すべてのモデルで使用可能）			
オーディオの遅延を設定	Esc S X43 ADLY ←	AdlyS X43 ↵	オーディオ遅延をX43ミリ秒に設定します(範囲 = 0から255ミリ秒)。
設定を表示	Esc SADLY ←	X43 ↵	オーディオの遅延(X43)をミリ秒で表示します。
オーディオ入力フォーマット			
メモ ● アナログ (5ピンミニターミナルブロック) またはデジタル (HDMI入力にエンベディッド) オーディオソース間で選択します。 ● 入力1および2 は、0または1にのみ設定できます。これらの入力をデジタルフォーマットに設定しようとすると、レスポンスとしてE14を返します。 ● デジタルオートモード (4または5) ではエンベディッドオーディオがある場合にはそれを使用し、デジタルオーディオが検出されない場合にはアナログオーディオを使用します。			
オーディオを無しに設定	Esc I X1 *0AFMT ←	AfmtI X1 *0↵	入力X1のアナログ、デジタル両方のオーディオをミュートします。
アナログに設定する	Esc I X1 *1AFMT ←	AfmtI X1 *1↵	入力X1のアナログオーディオを選択します (入力1および2のデフォルト)。
2チャンネルのデジタルに設定する	Esc I X1 *2AFMT ←	AfmtI X1 *2↵	入力X1で2チャンネルデジタルオーディオを選択します (入力3、4、および5のデフォルト)。
フルデジタルに設定する	Esc I X1 *3AFMT ←	AfmtI X1 *3↵	入力X1でフルデジタルオーディオを選択します。

メモ
X1 = 入力選択: 1から5
X9 = 有効/無効: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効
X38 = 音量の範囲: 1.0 dB づつで、0 0 0から-100 dB (デフォルト=-30 dB)、最大=0 dB、最小= -100dB
減衰とハードウェアのミュート
X40 = -53から+09 dB (先頭に「+」または、「－」が付きます。)
X43 = 静的オーディオの遅延：0から255ミリ秒

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表(続き)

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
オーディオ入力フォーマット (続き)			
2チャンネルデジタルオートに設定する	Esc I X1 *4AFMT ←	AfmtI X1 *4 ↵	入力X1を自動検出に設定します。(オーディオ入力3、4、5のみに有効 — EDIDは2Chデジタル)。
フルデジタルのオートモードに	Esc I X1 *5AFMT ←	AfmtI X1 *5 ↵	入力X1を自動検出に設定します。(入力3、4、および5のみに有効 — EDIDはフルデジタルに設定)。
オーディオの信号フォーマットを表示する	Esc I X1 AFMT ←	X42 ↵	入力X1のオーディオ入力フォーマットX42を表示します。
オーディオ出力フォーマット			
フォーマットを設定する	Esc O X39 AFMT ←	AfmtO X39 ↵	Fixed (固定) およびVariable (可変) オーディオ出力のフォーマットを設定します。
フォーマットを表示する	Esc O AFMT ←	X39 ↵	オーディオ出力のフォーマットを表示します。
オーディオFollow			
オーディオFollowを設定する	Esc X41 AFLW ←	Aflw X41 ↵	オーディオソースを選択します。(メインまたはPIP)
オーディオFollowを表示する	Esc AFLW ←	X41 ↵	オーディオソースを表示します。(メインまたはPIP)
プリセット			
ユーザープリセット			
プリセットを呼び出す	1* X23 .	1Rpr X23 ↵	選択した入力でユーザープリセットX23を呼び出します。
プリセットを保存する	1* X23 ,	1Spr X23 ↵	選択した入力の設定をユーザープリセットX23に保存します。
プリセットを削除/消去	Esc X1* X23 PRST ←	PrstX1* X23 ↵	ユーザープリセットX23を消去し、ユーザープリセットX23の名前を「Unassigned」にします。
ユーザープリセット名			
プリセットの名前を書き込む	Esc 1* X23 , X14 PNAM ←	Pnam1* X23 , X14 ↵	ユーザープリセットX14の名前をX23に変更します。
プリセットの名前を読み出す	Esc 1* X23 PNAM ←	X14 ↵	ユーザープリセット名X23を呼び出します。

メモ デフォルトのユーザープリセット名を復元するには、1文字分のスペースをX14用に入力します。まだ割り当てられていないプリセット = “[unassigned]”。

メモ
X1 = 入力選択: 1から5
X14 = テキストラベル/プリセット名: 最大16文字まで
X23 = ユーザープリセットまたはPIPプリセット:1から16
X39 = オーディオ出力フォーマット:1=デュアルモノ、2=ステレオ(デフォルト)
X41 = オーディオソース:0=Follow - メインウィンドウ、1=Follow - PIP ウィンドウ、2=ソースの切り替え

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
入力プリセット			
プリセットを呼び出す	2*X24.	2Rpr X24↵	選択した入力のプリセットX24を呼び出します。
プリセットを保存する	2*X24,	2Spr X24↵	入力プリセットをX24 に保存します。
プリセットを削除/消去	Esc X2*X24 PRST←	Prst X2*X24↵	入力プリセットX24を消去し、入力プリセットX24の名前を「割り当て無し」にします。
入力プリセット名			
プリセットの名前を書き込む	Esc 2*X24,X14 PNAM←	Pnam2*X24,X14↵	入力プリセットX24の名前をX14に設定します。
プリセットの名前を読み出す	Esc 2*X24 PNAM←	X14↵	入力プリセットX24を読み出します。
メモ　デフォルトの入力プリセット名に復元するには、シングルスペース文字をX14用に入力します。まだ割り当てられていないプリセット = "[unassigned]"。			
PIPプリセット			
入力指定無しでプリセットを呼び出す	3*X23.	3Rpr X23↵	入力なしのPIPプリセットX23を呼び出します。
入力指定付きでプリセットを呼び出す	4*X23.	4Rpr X23↵	PIPプリセットX23を入力付きで呼び出します。
プリセットを保存	4*X23.	4Spr X23↵	PIPレイアウトと入力をプリセットX23に保存します。
プリセットを削除/消去	Esc X4*X23 PRST←	Prst X4*X23↵	PIPプリセットX23、およびPIPプリセット名X23を工場出荷時のデフォルトにリセットします。
PIPプリセット名			
PIPプリセットの名前を書き込む	Esc 3*X23,X14 PNAM←	Pnam3*X23,X14↵	PIPプリセットX23をX14に設定します。
PIPプリセットの名前を読み出す	Esc 3*X23 PNAM←	X14↵	PIPプリセットX23を読み出します。
メモ　デフォルトのPIPプリセット名を復元するには、1文字分のスペースをX14に入力します。デフォルト = "PIP preset XX" ここで、"XX"は現在のプリセット番号です (例えば、05)。			

メモ　X14 = テキストラベル/プリセット名: 最大16文字まで
X23 = ユーザープリセットまたはPIPプリセット: 1から16
X24 = 入力プリセット: 1から128

ユーザープリセット		入力プリセット				PIP プリセット	
色彩	水平/垂直 ウィンドウ 位置	入力の フォーマット	色彩	水平開始	水平/垂直 ウィンドウ 位置	水平/垂直メイン ウィンドウ 位置	水平/垂直PIP ウィンドウ 位置
ティント	水平/垂直 ウィンドウサイズ	プリセット名	ティント	垂直開始	水平/垂直 ウィンドウサイズ	水平/垂直メイン ウィンドウ サイズ	水平/垂直PIP ウィンドウ サイズ
コントラスト	水平/垂直 映像位置	オーディオ ゲイン/減衰	コントラスト	水平 アクティブ	水平/垂直 映像位置	水平/垂直メイン 映像位置	水平/垂直PIP 映像位置
輝度	水平/垂直 映像サイズ		輝度	垂直 アクティブ	水平/垂直 映像サイズ	水平/垂直メイン 映像サイズ	水平/垂直PIP 映像サイズ
ディテール			ディテール	位相		メイン入力番号	
プリセット名			フィルム モード	トータル ピクセル		PIP入力番号	

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表（続き）

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
高度な設定			
テストパターン			
テストパターンを設定する	Esc X20 TEST←	Test X20 ↵	テストパターンを X20 に設定します。
テストパターンを表示する	Esc TEST←	X20 ↵	現在のテストパターンを表示する。
フリーズ（静止）			
すべてのウィンドウをフリーズする	1 F	Frz 1↵	メインおよびPIP入力ウィンドウをフリーズします。
メインウィンドウのみをフリーズする	2 F	Frz 2↵	メインウィンドウをフリーズします。
PIPウィンドウのみをフリーズする	3 F	Frz 3↵	PIPウィンドウをフリーズします。
フリーズを無効にする	0 F	Frz 0↵	すべてのウィンドウのフリーズを解除します。
フリーズを表示する	F	X9 ↵	フリーズのステータスを表示します。(1= すべてをフリーズ中、2 = メインをフリーズ中、3 = PIPをフリーズ中、0= すべてのフリーズを解除)。
オートメモリー(各入力)			
オートメモリーを有効にする	Esc X1 *1AMEM←	Amem X1 *1↵	オートメモリーをオンに設定します。前回設定した入力信号が、自動的に呼び出されます。
オートメモリーを無効にする	Esc X1 *0AMEM←	Amem X1 *0↵	オートメモリーをオフに設定します。入力を設定するには入力プリセットの手動リコール(呼び出し)が必要です。
オートメモリーを表示する	Esc X1 AMEM←	X9 ↵	入力 X1 の現在のオートメモリーの状態を表示します。
入力のアスペクトレシオ(各入力)			
Fillモードを有効にする	Esc X1 *1ASPR←	Aspr X1 *1↵	入力 X1 のアスペクトレシオを自動的に調整し出力画面全体に表示されるように設定 します (デフォルト)。
Followモードを有効にする	Esc X1 *2ASPR←	Aspr X1 *2↵	入力 X1 が元のアスペクトレシオを保つように設定します。
アスペクトレシオの設定を表示する	Esc X1 ASPR←	X29 ↵	入力 X1 のアスペクトレシオの設定を表示します。

メモ

X1 = 入力選択: 1から5
X9 = 有効/無効: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効
X20 = テストパターン:

0 = オフ (デフォルト)	4 = クロスハッチ	8 = ランプ	12 = 1.85アスペクトレシオ
1 = クロップ	5 = 4x4クロスハッチ	9 = ホワイトフィールド	13 = 2.35アスペクトレシオ
2 = 交互ピクセル	6 = カラーバー	10 = 1.33アスペクトレシオ	14 = ブルーモード
3 = 交互ライン	7 = グレイスケール	11 = 1.78アスペクトレシオ	

X29 = アスペクトレシオ:
1 = Fill、出力画面全体に表示される (デフォルト)
2 = Follow、入力のアスペクトレシオを維持して表示

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
オートスイッチングモード			
スイッチングモードを無効にする	Esc 0AUSW←	Ausw0↵	マニュアル操作のみ (デフォルト)。
大きい番号の入力を優先	Esc 1AUSW←	Ausw1↵	入力番号が大きく、信号が検出されている入力を優先します。
小さい番号の入力を優先	Esc 2AUSW←	Ausw2↵	入力番号が小さく、信号が検出されている入力を優先します。
スイッチングモードの設定を表示する	Esc AUSW←	X37↵	現在のオートスイッチングモードを表示します。
ビデオ切替え効果			
カット	Esc 0SWEF←	Swef0↵	ビデオ切替え効果をカットに設定します。
ディゾルブ	Esc 1SWEF←	Swef1↵	ビデオ切替え効果をディゾルブに設定します。
切替え効果の設定を表示する	Esc SWEF←	0↵(または1↵)	ビデオ切替え効果の設定を表示します。 0 = カット、1 = ディゾルブ
効果持続時間			
ディゾルブ効果の持続時間を設定する	Esc X35 EDUR←	EDUR X35↵	効果持続時間を10分の1秒単位で設定します。 範囲2(0.2秒)から50(5秒) デフォルトは3(0.3秒)
持続時間を表示する	Esc EDUR←	X35↵	効果持続時間を表示します。
フロントパネルのセキュリティロック(Executive モード)			
ロックモード1を有効にする	1X←	Exe1↵	フロントパネルのすべての機能をロックします。
ロックモード2を有効にする	2X←	Exe2↵	フロントパネルからの調整は、入力選択、PIP/スワップ、およびオートイメージのみ行えます。ロック
ロックモードを無効にする	0X←	Exe0↵	フロントパネルからの調整と入力選択が行えます。
ロックモードのステータスを表示する	X←	0↵(または1↵か2↵)	現在のステータスを表示します。 0 = オフ(デフォルト)、1 = オン、完全、2 = オン、制限された調整
オーバースキャンモード (SMPTE [NTSC、PAL、480p、576p、720p、1080i、1080p] 解像度入力時のみに適用)			
オーバースキャンの値を設定する	Esc X3 * X28 OSCN←	Oscn X3 * X28↵	入力フォーマットX3をオーバースキャンモードX28に設定します。
ステータスを表示する	Esc X3 OSCN←	X28↵	入力フォーマットX3のオーバースキャンモードのステータスを表示します。

メモ

X1 = 入力選択: 1から5
X2 = 出力選択: 0 = すべての出力(デフォルト)、1 = アナログ(VGA、YUVp、HDTV)、2=HDMI、3=3G/HD-SDI、4=無し、
X3 = 入力ビデオフォーマット: 0 = 信号は検出されていない、1= RGB、2 = YUV オート、3 = RGBcvS、4 = Sビデオ、
5 = コンポジット、6 = DVI/HDMI(入力3、4, 5にのみ有効)、7 = 自動検出(入力1と2のデフォルト)
X9 = 有効/無効: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効
X28 = オーバースキャン:(SMPTE {NTSC/PAL - 480pから1080p} の入力レートに適用)、0=0.0%(RGB/HDMIのデフォルト)
1 = 2. 5%(YUV、RGBcvS、Sビデオ、コンポジットのデフォルト)
詳細は4章5ページのX28を参照してください。
X37 = オートスイッチイングモード: 0 = 無効 (デフォルト)、1 = 番号の大きな入力を優先、2 = 番号の小さな入力を優先

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表(続き)

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
HDCP通知 (緑色の画面/メッセージ)			
通知を有効にする	Esc N1HDCP ←	HdcpN1 ↵	HDCP通知を有効にします。
通知を無効にする	Esc N0HDCP ←	HdcpN0 ↵	HDCP通知を無効にし、代わりに出力をミュートします。
通知設定の問い合わせ	Esc NHDCP ←	X9 ↵	HDCP通知設定を問い合わせます。
HDCPステータス (HDMI入力およびHDMI出力のみに有効)			
入力の問い合わせ	Esc I X1 HDCP ←	X33 ↵	現在の入力X1のHDCPステータスを問い合わせます。
		HdcpI X1 * X33 ↵	詳細表示モードのレスポンス
出力の問い合わせ	Esc O X2 HDCP ←	X33 ↵	HDMI出力X2のHDCPステータスを問い合わせます。
		HdcpO X2 * X33 ↵	詳細表示モードのレスポンス
HDCP入力認証 (HDMI入力のみに有効)			
HDCP認証をオンにする	Esc E X1 *1HDCP ←	HdcpE X1 *1 ↵	入力X1に対してHDCP認証をオンにします(デフォルト)。
HDCP認証をオフにする	Esc E X1 *0HDCP ←	HdcpE X1 *0 ↵	入力X1に対してHDCP認証を無効します。
HDCP認証状態	Esc E X1 HDCP ←	X49 ↵	入力X1のHDCP認証ステータスを問い合わせます。
Genlock (ゲンロック)			
ゲンロックを無効にする	Esc 0GLOK ←	Glok0 ↵	入力信号ゲンロックを無効にします。(デフォルト)
入力信号ゲンロックを有効にする	Esc 1GLOK ←	Glok1 ↵	出力リフレッシュレートを選択された入力のリフレッシュレートにロックします。
SDI ゲンロックを有効にする	Esc 2GLOK ←	Glok2 ↵	出力リフレッシュレートをゲンロック信号にロックします(Dモデルのみ)。
ゲンロック設定を表示する	Esc GLOK ←	X47 ↵	現在のゲンロック設定を表示します。
ゲンロックのステータスを表示する	Esc 41STAT ←	X48 ↵	現在のゲンロックのステータスを表示します。
		41Stat• X48 ↵	詳細表示モードのレスポンス

メモ

X1 = 入力選択: 1から5
X9 = 有効/無効: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効
X33 = HDCPのステータス(HDMI/DVI 出力のみ):0=同期またはソースの検出無し、1 = HDCPにより、同期またはソースが検出されている、2= 同期またはソースが検出されているが、HDCPは存在していない
X47 = 入力信号/SDIゲンロック: 0 = 無効 (デフォルト)、1 = 入力信号が有効、2 = SDIゲンロックが有効
詳細については、4章6ページのコマンドの説明を参照してください。
X48 = 入力信号/ゲンロックのステータス: 0 = ゲンロックは無効、1 = ゲンロックは有効(ロックされていない)、2 = ゲンロックは有効(ロックされている)
詳細については、4章6ページのコマンドの説明を参照してください。
X49 = HDMI入力HDCP認証のステータス: 0 = HDCP暗号化をブロック、1 = HDCP暗号化を許可 (入力3、4、5のデフォルト)

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
Genlock (ゲンロック) (続き)			
ゲンロック/AFLオフセット			
メモ ゲンロックのオフセットコマンドは以下の条件が揃っている場合のみ実行可能です。これ以外ではエラーを返します: a. DVS605 DモデルまたはADモデルである、 b. SDIゲンロックが現在有効になっている、 c. ゲンロックは、ゲンロックレファレンスにより現在ロックされている。 ゲンロックオフセットは、その時の出力解像度にのみ適用され、出力解像度が変更されると0(デフォルト)にリセットされます。			
水平のオフセットを設定する	EscH X50 GLOF ←	GlofH X50 ↵	水平のゲンロックオフセットを X50 ピクセルに設定します(ゲンロックの X50 = 水平ピクセルのオフセット。範囲は現在の出力解像度トータルピクセル値から1を引いて±を付加した値 (例えば、1080pの場合、-2199 から+2199)。
水平のオフセットを表示する	EscHGLOF ←	X50 ↵	水平ゲンロックのオフセット X50 を表示します (デフォルトは0)。
垂直のオフセットを設定する	EscV X51 GLOF ←	GlofV X51 ↵	垂直ゲンロックのオフセットを X51 ピクセルに設定します。ゲンロックの X51 = ゲンロックのライン遅延。範囲は現在の出力解像度トータルライン値から1を引いて±を付加した値 (例えば、1080p の場合、-1124 から+1124)。
垂直のオフセットを表示する	EscVGLOF ←	X51 ↵	垂直ゲンロックのオフセット X51 を表示します (デフォルトは0)。
ビデオ信号の有無			
信号の有無を表示する	0LS	X44 * X44 * X44 * X44 * X44 ↵	入力1*2*3*4*5の信号ステータス。X44: 0 = 入力なし、1 = 入力を検出
IR配線ポート			
IRポートを 有効にする (IRを許可)	65*0#	IRDisable0↵	IR配線ポートを有効にして、IRコントロールの入力を許可します。
IRポートを無効にする (IRをブロック)	65*1#	IRDisable1↵	IR配線ポートを無効にします。(デフォルト)
IR設定を表示	65#	X9 ↵	現在のIR無効化設定を表示します。

メモ
X9 = 有効/無効: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効
X44 = ビデオ信号ステータス: 0 = ビデオ/TMDS信号を未検出、1 = ビデオ/TMDS信号を検出済み
X50 = 水平ゲンロックのオフセット: 範囲は適切な出力解像度トータルピクセル値から1引いて±を付加した値 (例えば、1080pの場合は -2199から+2199)
X51 = 垂直ゲンロックのオフセット: 範囲は適切な出力解像度トータルライン値から1引いて±を付加した値 (例えば、1080pの場合は -1124から+1124)

SIS コマンドのコマンド/レスポンス表(続き)

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
ピクチャーインピクチャー			
メモ HDMI入力5はPIPに使用できません。			
PIPの切り替え			
PIPをオンにする	Esc X27 PIP ←	Pip X27 ↵	PIPをオンにして、入力X27を表示します。X27は2桁の応答です。(例えば、01)
PIPをオフにする	Esc 0PIP ←	Pip00 ↵	PIPをオフにします。
PIP選択を表示する	Esc PIP ←	X27 ↵	PIP選択を表示します (X27は2桁の応答です。例えば、01)。
メインとPIPウィンドウのスワップ			
ウィンドウをスワップする	%	Tke ↵	メインウィンドウとPIPウィンドウをスワップします。
オンスクリーンメニューのタイムアウト			
メモ タイムアウトを501に設定すると、OSDのタイムアウトが無効になり表示し続けます。タイムアウトを0に設定すると、OSDは表示されません。			
メニューのタイムアウトを設定する	Esc X25 MDUR ←	Mdur X25 ↵	OSDをX25秒に設定します。
タイムアウトを表示する	Esc MDUR ←	X25 ↵	タイムアウト設定を表示します。
コマンドのリセット			
ユーザーウェブページとファイルを削除する 24 28	Esc <*filename*>EF ←	Del•<*filename*> ↵	名前で指定されたファイルを削除します。
現在のディレクトリーとファイルを削除する 24 28	Esc /EF ←	Ddl ↵	現在のディレクトリーとそのファイルを削除します。
現在のディレクトリーとサブディレクトリーを削除する 24 28	Esc //EF ←	Ddl ↵	現在のディレクトリーとそのサブディレクトリーを削除します。
フラッシュメモリーを削除する 24	Esc ZFFF ←	Zpf ↵	フラッシュメモリーを削除します。
デバイスのすべての設定を工場出荷時のデフォルトにリセットする 24	Esc ZXXX ←	Zpx ↵	イーサーネット設定を保持します。
オールリセットにする 24	Esc ZQQQ ←	Zpq ↵	ネットワークを次にリセットすることを含みます。DHCP = オフ、IP = 192.168.254.254 (デフォルトアドレス)
オールリセットにする 24 (ただしIP情報は維持	Esc ZY ←	Zpy ↵	
メモ このリセットEsc ZYは、Esc ZQQQに似ていますが、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、ユニット名、DHCP設定、ポートマッピング (テルネット/ウェブへの直接アクセス) は保持します。ファームウェアのアップデートの後にリセットすることをお勧めします。			

メモ X25 = オンスクリーンメニューのタイムアウト: (デフォルト = 3秒)/出力同期のタイムアウト (デフォルト = 501 - タイムアウトなし)
0 = OSDは表示されない(出力同期はアクティブな入力が無いと、すぐに無効になります。)
1秒ずつ1から500まで増加、501 = OSDはタイムアウトしない(出力同期はタイムアウトしません。)
X27 = PIPウィンドウ入力選択: 0〜4 (0 = オフ)

コマンド	ASCII コマンド (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
情報のリクエスト			
一般情報	**I**または**i**	**Vid**X1**•Aud**X1**•Vtyp**X3**•Std**X10**•Blk**X31**•Hrt**X13**•Vrt**X13 **•Pip**X1↵	
メモ Aud "X1"のレスポンスは、オーディオ 非対応のモデルでは"-"になります。"Vtyp"は検出された入力タイプ (X1*\) を返します。			
メモ Blk "X31"のレスポンスは、ビデオがミュートされていなければ"0"、ミュートされている場合は"1"です。			
ファームウェアバージョンの問い合わせ	**Q**または**q**	**X.XX**↵	ファームウェアバージョンを表示します。
ファームウェアのフルバージョンの問い合わせ	***Q**または***q**	**X.XX.XXXX**↵	ファームウェアのフルバージョンの詳細を表示します。
部品番号の問い合わせ	**N**または**n**	**ZZ - ZZZ - ZZ**↵	部品番号を表示します。
内部の温度を表示	Esc**20STAT**←	**Stat20•**X11↵	内部の温度を摂氏で表示します。
構成のバックアップ/復元			
メモ {設定の種類} = 0 = IP設定 (ip.cfg)、1 = イベント設定 (event.cfg)、2 = ユニット固有のパラメーター (box.cfg)。ファイルは、「save」コマンドでユニットに作成されたディレクトリー/nortxe-backupに保存されます。			
デバイスの設定を保存	Esc **1*{*config type*}XF**←	**Cfg1*{*config type*}**↵	ユニットの設定をファイルシステムに保存します。
デバイスの設定を復元	Esc **0*{*config type*}XF**←	**Cfg1*{*config type*}**↵	ユニットの設定をファイルシステムから復元します。
製品の名前付け			
メモ 以下に示した24スーパースクリプトは、ユーザーが名前を変更する際にアドミニストレーターとしてログインしていない場合、IPリンクベースの機器 (DVS 605など) でE24エラーが発生することを示しています。			
ユニット名を設定する 24	EscX12**CN**←	**Ipn •**X12↵	ユニット名をX12に設定します。
ユニット名を工場出荷時のデフォルトに設定する 24	Esc**•CN**←	**Ipn •**X100↵	ユニット名をデフォルトのX100に設定します。
ユニット名を表示する	Esc**CN**←	X12↵	ユニット名を表示します。

メモ
X1 = 入力選択: 1から5
X3 = 入力ビデオフォーマット、0 = 検出された信号なし (X1*\)などの、検出された入力フォーマットの問い合わせに対してのみ有効)、1 = RGB、2 = YUV Auto、3 = RGBcvS、4 = Sビデオ、5 = コンポジット、6 = DVI/HDMI (IN3、IN4、IN5に対してのみ有効)
X10 = 入力標準、0 = 検出された信号なし (現在の入力)、1 = NTSC 3.85、2 = PAL、3 = NTSC 4.43、4 = SECAM - = N/A (入力がアクティブなRBG、YUV Autoの場合に発生 [ただし、NTSC/PAL以外]、またはHDMI信号
X11 = 内部の温度 (摂氏で表示)
X12 = ユニット名は、アルファベット (A～Z)、数字 (0～9)、とマイナス記号/ハイフン (-) を使用した、最長24文字で構成されるテキスト文字列です。最初の文字はアルファベット文字である必要があります。最後の文字をマイナスにすることはできません。ブランクまたはスペース文字は使用できません。また、大文字と小文字は区別されません。
X13 = 水平および垂直周波数 (フォーマットは、3つの数字と1つの小数で構成され、先行はゼロなります。例、075.3)
X31 = ビデオミュート: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効 (黒にミュート)
X100 = デフォルト名: モデル名とMACアドレスの最後の3対の組み合わせ (例、DVS-605-Series-07-8C-EC)。

IP SIS コマンドのコマンド/レスポンス表

コマンド	ASCII (テルネット) (PCからスケーラーへ)	URL エンコード (ウエブ) (ウェブ) (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
イーサーネットポート				
現在接続されている通信ポートのタイムアウトを設定する	Esc 0* X127 TC ←	W0%2A X127 TC|	Pti0* X127 ↵	
現在の通信ポートのタイムアウトをを表示する	Esc 0TC ←	W0TC|	X127 ↵	
全ての通信ポートのタイムアウトを設定する	Esc 1* X127 TC ←	W1%2A X127 TC|	Pti1* X127 ↵	
全ての通信ポートのタイムアウトをを表示する	Esc 1TC ←	W1TC|	X127 ↵	
ファームウェアのバージョン、製品番号、情報のリクエスト				
メモ バージョン番号の後にくる星印 (*) は、現在使用されているバージョンを示します。 カレット記号(ˆ)は、搭載されているバージョンが不正なチェックサム/無効であることを示します。そのバージョンが見つからない場合は、疑問符(?)で示されます。				
ファームウェアバージョンの問い合わせ	Q または 1Q	Q または 1Q	X131 ↵	スケーラーのファームウェアバージョン(X31)を小数点 2 桁まで表示します。この照会は、現在稼動中のファームウェアバージョン(ユーザーによる更新が可能なバージョン)の番号を返します。
詳細表示のファームウエアバージョン情報の問い合わせ	0Q	0Q	2Q、3Q、4Q からのすべてのレスポンス}↵	各ファームウェアバージョン(ブーツストラップ、工場出荷時、更新済み)を表示します。以下の 2Q、3Q、4Qを参照してください。
例:	1Q	1Q	1.01	
ブートストラップのファームウェアバージョンの問い合わせ	2Q	2Q	X131 ↵	ブートストラップファームウェアは、ユーザーによる更新に対応していません。これは、トラブルシューティングに必要な情報として表示されます。
例:	2Q	2Q	0.06	

メモ X127 = IP接続がタイムアウトするまでの時間(最低=1、最高=65000、デフォルト=30=300秒)
X131 = バージョン番号(小数点2桁まで)

コマンド	ASCII (テルネット) (PCからスケーラーへ)	URL エンコード (ウエブ) (ウェブ) (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
ファームウェアのバージョン、製品番号、情報のリクエスト(続き)				
工場出荷時のファームウェアバージョンの問い合わせ	3Q	3Q	X131 (ウェブバージョン - モデル説明 - アップロードの日時)↵	工場出荷時のファームウェアを、ユーザーが置き換えることはできません。このファームウェアは工場出荷時にインストールされており、モード 1 のリセットをした場合に復元されるバージョンです(第2章を参照)。
例:	3Q	3Q	1.00(1.37-DVS 304 Series -Fri, 12 Aug 2012 03:28:10 GMT)↵	この例では、工場出荷時のファームウェアバージョンは 1.00で、カーネルバージョンは1.37(2012年8月12日付のDVS 605対応版)です。
アップデートファームウェアバージョンの問い合わせ	4Q	4Q	X131↵	このコマンドを使用して、工場出荷の後にどのバージョンのファームウェアが、アップロードされたかを見ます。
例:	4Q	4Q	1.01 *(1.46-DVS 605 Series - Mon, 17 Jan 2012 17:03:46 GMT)↵	この例では、ファームウェアバージョンは1.01で、カーネルバージョンは1.46(2012年1月17日付のDVS 605対応版)です。
情報のリクエスト				
製品番号のリクエスト N	N	60-1059-XX↵		製品番号を表示します。
モデル名のリクエスト	1i	1i	DVS 605 X↵	モデル名を表示します。
モデルの概要情報のリクエスト	2i	2i	Extron Electronics Degital video Scaler↵	装置の種類を表示します。
システムのメモリー使用状態のリクエスト	3i	3i	#キロバイトのうち使用された#バイト数↵	使用されたメモリー量と、システムオペレーション用にまだ可能なメモリー量を表示します。
ユーザーメモリーの使用状況のリクエスト	4i	4i	#キロバイトのうち使用された#バイト数↵	使用されたユーザーメモリー量と、まだ使用可能なユーザーメモリー量を表示します。

メモ X131 = バージョン番号(小数点2桁まで)

IP SIS コマンドのコマンド/レスポンス表(続き)

コマンド	ASCII (テルネット) (PCからスケーラーへ)	URL エンコード (ウエブ) (ウェブ) (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
IP 設定のコマンド				
日付/時間を設定する [24]	Esc X107 CT ←	W X107 CT |	Ipt • X107 ↵	X107 = 現地の日付と時間のフォーマットです。設定のフォーマットは、MM/DD/YY-HH:MM:SS(月/日/年 -時:分:秒)になります。例:09/07/12-10:54:00
日付/時間の読み取り	Esc CT ←	W CT |	X107 ↵	読み取りのフォーマットは、曜日、日、月、年、時:分:秒になります。例: Fri, 08 Sept 2012 18:19:33
DHCP をオンに設定する [24]	Esc 1DH ←	W1DH |	Idh 1 ↵	
DHCP をオフに設定する [24]	Esc 0 DH ←	W0 DH |	Idh 0 ↵	
DHCP モードを表示する	Esc DH ←	WDH |	Idh X104 ↵	X104 ＝0 (オフ)または1(オン)
IP アドレスを設定する [24]	Esc X108 CI ←	W X108 CI |	Ipi• X108 ↵	X108 ＝IP アドレス(xxx.xxx.xxx.xxx)。各フィールド内の値に付ける先行のゼロは設定値においてオプションです。
IP アドレスの読み取り	Esc CI ←	W CI |	X108 ↵	4つのフィールドのそれぞれの先行のゼロは戻り値では省略されます。
ハードウェアアドレス(MAC)の読み取り	Esc CH ←	W CH |	X109 ↵	X109 ＝ハードウェア(MAC)アドレス(xx-xx-xx-xx-xx-xx)
サブネットマスクを設定する [24]	Esc X110 CS ←	W X110 CS |	Ips X110 ↵	X110 はサブネットマスク(xxx.xxx.xxx.xxx)。SyntaxはIP アドレスと同じです。先行するゼロは 設定値においてオプションです。
サブネットマスクの読み取り	Esc CS ←	W CS |	X110 ↵	先行するゼロは省略されます。
ゲートウェイの IP アドレスを設定する	Esc X108 CG ←	W X108 CG |	Ipg X108 ↵	X108 はIP アドレスです。先行する 0 はオプションです。
ゲートウェイの IP アドレスの読み取り	Esc CG ←	W CG |	X108 ↵	

メモ
X104 = 有効/無効: 0 = オフ/無効、1 = オン/有効
X107 = 時間と日付の設定(月、日、年、時間:分:秒、地域)
X108 = IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx)。4つのフィールドの先行ゼロの設定値は任意です。
X109 = ハードウェア (MAC) アドレス (xx-xx-xx-xx-xx-xx)
X110 = サブネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx)。値を設定する際に、4つのフィールドのそれぞれの先行のゼロは任意で、戻り値では省略されます。

コマンド	ASCII (テルネット) (PCからスケーラーへ)	URL エンコード (ウエブ) (ウェブ) (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
メモ イーサーネット設定に対して行った変更は、ネットワークの再起動のコマンド (2BOOT) が発行されるまで有効になりません。				
ネットワークを再起動する	Esc 2BOOT ←		Boot2 ↵	IPアドレスまたはDHCPの変更の後にネットワーク接続を再起動します。
メモ アドミニストレーターパスワードが現存しないと、ユーザーパスワードの設定はできません。DVS 605 の設定が行われていないと、パスワードを入力した場合、E14のレスポンスが返されます。アドミニストレーターパスワードが削除されると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。				
アドミニストレーターパスワードを読みとる	Esc CA ←	W CA |	X121 ↵	
アドミニストレーターパスワードを設定する [24]	Esc X121 CA ←	W X121 CA |	Ipa•X121 ↵	アドミニストレーターパスワードの設定をします。(X121 は 4−12までの字英数字で大文字小文字を識別します。特殊文字(スペースやシンボル)は使えません。
アドミニストレーターパスワードをクリアする [24]	Esc •CA ←	W%20CA |	Ipa• ↵	すべてのパスワードを解除します。(アドミニストレーターとユーザー)
ユーザーパスワードを設定する [14, 24]	Esc X121 CU ←	W X121 CU |	Ipu•X121 ↵	ユーザーパスワードの設定をします。(X121 は 4−12までの字英数字で大文字小文字を識別します。特殊文字(スペースやシンボル)は使えません。
メモ アドミニストレーターパスワードが現存しないと、ユーザーパスワードの設定はできません。				
ユーザーパスワードをクリアする [24]	Esc •CU ←	W%20CU |	Ipu• ↵	ユーザーパスワードのみ解除します。
ユーザーパスワードを読み取る [24]	Esc CU ←	W CU |	X112 ↵	
詳細表示モードを設定する	Esc X111 CV ←	W X111 CV |	Vrb X111 ↵	詳細表示モードを設定します。
メモ プロセッサーにより未承諾の情報 (音量または入力の変更、またはその他の設定の変更の通知など) が送信される場合があります。これは、プロセッサーと接続されたデバイスとの間の冗長 (詳細表示) な関係と呼ばれます。直接的なRS-232/422接続では、プロセッサーはデフォルトで詳細表示モードに設定されています。DVS 605がイーサーネット経由で接続されている場合は、ネットワーク上の通信トラフィック量を低減するために、詳細表示モードはデフォルトで無効になっています。イーサーネット経由で接続されているプロセッサーで詳細表示モードを使用したい場合は、プロセッサーに再接続するたびに、このモードをオンに設定する必要があります。				
詳細表示モードを読みとる	Esc CV ←	W CV |	X111 ↵	
接続のセキュリティレベルを表示する	Esc CK ←	W CK |	X125 ↵	

メモ X111 = 詳細表示/レスポンスモード (デフォルト = 0はテルネット接続用、1はRS-232ホストコントロール用)。0 = 消去/なし、1 = 詳細表示モード、2 = 問い合わせに対するタグ付きレスポンス、3 = 問い合わせに対する冗長モードとタグ付きレスポンス。タグ付きレスポンスが有効な場合、値の設定のように、すべての読み取りコマンドは定記号列 + データを返します 。
(例、コマンド: Esc CN ←、レスポンス: Ipn• X12 ↵)。
X121 = パスワード (12文字 = 最大長。特殊文字は許可されません)
X125 = 接続のセキュリティレベル: 0 = 匿名、1 − 10= 拡張されたセキュリティレベル1〜10、11 = ユーザー、12 = アドミニストレーター

IP SIS コマンドのコマンド/レスポンス表（続き）

コマンド	ASCII (テルネット) (PCからスケーラーへ)	URL エンコード (ウエブ) (ウェブ) (PCからスケーラーへ)	レスポンス (スケーラーからPCへ)	説明
ポートの再マッピング				
テルネットポートマップを設定する [24]	Esc {port #}MT ←	W{port #}MT|	Pmt {port #}↵	
テルネットポートマップを リセットする [24]	Esc 23 MT ←	W 23 MT|	Pmt 00023↵	テルネットポートをポート23(デフォルト) にリセットします。
テルネットポートマップを 無効にする [24]	Esc 0 MT ←	W 0 MT|	Pmt 00000↵	
テルネットポートマップの読み取り	Esc MT ←	W MT|	{port #}↵	
ウェブポートマップを設定する [24]	Esc {port #}MH ←	W{port #}MH|	Pmh {port #}↵	
ウェブポートマップをリセットする [24]	Esc 80 MT ←	W 80 MH|	Pmh 00080 ↵	
ウェブポートマップを無効にする [24]	Esc 0 MH ←	W 0 MH|	Pmh 00000 ↵	
ウェブポートマップの読み取り [24]	Esc MH ←	W MH|	{Port #} ↵	ウェブポートマップをデフォルト値の80に 設定します。
ディレクトリーのコマンド				
ディレクトリーを変更または作成する	Esc *{path}/{directory}*/CJ ←	W*{path}/{directory}*/CJ|	Dir• *{path}/{directory}*/↵	
メモ　ディレクトリーのパスにファイルがコピーされるまで、ディレクトリーは実存しません。				
ルートディレクトリーに戻る	Esc /CJ←	W%2FCJ|	Dir• /↵	
1つ上のディレクトリーレベルに移動する	Esc ..CJ←	W%2E%2ECJ|	Dir• *{path}/{directory}*/↵	
現在のディレクトリーを表示する	Esc CJ←	W CJ|	*{path}/{directory}*/↵	
ファイル消却のコマンド				
ユーザーファイルを削除する [24, 28]	Esc *{filename}*EF←	W*{filename}*EF|	Del• *{filename}*↵	
現在のディレクトリーとそのファイル を削除する	Esc /EF←	W%2FEF|	Ddl↵	
現在のディレクトリーとサブ ディレクトリーを削除する [24, 28]	Esc //EF←	W%2F%2FEF|	Ddl↵	

5
第五章
HTMLの操作

DVS 605には、様々な設定や操作が行えるウェブページが搭載されておりLAN または、WAN 経由で接続したコンピューターから、マイクロソフト社の Internet Explorer®8 以上、Mozilla社のFirefox® 6以上、Google 社のChrome™ 9以上 、Apple社のSafari 4 以上などのウェブブラウザ を使用して、アクセスが可能です。

メモ Internet Explorerを使用する場合、互換モードをオフにする必要があります(詳細については、5章2ページの「互換モードをオフにする」を参照してください)。

本章では、デフォルトで搭載されているウェブページについて説明します。このページは、消去したり上書きはできません。

ウェブページへのアクセス

DVS 605の内蔵ウェブページへは以下の手順でアクセスします。

1. PCのウェブブラウザーを起動します。
2. ブラウザーのURLフィールドをクリックします。
3. DVS605 のIPアドレスをブラウザーのURLフィールドに入力します。

メモ 工場出荷時のデフォルトのIPアドレスは192.168.254.254、、DHCPはオフに設定されています。

4. キーボードの<Enter (エンター)>キーを押すと、DVS 605はパスワードが保護されているかどうかを確かめます。パスワード保護されていなければ、ウエブページが表示されます。
パスワード保護されている場合は、DVS 605により Enter Network Password (ネットワークのパスワードを入力) ページが表示されます。

メモ ユーザー名の入力 (「user」または「admin」)が必要です。

5. Password (パスワード)フィールドをクリックして、要求に応じて、適切なアドミニストレーターまたはユーザーのパスワードを入力します。
6. OKをクリックします。

HTMLの操作

互換モードをオフにする

DVS 605のウェブページ（デフォルト）は、マイクロソフト社の Internet Explorerの互換モードをサポートしておりません。

Compatibility View Settings（互換モードの設定を表示）

ウェブブラウザーの Tools（ツール）メニューから、互換表示設定を選択します。互換表示設定ダイアログボックスが表示されます。

すべてのWebサイトを互換表示で表示するチェックボックスがオフになっており、互換表示に追加したウェブサイトの一覧にDVS 605のIPアドレスが表示されていないことを確認します。

ウェブページの操作

DVS 605のウェブページは大きく分けて、Configuration（設定）とHardware（ハードウェア）のページがあり、各ページのタブの下には、アイコン付きのグローバルナビゲーションバーがあり、さまざまなオプションを簡単に操作できます。

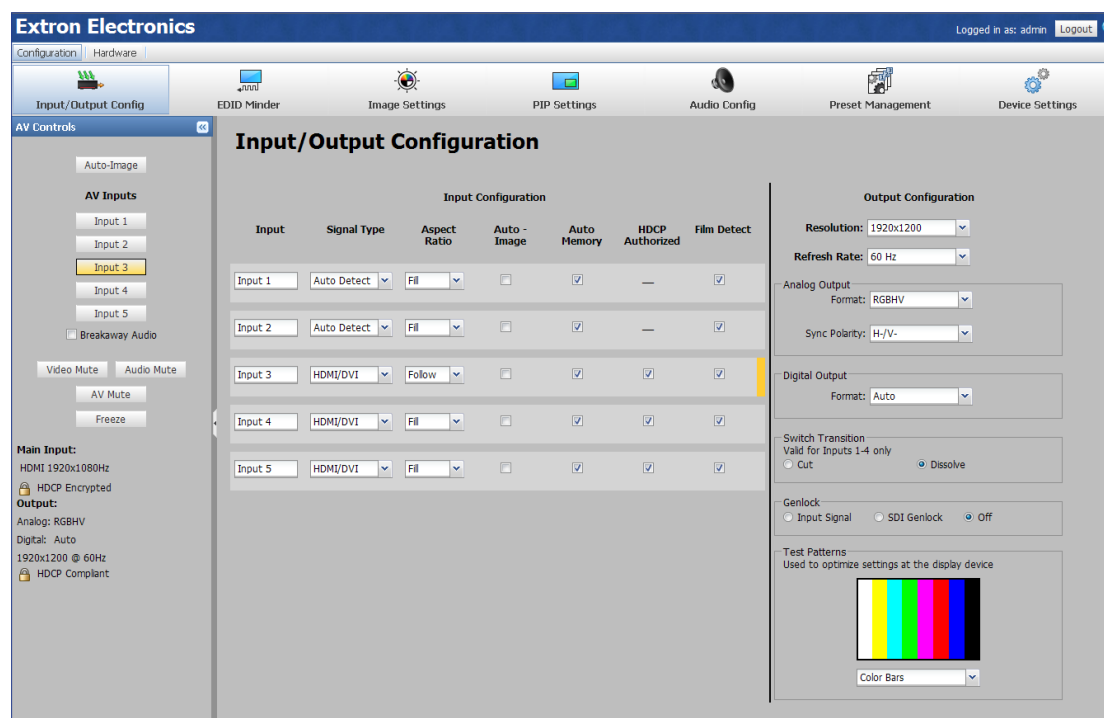
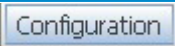



図 6-1　System Status のページ

Configuration (設定)ページ

メモ　Hardware ページが選択されている場合は、Configuration タブ Configuration をクリックして Configuration(設定)ページを表示します。

Configuration ページでは以下の項目の設定が可能です。

- Input/Output Configuration (入出力の設定) ● EDID Minder ● Image Settings (画像の設定)
- PIP Settings (PIP設定) ● Audio Configuration (オーディオ設定)
- Preset Management (プリセットの管理) ● Device Settings (デバイス設定)

図 5-2　Configuration (設定) ページのナビゲーションバー

ウエブページは、左側のオーディオ/ビデオのコントロールと右側のオプションのページの、2つのセクションに分かれています。

オーディオ/ビデオのコントロールパネル

メモ　このコントロールパネルのセクションはセクションのつまみ (右の画像を参照) をクリックすることで、表示または非表示にすることができます。

Auto-Image
AV Inputs
Input 1
Input 2

オーディオ/ビデオのコントロールパネルを使用して、入力選択、ビデオおよびオーディオのミュートをオン/オフ、画像のフリーズ、オートイメージなどを実行することができます。

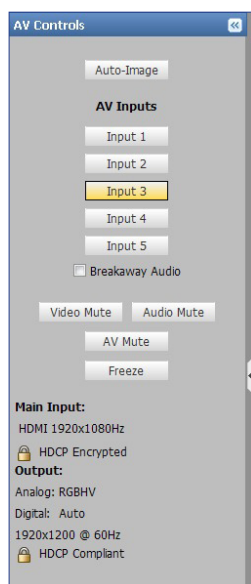
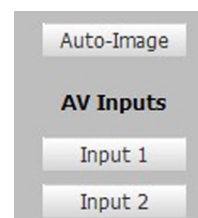



図 5-3　オーディオとビデオのコントロールパネル

パネルの下部には、信号フォーマットおよびHDCPステータスなど、入出力のステータスの概要が表示されます。

Auto-Image™ (オートイメージ)ボタン

このボタンをクリックして、現在選択されている入力に対して、オートイメージを実行します。

オーディオ/ビデオの入力ボタン (入力1から5)

これらをクリックして、入力を選択します。新しい入力が選択されると入力信号に応じてパネル下部の情報が更新されます。

Breakaway Audio (オーディオブレイクアウェイ:オーディオの非連動) チェックボックス (オーディオ対応モデルのみ)

このチェックボックスをオンにすると、オーディオブレイクアウェイが有効になります。ビデオ選択用とオーディオ選択用の入力ボタンが表示されます。
ビデオの項目から、使用するビデオに関連付けられた入力ボタンをクリックします。
オーディオの項目から、使用するオーディオに関連付けられた入力ボタンをクリックします。

メモ PIPモードでは、オーディオブレイクアウェイはサポートされていません。オーディオはメインウィンドウまたはPIPウィンドウのいずれかに準拠します (Devices Settings(デバイス設定) 画面で設定します)。

オーディオのブレイクアウェイ(非連動)について

選択されている入力のオーディオフォーマットがデジタルオーディオに設定されている場合

- 他の入力のデジタルオーディオを選択することは出来ません
- アナログオーディオに設定されている入力から、オーディオを選択できます。
- ビデオのみ独立して(ビデオの非連動)スイッチングを行うことは出来ません。
- オーディオのみの独立したスイッチング(オーディオの非連動)で、アナログオーディオ入力に設定された入力を選択した後は、ビデオのみを独立して(ビデオの非連動)スイッチングが可能です。

選択されている入力のオーディオフォーマットがアナログオーディオに設定されている場合

- オーディオのみの独立したスイッチング(オーディオの非連動)は、アナログオーディオ入力に設定された入力間で行えます。
- オーディオのみのスイッチング(オーディオの非連動)は、デジタルオーディオ入力に設定された入力では行うことが出来ません
- ビデオのみのスイッチング(ビデオの非連動)は、入力のオーディオ設定に関わらず可能です。
- ビデオのみのスイッチング(ビデオの非連動)でアナログオーディオに設定された入力から、デジタルオーディオに設定された入力に切り替えると、デジタルオーディオに設定された入力が選択できるようになります。

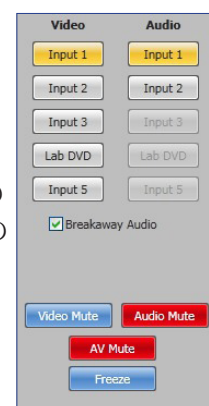
Breakaway Audio チェックボックスをオフにすると、オーディオブレイクアウェイが無効になります。

ビデオとオーディオのミュートボタン

Video Mute (ビデオミュート)をクリックすると、ビデオ信号のみがミュートされ、ボタンの色が青に変わります。

Audio Mute (オーディオミュート)をクリックすると、オーディオのみがミュートされ、ボタンの色が赤に変わります。

AV Mute (オーディオ/ビデオのミュート)をクリックすると、ビデオとオーディオの両方が同時にミュートされます。ボタンの色が赤に変わり、ビデオとオーディオのミュートボタンもミュート状態の色に変わります。

信号のミュートを解除するには、該当のボタンをクリックします。ボタンがデフォルトの色に戻り、信号のミュートが解除されたことを示します。

Freeze (フリーズ) ボタン

Freeze (フリーズ)をクリックすると、入力映像がフリーズされます。ボタンの色が青に変わり、映像がフリーズされたことを示します。

映像のフリーズを解除するには、再度クリックします。ボタンは元の色に戻ります。

Input/Output Configuration(入出力の設定)ページ

Input/Output Configボタン

をクリックして、このページを開きます。

Input Configuration(入力設定)パネル

Input Configuration (入力設定)パネルでは、5つの入力のそれぞれに対して、入力名の設定、信号のフォーマット、アスペクトレシオ、オートイメージ、オートメモリー、HDCP認証の有無、およびフィルム検出などの設定が可能です。また、パネルの右側には、現在選択されているビデオとオーディオを表示するインジケーターがあり、下図の例では入力2のオーディオと、Lab DVD(入力4)のビデオが選択されていることが分かります。

図 5-3　Input Configuration (入力設定)パネル

Input (入力: 名前の変更)

入力名フィールドの内側をクリックして、その入力名を入力できます。入力名は、英数字半角 16文字に制限されています。デフォルトの入力名は、Input <番号>になります。

メモ　1文字分のスペースを入力すると、入力の名前がデフォルトにリセットされます。

Signal Type (信号フォーマット)

入力1および2の信号フォーマットをAuto Detect(自動検出)、RGB (RGBHV、RGBS、RGsB)、Auto YUV (自動YUV)、RGBcvS、S-Video (Sビデオ)、Composite (コンポジット) から選択できます。入力3、4、5に使用可能な信号のフォーマットは、HDMI/DVIのみです。

Signal Type ドロップダウンリストから、入力ビデオフォーマットを選択します。

入力1および2用に使用可能な信号フォーマットには以下が含まれます。

- Auto – Detect (自動検出) — 入力フォーマットの変更が検出されると、入力信号フォーマットを自動的に再設定します。
- RGB Scaled (RGBHV、RGBS、RGsB)
- Auto YUV (自動YUV) — YUViあるいはYUVp/HDTVが入力されて いるのかを自動で検出し、それに応じて入力を設定します。
- RGBcvS
- Sビデオ
- コンポジット

Aspect Ratio（アスペクトレシオ）

FillまたはFollowをドロップダウンリストから選択して、アスペクトレシオを設定します。

- Fill — 入力信号を出力画面全体に引き伸ばして表示します。
- Follow — 入力信号のアスペクトレシオを保持します。出力解像度のアスペクトレシオと入力のアスペクトレシオが異なる場合、黒いレターボックスまたはピラーボックスバー付きで表示されます。

Auto-Image™（オートイメージ）

チェックボックスをオンにすると入力同期信号の変化を検出した場合、オートイメージが適用されます。

Auto Memory（オートメモリー）

チェックボックスをオンにするとオートメモリーが有効になり、以前に入力された信号の映像設定値を自動的に呼び出します。

オートメモリーが無効になっている場合、DVS 605は入力される信号すべてを今まで入力されたことの無い新たな入力信号として扱います。

オートメモリーとオートイメージの関係については、3章14ページの「オートメモリー」の説明と、「図3-13 オートメモリーとオートイメージの詳細」を参照してください。

HDCP Authorized (HDCP認証)

入力レポートをHDCP認証済みのデバイスとするには、HDCP Authorized（HDCP認証済み）チェックボックス（入力3から5）をオンにします。チェックボックスがオンになっていない場合、ソースは出力を暗号化できなくなります。これにより、一部のコンテンツが出力されなくなる場合があります。

メモ　HDCP Authorized オプションは、アナログ入力1と2には使用できません。

Film Detect (フィルムモード検出)

フィルム検出をオンにするとNTSC/PAL/1080i入力信号に対して、3:2、2:2、24:1フィルムプルダウン検出が有効になります。

Output Configuration (出力設定) パネル

画面右側では出力の解像度、リフレッシュレート、アナログ出力の信号フォーマットおよび同期極性、デジタル出力の信号フォーマットなどのビデオ出力に関連した設定を行うことができます。また入力間のスイッチングトランジションモード(入力の切替効果)を設定できるほか、ディスプレイの調整などに使用可能なテストパターンの選択と出力も可能です。また、ゲンロックの設定もここで行います。

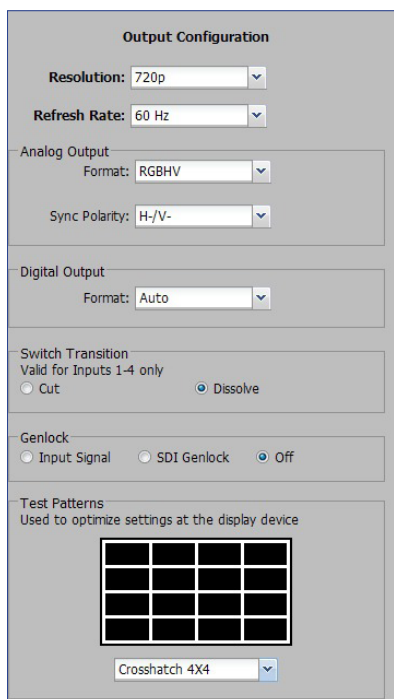



図 5-1　Output Configuration (出力設定)パネル

Resolution (解像度)

ドロップダウンリストから、出力解像度を選択します。選択可能な解像度には、ユーザーがカスタマイズ可能な5つのオプション、C1～C5が含まれます。(３章8ページの解像度およびリフレッシュレート表を参照してください。) デフォルトは、720p/60 Hzです。

Refresh Rate (リフレッシュレート)

ドロップダウンリストから、リフレッシュレートを選択します。

Analog Output - Format (アナログ信号フォーマット)

ドロップダウンリストから、信号フォーマットを選択します。選択可能なフォーマットは、RGBHV (デフォルト)、RGBS、RGBcvS、(Y、R-Y、B-Y 2値)、および (Y、R-Y、B-Y 3値) です。

Analog Output - Sync Polarity (同期信号の極性)

ロップダウンリストボックスから、同期信号の極性を選択します。
H-/ V- (デフォルト)、H+/ V-、H+/ V+、H-/ V+が選択可能です。

メモ 同期信号の極性のオプションが使用できるのは、出力フォーマットがRGBHVの場合のみです。

Digital Output - Format（デジタル出力の信号フォーマット）

ドロップダウンリストから、信号フォーマットを選択します。選択可能なフォーマットは、Auto（シンク/ディスプレイのEDIDによる）、DVI、HDMI RGB、HDMI YUV 444 Full、HDMI YUV 444 Limited、HDMI YUV 422 Full、HDMI YUV 422 Limitedです。

Switch Transition（スイッチング時のトランジション効果）

入力切り替え時のトランジション効果をカットまたはディゾルブのいずれかに設定可能です。

Genlock（ゲンロック）

必要に応じてゲンロックのオフ、SDIゲンロックまたは入力信号ゲンロックをオンに設定できます。
詳細については、３章10ページの「ゲンロック/AFLモード」を参照してください。

メモ SDIゲンロックオプションが使用できるのは、DVS 605 DおよびDVS 605 ADモデルのみです。

Test Pattern（テストパターン）

ドロップダウンリストからテストパターンを選択します。
ディスプレイのセットアップなどに使用できます。
詳細については、３章15ページの「テストパターン」を参照してください。

メモ テストパターンは入力信号が無い場合でも使用可能です。

EDID Minder (EDIDマインダー)のページ

エクストロンのEDIDマインダーを使用すると、入力ソースとのEDID通信を自動的に管理することが可能です。

EDIDマインダーのボタン EDID Minder をクリックして、EDIDマインダーページを開きます。

このページでは、現在割り当てられているEDIDプロパティを表示できるほか、任意の入力に対してRGB、またはHDMI/DVI入力タイプを選択して割り当てることができます。EDIDファイルをDVS 605にロードしたり、DVS 605からファイルに書き出すことができます。

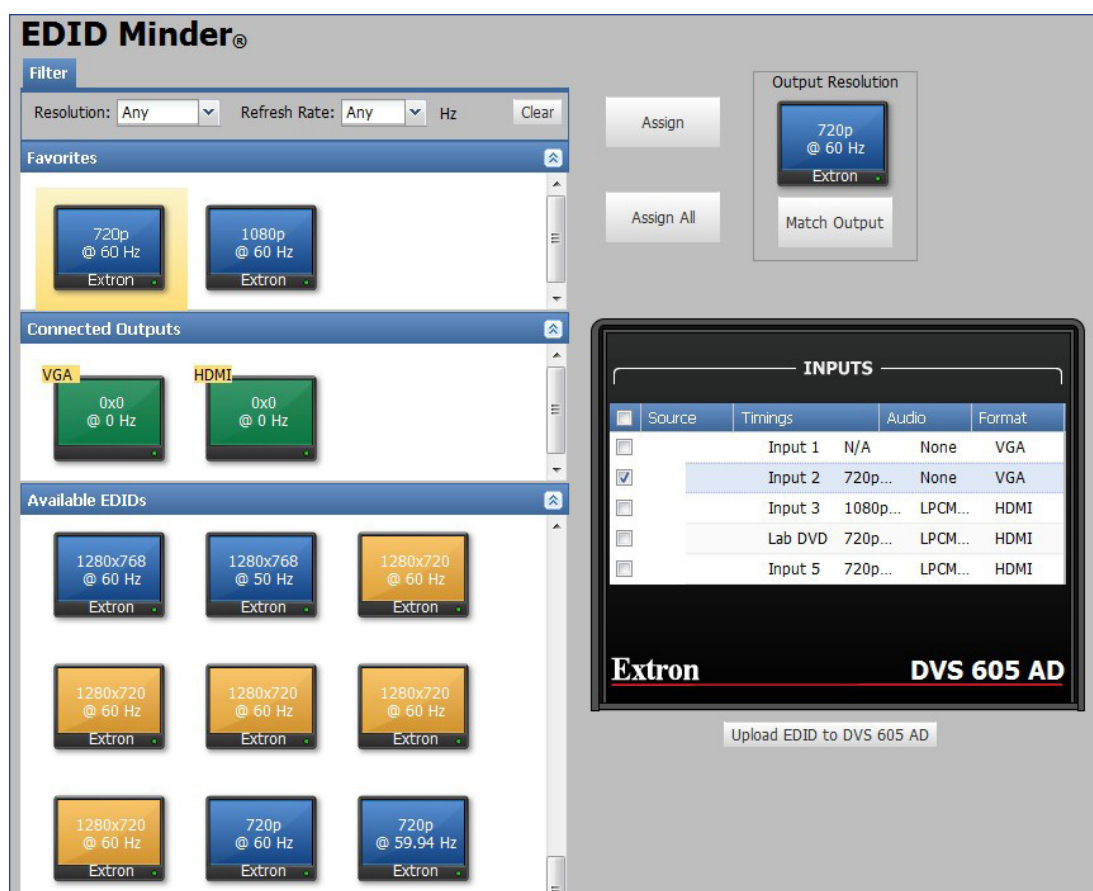



図 5-2　EDIDマインダーのページ

EDIDマインダーの画面には、使用可能なEDIDの設定値と出力に接続されているディスプレイのEDIDが、Favorites（お気に入り）、Connected Outputs (接続されている機器)、およびAvailable EDIDs（使用可能なEDID）としてグループ化されて表示されます。デフォルトで内蔵しているEDIDデータは青色、出力に接続されている機器のEDID情報は緑色、カスタムでアップロードまたは保存されたEDIDは黄色のディスプレイ アイコンとして表示されます。（上の図を参照）

各入力に現在割り当てられているEDID情報は、オーディオとビデオのフォーマットも含め、画面右側のINPUTS（入力）の表に表示されます。オーディオフォーマットはオーディオ設定のページで設定します。ビデオ入力フォーマットは、入出力設定のページで設定したものがこの表に反映されます。

EDIDの割り当て

任意の入力に対するEDIDの割り当ては以下の手順で行います。

1. 右側のInputs（入力）画面の一覧から、EDIDを設定する入力を1つまたは複数選択します。（下の図を参照）。
2. 画面左側の青、緑、黄色のディスプレイアイコンで表示されたEDID一覧から、EDIDを選択します。
3. Assign（割り当て）ボタンをクリックすると、1で選択した1つまたは複数の入力に 2. で選択したEDIDが割り当てられます。

図 5-3　EDIDの割り当て

メモ 入力を選択せずに、Assign (割り当て) をクリックすると、エラーメッセージが表示されます。

任意のEDIDをすべての入力に割り当てるには、以下の手順を行います。

1. 画面左側の青、緑、黄色のディスプレイアイコンで表示されたEDID一覧から、任意のEDIDを選択します。
2. Assign All（すべて割り当て）ボタンをクリックします。

メモ Assign All (すべて割り当て) を選択すると、入力のチェックボックスにチェックが入っているかいないかに関わらず、選択されたEDIDがすべての入力に割り当てられます。

選択された入力のEDIDを、現在の出力解像度の設定に一致させるには、以下の手順を行います。

1. 右側の入力の表から、入力を1つまたは複数選択します（上の図を参照）。
2. 画面右上のOutput Resolution アイコンの下にある、Match Output（出力に一致）ボタンをクリックします。

Image Settings (映像の設定) ページ

このページでは、入力信号のサンプリング設定、映像調整、ユーザープリセットと入力プリセットの保存と呼び出し、オーバースキャンの設定が可能です。

Image Settings(映像の設定)ボタン をクリックして、このページを開きます。

図 5-4　Image Settings (映像の設定)ページ

Signal Sampling (信号のサンプリング)

このセクションでは、選択中の入力信号のサンプリング設定を調整できます。調整可能な項目は、アクティブライン数、アクティブピクセル数、トータルピクセル数、水平および垂直の開始位置の設定、ピクセル位相(フェーズ)です。また、FillまたはFollowモードを指定)を入力に対して実行できます。

それぞれの設定は直接フィールドに値を入力するか、上下スクロール(▲)および(▼)ボタンをクリックして、設定値を調整できます。各設定値の横にアスタリスクが表示されている場合は、その値が検出された入力信号タイミングに対するデフォルト値であることを示しています。

オートイメージを実行すると、選択中の入力に対して自動的にサイズ調整およびセンタリング調整を行います。入力されたことの無い新たな入力信号タイミングを検出すると、DVS 605は入力信号タイミングを計測し解像度を特定します。

オートイメージの実行:

1. オートイメージボタンをクリックします。ドロップダウンリストが開きます。
2. オートイメージをFill(出力画面全体に引き伸ばして表示)または、Follow(入力のアスペクトレシオを維持)を指定して選択します。

オートイメージの設定については、5章6ページの「入力設定」の「オートイメージ」を参照してください。

Picture Control（画質調整）

このセクションには、選択中の入力で調整可能な輝度、コントラスト、カラー、ティント、および
ディテールなどの設定項目が表示されます。任意の項目 (輝度、コントラスト、カラー、ティント、または
ディテール)のスライダーをマウスで操作し設定可能です。
また、数値フィールド内に値を直接入力するか、上下スクロール(▲)および(▼)ボタンをクリックして、
フィールドの値を変更します。

User Presets （ユーザープリセット）

Image Settings (画像設定) ページのこのセクションでは、ユーザーは現在有効な入力に対して、入力
チャンネルごとに最大16のユーザープリセットを保存したり、呼び出したりできます。ユーザー
プリセットには画像のコントロールの領域のみが含まれます。

プリセットに含まれている設定				
設定	ユーザープリセット	入力プリセット	PIP プリセット	オートメモリー
水平/垂直開始		○		○
アクティブピクセル		○		○
アクティブライン		○		○
トータルピクセル		○		○
ピクセル位相		○		○
輝度とコントラスト	○	○		○
色彩とティント	○	○		○
ディテール	○	○		○
入力の種類		○		
オーディオ入力ゲインと減衰		○		
メインイメージウィンドウのサイズ と位置	○	○	○	○
PIP イメージ/ウィンドウのサイズ と位置			○	
プリセット名	○	○	○	
メインの入力			○*	
PIP の入力			○*	
フィルムモード		○		
使用可能なプリセット数	入力チャンネルごとに16	128 グローバル	16 グローバル	入力チャンネルごとに32
呼び出す場所	現在の入力	プリセットに保存されている入力フォーマットをサポートする任意の入力	入力5以外の任意の入力	信号により自動的に呼び出し

＊ PIPプリセットの呼び出し時にはメインおよびPIPウインドウで選択されていた入力も同時に呼び出すか、呼び出さないかを選択可能です。

図 5-5　プリセットの設定

Input Presets（入力プリセット）

DVS 605は合計128のグローバル入力プリセットが使用できます。入力プリセットには様々な入力、映像に関する設定値が含まれます。(前頁の表を参照) これらの設定値を保存して、サイズ、位置、コントラスト、輝度、カラーおよびティント（該当する場合）、ディテール、入力設定値などが保存されます。

メモ 入力プリセットは、プリセットが保存されたときに入力されていた入力信号フォーマットをサポートする入力ポートのみ呼び出せます。また入力プリセットが保存されたときに入力されていた解像度の信号にのみ適用されます。

入力プリセットの作成と保存：

1. 信号サンプリング、画質、サイズの設定（５章15ページの「サイズと位置」を参照）などを必要に応じて調整します。
2. プリセット番号ドロップダウンリストから、プリセット番号を選択します。
3. プリセット名フィールドに、プリセットの名前を入力します。（半角英数字のみ）
4. Save（保存）をクリックします。入力プリセットが既に存在する場合、確認のダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスで、Yes（はい）をクリックすると、今まで保存されていた入力プリセットは上書きされます。

   設定は選択されたプリセット場番号に保存され、後で呼び出すことができます。
   入力プリセットの名前を変更する方法については、５章19ページの「Preset Management（プリセットの管理）ページ」を参照してください。

入力プリセットの呼び出し：

1. プリセット番号ドロップダウンリストから、呼び出すプリセットを選択します。
2. Recall（呼び出し）をクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。

メモ 割り当てられていないプリセットを選択した場合、Recallはできません。

3. ダイアログボックスで、Yes をクリックします。

メモ プリセットを呼び出すと、それまでの入力設定や調整内容が置き換わります。 入力プリセットは Preset Management (プリセットの管理) 画面から呼び出すこともできます。

入力プリセットを削除する手順については、５章19ページの「Preset Management（プリセットの管理）ページ」を参照してください。

Overscan（オーバースキャン）

TV放送信号に一般的に含まれている補助データなどが画面に表示されるのを防ぐため、入力映像をズームすることにより、映像の4辺を表示エリアから外しマスクします。YUVおよびRGB入力の場合はオーバースキャンを有効にしてオートイメージを実行すると、Auto Phase（フェーズの自動調整）も実行され、オーバースキャンの設定値に応じて、入力のセンタリングおよびサイズが調整されます。

メモ オーバースキャンはSMPTE入力レート (NTSC、PAL、480p、576p、720p、1080i、または1080p) にのみ適用されます。

オーバースキャンは、それぞれの入力フォーマットに対応したドロップダウンリストから比率（0.0%、2.5%、または5.0%）を選択して設定 します。

PIP Settings (PIPの設定) ページ

PIPモードでは、2つの映像を同時に表示することができます。このページから、入力の選択、メイン入力とPIP入力のスワップ、画質調整、メインウィンドウとPIPウィンドウの位置とサイズの調整、PIPプリセットの保存と呼び出しを行うことができます。

メモ PIPモードでは、オーディオブレイクアウェイはサポートされていません。オーディオは、メインウィンドウまたはPIPウィンドウのいずれかに選択可能です (Device Settings {デバイス設定} 画面で設定します)。

PIP Setting ボタン

をクリックして、PIP Settings (PIPの設定) ページを開きます。

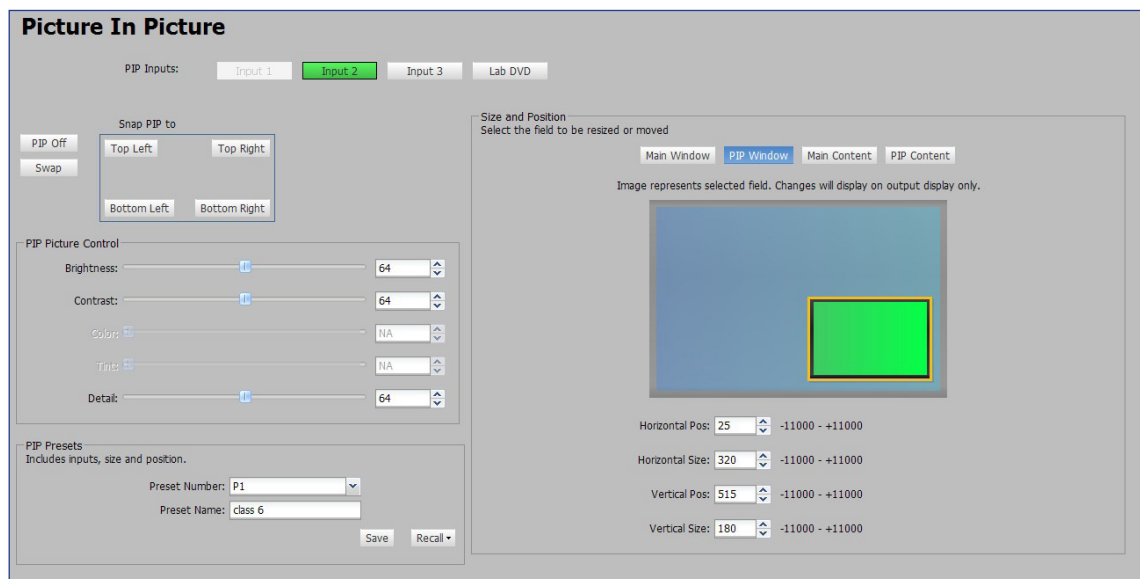



図 5-6　PIP Settings (PIPの設定)ページ

PIP入力の選択

入力1から4はPIP入力として選択できます。使用可能な入力のボタンをクリックして、コンテンツをPIPウィンドウに表示します。

メモ メイン入力とPIP入力を同じにすることはできないため、使用可能なPIP入力のリストでは、現在選択されているオーディオ/ビデオ入力は無効になります。・入力5はPIPモード用の入力としては選択できません。・PIPモードが有効でないと、PIP Off (PIPをオフ) とSwap (スワップ) ボタンは無効になります。

PIP機能をオフにするには、PIP Offボタンをクリックします。

現在有効なメインウィンドウを現在の小さく表示されているPIP入力の画面とスワップするには、Swap (スワップ) ボタンをクリックします。

Snap PIP to (PIPをすばやく配置する)

PIPウィンドウをメインウィンドウの隅に配置するには、Snap PIPディスプレイのグリッド内で、Top Left (左上)、Top Right (右上)、Bottom Left (左下)、または Bottom Right (右下) をクリックします。これにより、PIPウィンドウがメインウィンドウの指定の隅に配置されます。Snap To (すばやく配置する) 機能を使用すると、PIPウィンドウは、出力ラスターのエッジから常に25ピクセル離れた位置になります。

PIP Picture Controls (PIPの画質)

輝度、コントラスト、カラー、ティント、ディテールなどの画質調整を行うことができます。

メモ
- 入力信号がない場合には画質調整は適用されません。信号がない間に行われた変更内容は信号が検出されると失われます。
- PIPモードを解除した後も、PIPの画質設定は保持されます。

PIPの画質調整を行うには、輝度、コントラスト、カラー、ティント、ディテールのスライダーをクリックして希望の値にドラッグします。
または、スライダー横のフィールドに直接値を入力するか、上下スクロール(▲)および(▼)ボタンをクリックします。

サイズと位置

このセクションでは、PIPウィンドウと入力映像、およびメインウィンドウと入力映像のサイズと位置を調整できます。設定はPIPプリセットに保存できます。

メモ DVS 605をオフラインで設定している場合には、PIPウィンドウ、PIPコンテンツ、メインウィンドウ、およびメインコンテンツのサイズと位置設定は無効になります。

コンテンツまたはウィンドウの位置とサイズは、Horizontal Position(水平位置)、Horizontal Size(水平サイズ)、Vertical Position(垂直位置)、および Vertical Size(垂直サイズ)フィールド内の数値を変更して調整します。

位置とサイズを数値で調整する:

1. Size and Position (サイズと位置)セクションで、調整するウィンドウまたはコンテンツのタブをクリックします。
2. 水平サイズおよび 垂直サイズフィールドに値を入力するか、上スクロール(▲)および下スクロール(▼)ボタンをクリックしてサイズを調整します。
3. 水平位置と垂直位置フィールドに値を入力するか、上スクロール(▲)および下スクロール(▼)ボタンをクリックして位置を調整します。

メモ 手順2または3では、許容範囲を超えるまたは下回る値が入力された場合、赤い枠が表示され、ポップアップウィンドウ内に許容される最低値または最高値が示されます。

PIP Presets（PIPプリセット）

16のグローバルPIPプリセットがDVS 605に使用できます。PIPプリセットには、PIPのサイズと位置の設定が含まれます。また、PIPプリセットには、プリセットが保存されたときに有効であったメイン入力とPIP入力も含まれます。デフォルトでは、最初の10のPIPプリセットには既に関連付けられた設定が含まれていますが、それらは上書きできます。

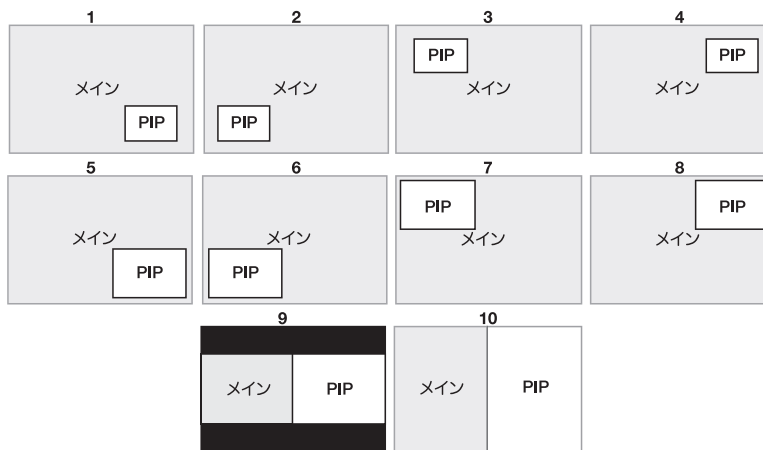



図 5-7　PIPプリセットのデフォルト画面での位置

PIPプリセットの作成と保存：

1. PIP入力として使用する適用可能な入力（1から4）のボタンをクリックします。
2. 必要に応じて画像、サイズ、位置の設定を、メインウィンドウまたはPIPウィンドウで調整します。
3. PIPプリセット番号のドロップダウンリストから、番号を選択します。
4. プリセット名フィールドに、PIPプリセットの名前を入力します。

メモ　PIP入力名は、16文字に制限されています。

5. Save（保存）をクリックします。
6. Yes（はい）をクリックして、以前のPIPプリセットを上書きします。
   設定はPIPプリセットとしてに保存され、後で呼び出すことができます。

PIPプリセットの呼び出し：

1. プリセット番号のドロップダウンリストから、呼び出すプリセットを選択します。
2. Recall（呼び出し）をクリックして、ドロップダウンリスト開き、次のいずれかを選択します。
   a. Recall：Input, Size & Position — 入力、サイズ、位置の設定を呼び出します。
   b. Recall：Size & Position — 、サイズ、位置の設定のみを呼び出します。

確認のダイアログボックスが開きます。

3. ダイアログボックスで、Yesをクリックします。

メモ　プリセットを呼び出すと、PIP設定の調整内容はプリセットの値で上書きされます。

Audio Settings (オーディオ設定) ページ

このページでは、オーディオ入力フォーマットとゲイン(アナログ入力の場合)、オーディオ出力フォーマットなどのの設定、調整が行えます。

メモ DVS 605とDVS 605 Dモデルではアナログ入力が無いため、これらのモデルはオーディオ入力1と2は使用できません。また、デジタルオーディオ入力ゲインは調整できません。

Audio Configボタン   をクリックして、Audio Config ページを開きます。

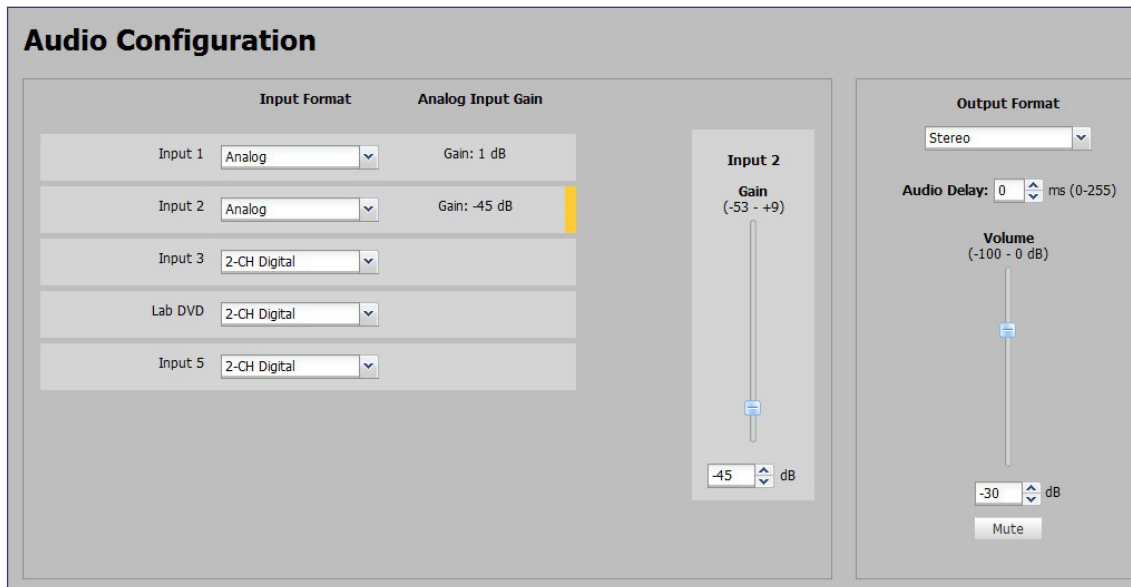



図 5-8 Audio Config (オーディオ設定)ページ

オーディオ入力の設定:

1. Input Format(入力フォーマット)ドロップダウンリストから、入力フォーマットを選択します。

   入力1および2で使用可能なフォーマットは以下の通りです。

   - なし
   - アナログ(オーディオ対応モデルのみ)

   入力3、4、および5で使用可能なフォーマットは以下の通りです:。

   - なし
   - アナログ(オーディオ対応モデルのみ)
   - 2チャンネルデジタル
   - フルデジタル
   - 2チャンネル - 自動(オーディオ対応モデルのみ)
   - フル - 自動(オーディオ対応モデルのみ)

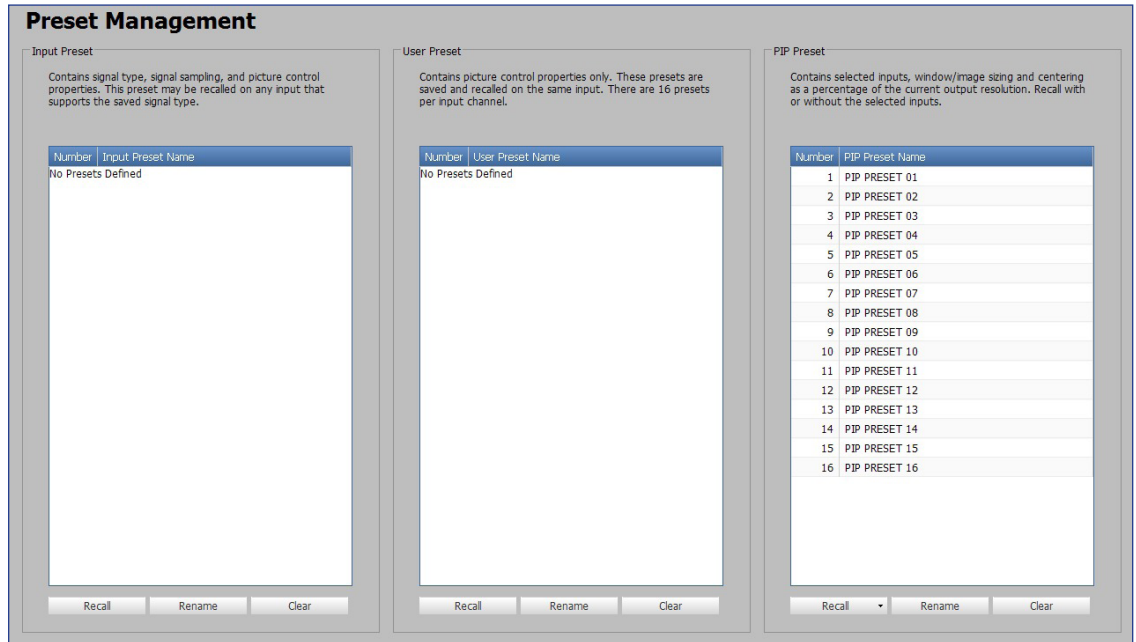
メモ 自動モードではデジタルオーディオが検出された場合にはそれが使用されます。デジタルオーディオが無い場合には、デフォルトのアナログオーディオが使用されます。

2. Gain（ゲイン）スライダーのつまみをクリックしてドラッグするか、スライダーの下のフィールドの上下スクロール（▲）および（▼）ボタンをクリックするか、またはフィールドに値を入力します。

メモ ゲインおよび減衰は、アナログまたは自動フォーマットの時のみ調整可能です。また、ゲイン/減衰量の調整はアナログ入力にのみ可能です。

オーディオ出力フォーマットの設定：

1. Output Format（出力フォーマット）ドロップダウンリストから、オーディオ出力のフォーマットを選択します。選択可能なフォーマットは以下の通りです。
   - Dual Mono（デュアルモノ）
   - Stereo（ステレオ）
2. Audio Delay（オーディオの遅延）フィールドで、上下スクロール（▲）および（▼）ボタンをクリックするか、値を直接入力します。オーディオの遅延は0 msから255 msに設定できます。

メモ DVS 605では、内部ビデオ処理による遅延を補正するために、自動的にオーディオ信号を遅延します。

3. Volume（音量）スライダーのつまみをクリックしてドラッグするか、上下スクロール（▲）および（▼）ボタンをクリックします。またはフィールドに値を直接入力して音量を調整します。

オーディオ出力をミュートするには、音量スライダーの下の Mute（ミュート）ボタンをクリックします。Mute（ミュート）ボタンの色が赤に変わります。

Preset Management (プリセットの管理) ページ

この Preset Management (プリセットの管理) ページから、設定済みの入力プリセット、ユーザープリセット、およびPIPプリセットにアクセスできます。各プリセットに対しては名前の変更、呼び出し、消去を行うことができます。各プリセットタイプ内に含まれる設定に関する簡単な説明が、各リストの上部に表示されます。

Preset Management ボタン Preset Management をクリックして、Preset Management (プリセットの管理) ページを開きます。

図 5-9　Preset Management (プリセットの管理) ページ

メモ　プリセットリストの列の順序は変更できます。例えば、プリセット名をプリセット番号の左に表示することができます。

列の順序を変更するには、列のタイトルをクリックして、必要に応じて他の列の左または右にドラッグアンドドロップします。

プリセットの呼び出し:

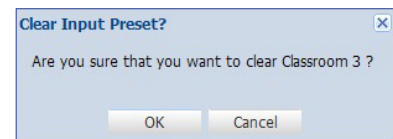
1. 呼び出す入力プリセット、ユーザープリセット、またはPIPプリセットを選択します。
2. それぞれのリストの下にある Recall (呼び出し) ボタンをクリックします。
   PIP Preset (PIP プリセット) セクションの Recall をクリックすると、ドロップダウンリストが開きます。次のいずれかを選択します。
   a. Recall (入力、サイズ、位置)、または
   b. Recall (サイズと位置のみ)
3. 確認のダイアログボックスが表示されるので、Yes (はい) をクリックします。

プリセットの名前を変更する:

1. 名前を変更する入力プリセット、ユーザープリセット、またはPIPプリセットを選択します。
2. Rename (名前の変更) をクリックします。カーソルが Name (名前) フィールドに移動します。
3. Name フィールドに、名前を入力します。
4. キーボードの <Enter> キーを押すと、プリセット名が変更されます。

プリセットを消去する：

1. 消去する入力プリセット、ユーザープリセット、またはPIPプリセットを選択します。
2. 画面の同じセクションにある Clear（消去）ボタンをクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。
3. OKをクリックします。プリセットが入力プリセットまたはユーザープリセットの場合、プリセットはリストから完全に削除されます。プリセットがPIPプリセットの場合、そのプリセットは工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。

   入力の消去を確認するダイアログボックスが開きます。

メモ PIPプリセットはClear（消去）すると工場出荷時のデフォルト設定に戻ります。完全に消去（削除）することはできません。

Device Settings (デバイスの設定) ページ

このページでは、PIP のオーディオ設定、IRコントロール、HDCP通知、スクリーンセーバー設定、入力のオートスイッチングの有効化などの設定ができます。

このボタン をクリックして、Device Settings ページを開きます。

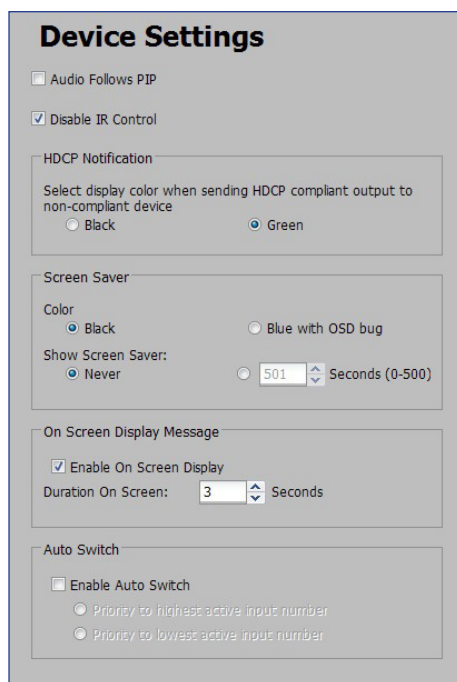



図 5-10　Device Settings（デバイスの設定）ページ

PIP入力のオーディオを使用する場合は、Audio Follows PIP（オーディオはPIPに追従）チェックボックスをオンにします。

メイン入力のオーディオを使用する場合は、Audio Follows PIPチェックボックスをオフにします。

IRコントロールを無効にするには、Disable IR Control（IRコントロールを無効にする）チェックボックスをオンにします。

IRコントロールを再度有効にするには、Disable IR Control（IRコントロールを無効にする）チェックボックスをオフにします。

HDCP Notification（HDCP通知）

HDCP通知は、HDCPにより保護されたコンテンツで、出力が制限されていることを示します。

Green（緑色）オプションを選択すると、接続されたディスプレイデバイスがHDCP準拠でない場合や、HDCP暗号化入力が選択されている場合に、HDCP CONTENT（HDCPコンテンツ）テキスト付きの緑色の画面が出力に表示されます。

Black（黒）オプションを選択すると、HDCP暗号化入力が選択されていて接続されたディスプレイがHDCP準拠していない場合に、出力が黒にミュートされます。
HDCP通知の色はGreen、Blackのラジオボタンで選択します。

Screen Saver（スクリーンセーバー）設定

ビデオ入力信号が検出されなくなると、スクリーンセーバーモードに入ります。設定された時間が経過した後、出力同期信号を遮断することができます。この設定により、ディスプレイの低電力、スタンバイモードを 使用することができます。

スクリーンセーバーのオプションを設定する:

1. 黒（デフォルト）または Blue with OSD bug（ブルーバック上にOSD表示）ラジオボタンをクリックして、スクリーンセーバーの背景色のカラーを設定します。
   - 黒 — 出力同期が遮断されるまで、ビデオ出力を黒にミュートします。
   - Blue with OSD bug — 出力同期が遮断されるまでの間、ブルーバック上でOSDが移動しながら「DVS 605: Input X No Signal（入力X信号なし）」と表示します。
2. スクリーンセーバーの表示時間は以下のように設定します。

   a. スクリーンセーバーなし（出力同期は遮断されません）。Never（なし）ラジオボタンをクリックします。

   または、

   b. スクリーンセーバーの表示時間（1から500秒）。表示時間フィールドのラジオボタンをクリックしてから、上下スクロール（▲）および（▼）ボタンで設定します。あるいは、このフィールドに値を入力します。

メモ 表示時間をゼロに設定すると、入力が検出されない場合、出力同期信号が即座に遮断されます。

On Screen Display Message（OSD）

この機能をオンにすると、入力を切り替えた後、選択された入力番号と検出された信号フォーマットをOSD表示します。OSDの表示時間は1秒から501秒に設定可能です。

OSDの表示設定:

1. Enable On Screen Display（オンスクリーンディスプレイを有効にする）チェックボックスをオンにします。
2. OSDを画面に表示する時間は、上下スクロール（▲）および（▼）ボタンをクリックするか、Duration on Screen（画面への表示時間）フィールドに値を入力します。

メモ 表示時間をゼロに設定すると、オンスクリーンディスプレイのメッセージが無効になります。

OSD表示を無効にするには、Enable On Screen Display チェックボックスをオフにするか、表示時間をゼロに設定します。

Auto Switch (オートスイッチ)

この設定ではオートスイッチの有効・無効と、入力選択を入力番号の大きい順に行うか、または小さい順に行うかの優先順位が設定できます。詳細については、3 ページの「入力のオートスイッチング」を参照してください。

自動入力スイッチングを有効にする：

1. Enable Auto Switch（自動スイッチを有効にする）チェックボックスをオンにします。
2. 優先順位選択のラジオボタンを選択します。以下のいずれかを選択します。
   a. 入力番号が大きく、かつ有効な信号が検出されている入力を優先
   b. 入力番号が小さく、かつ有効な信号が検出されている入力を優先

オートスイッチングオプションを無効にするには、Enable Auto Switch チェックボックスをオフにします。

Hardware (ハードウェア)ページ

Hardware (ハードウェア) タブ Hardware をクリックして、これらのページを開きます。

Hardware ページのオプションは次のとおりです。

- Unit Information (製品情報)
- Device Name (デバイス名)
- Connection (接続)
- Firmware Loader (ファームウェアローダー)
- Exec/Power Mode (パネルロック/電力モード)
- Date and Time (日付と時刻)
- Password (パスワード)
- Reset Device (デバイスをリセット)

図 5-11　Hardware ページ用のナビゲーションバー

Unit Information (ユニット情報)ページ

このページはDVS 605 の部品番号、モデル名、ファームウェアバージョンとビルド番号、および現在の内部温度(華氏/摂氏)などの情報を表示します。これらの情報は 表示のみで変更は出来ません。また、サードパーティー製ソフトウエアののライセンス情報にもアクセスできます。

このボタン Unit Information をクリックして、ページを開きます。

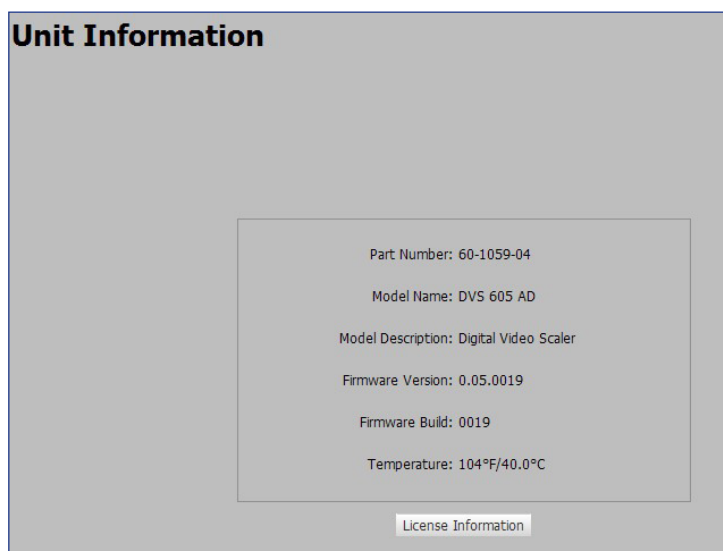
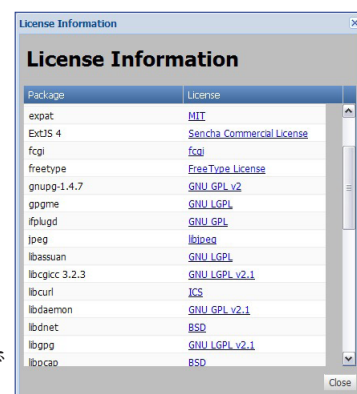



図 5-12　Unit Information (ユニット情報)ページ

サードパーティー 製のソフトウエアパッケージのライセンス情報を表示するには、License Information (ライセンス情報)ボタンをクリックします。DVS 605のLicense Information (ライセンス情報)ダイアログボックス (右の図) が開きます。

パッケージライセンスのリストを表示するには、該当するパッケージのライセンス列のリンクをクリックします。これにより、別のウィンドウが開き、パッケージライセンスのリストのコピーが表示されます。

License Information ダイアログボックスを閉じるには、Close (閉じる) をクリックします。

使用されているソフトウェアのリストについては、2ページのDVS 605で使用されているサードパーティー製ソフトウェアを参照してください。

Device Name (デバイス名) ページ

このページでは、DVS 605 に対して名前の割り当ておよび変更を行うことができます。

Device Nameボタン をクリックして、ページを開きます。

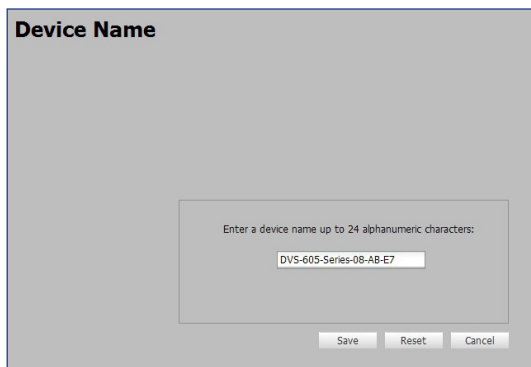



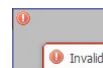
図 5-13　Device Name (デバイス名)ページ

名前の割り当てと変更:

1. 名前フィールドに機器名を入力します。名前には最長で24文字までのアルファベットおよび数字を使用できます。ただし、文字間にスペースはInvalid(無効)と表示されます。無効な文字が入力されると、名前フィールドの右に表示されます。

2. Save(保存)をクリックします。保存されたことを示す確認メッセージが表示されます。

Saved
Device name saved successfully

デバイスの名前をリセットするには、Reset(リセット)をクリックします。
名前は必ず入力する必要があります。名前フィールドを空白にすることはできません。

Connection Settings (接続の設定) ページ

このページでは、RS-232およびイーサーネット接続の設定を行います。

Connectionボタン Connection をクリックして、ページを開きます。

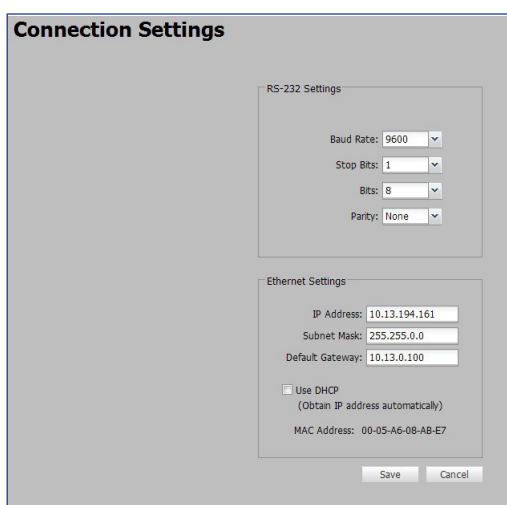



図 5-14　Connection Settings (接続設定)ページ

RS-232 Settings (RS-232の設定)

RS-232の設定:

1. Baud Rate(ボーレート)ドロップダウンリストから、適切なボーレートを選択します。
2. Stop Bits(ストップビット)ドロップダウンリストから、ストップビットを選択します。
3. Bits(ビット)ドロップダウンリストから、転送するデータビット数を選択します。
4. Parity(パリティ)ドロップダウンリストから、パリティチェックタイプを選択します。
5. Save(保存)をクリックします。

Ethernet Settings(イーサネット設定)

メモ デフォルト設定では、DHCPはオフに、IPアドレスは192.168.254.254に設定されています。

DHCPで使用したイーサネットの設定:

1. Ethernet Settings(イーサネット設定)で、Use DHCP(DHCPを使用)チェックボックスをオンにします。
2. ネットワーク上のDHCPサーバーから、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

イーサネット設定を静的IPアドレスで構成する:

1. IP Address(IP アドレス)フィールドに、IPアドレスを入力します。
2. Subnet Mask(サブネットマスク)フィールドに、サブネットマスクを入力します。
3. Default Gateway (デフォルトのゲートウェイ)フィールドに、使用するデフォルトゲートウェイのIPアドレス を入力します。
4. Save をクリックします。

Firmware Loader (ファームウェアローダー) ページ

このページでは、DVS 605のファームウェアをアップデートできます。

Firmware Loaderボタン [Firmware Loader] をクリックして、ページを開きます。

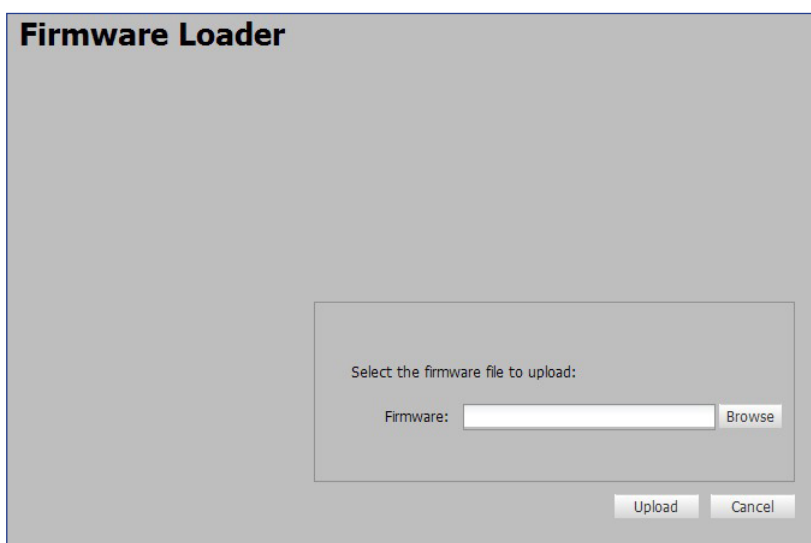



図 5-14　Firmware Loader (ファームウエアローダー) ページ

ファームウェアのアップデート：

1. Browse（参照）をクリックします。Choose File to Upload（アップロードするファイルを選択する）ダイアログボックスが開きます。
2. アップロードするファームウェアファイルを参照して選択します。有効なファームウェアファイルにはEFFまたはESFの拡張子が付いています。

メモ ファームウェアは、エクストロンのウェブサイトのFirmware Download Center (ファームウェアダウンロードセンター) ページからダウンロードできます。

3. Open（開く）をクリックします。ダイアログボックスが閉じられ、Firmware Loader画面に戻ります。
4. Upload（アップロード）をクリックします。インジケーターにアップロードのステータスおよび完了したことが表示されます。アップロードが完了すると自動的に再起動します。

Executive/Power Mode (パネルロックモード/パワーモード) ページ

このページでは、パネルロックモードおよびパワーモードを設定できます。また、接続されたディスプレイがパワーセーブモードに入ることができるように、ビデオおよび同期をミュートすることもできます。

Executive/Power Modeボタン Exec/Power Mode をクリックして、ページを開きます。

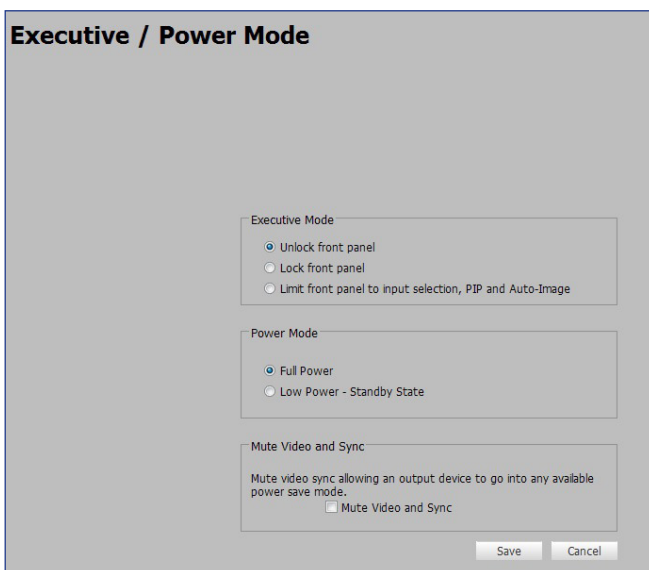



図 5-16　Executive/Power Mode (パネルロックモード/パワーモード) ページ

パネルロックモード

パネルロックモードを使用すると、DVS 605のフロントパネル機能のロックが可能です。以下の3種類の設定が可能です。

- フロントパネルのロックを解除（デフォルト）
- フロントパネルをロック
- フロントパネルの入力選択、PIP、とオートイメージに制限

パネルロックモードの設定：

1. 設定したいロックモードのラジオボタンをクリックします。
2. Save（保存）をクリックします。

パワーモード

Low Power-Stand By(ローパワー-スタンバイ)状態では、DVS 605を使用していない時に、ビデオ入力のプロセスの停止およびビデオ出力を遮断して消費電力を低減します。

パワーモードの設定:

1. Full Power(フルパワー)またはLow Power-Stand By state(ローパワー - スタンバイ状態)いずれかのラジオボタンをクリックします。
2. Save(保存)をクリックします。

Mute Video and Sync (ビデオおよび同期をミュート)

ビデオおよび同期をミュートすることにより、ディスプレイをスタンバイ状態にすることが出来ます。

ビデオおよび同期をミュート:

1. Mute Video and Sync チェックボックスをオンにします。
2. Save をクリックします。

ビデオおよび同期のミュートを解除する:

1. Mute Video and Sync チェックボックスをオフにします。
2. Save をクリックします。

Date and Time(日付と時刻)ページ

DVS 605が 内蔵している時計の日付と時刻を設定できます。

Date and Timeボタン Date and Time をクリックして、ページを開きます。

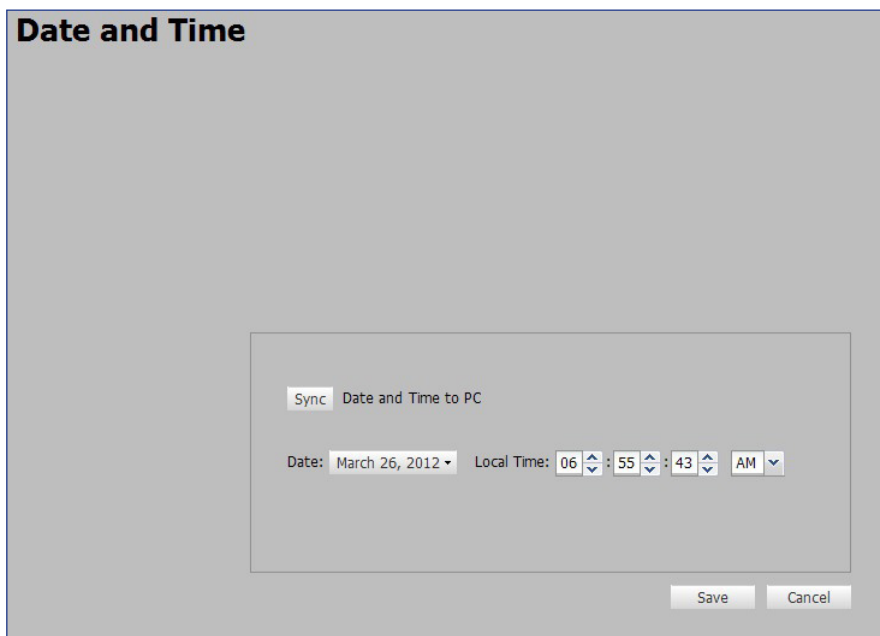



図 5-17　Date and Time (日付と時刻) ページ

日付と時刻を設定するには、Sync(同期)ボタンをクリックするとDVS 605の日付と時刻は接続しているPCの日付と時刻に同期されます。また、Date(日付)フィールドのドロップダウンカレンダーおよびTime(時刻)フィールドを使用して、マニュアルで日付と時刻を調整できます。設定が終了したら、Save をクリックします。

Password (パスワード) ページ

DVS605はアドミニストレーターパスワードとユーザーパスワードを設定できます。

このボタン Password をクリックして、ページを開きます。

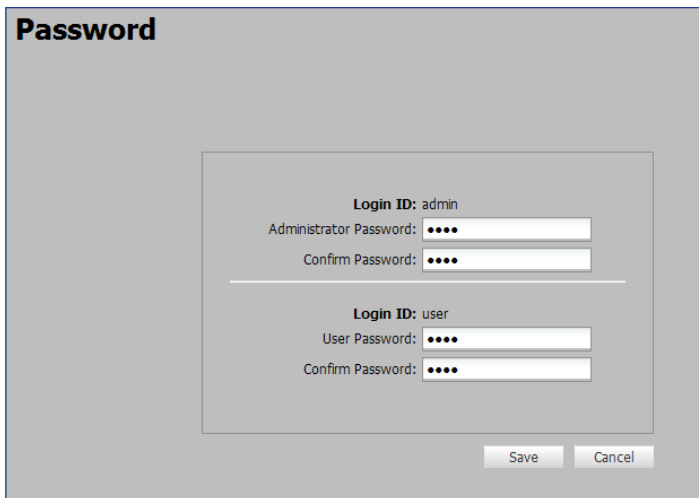



図 5-18　Password (パスワード) ページ

アドミニストレーターおよびユーザーはDVS605の全ての設定状態の表示が可能です。
アドミニストレーターは設定可能な項目全てに対して変更を行うことができます。ユーザーは以下の項目のみ変更を行うことができます。

- 入力選択　● PIPプリセットの呼び出し　● オートイメージ　● PIPオン/オフ
- ユーザープリセットの呼び出し　● オート + Fill　● オート + フォロー　● PIPスワップ
- 入力プリセットの呼び出し　● アスペクトレシオ　● 音量　● オーディオのミュート
- フリーズ　● ビデオのミュート

メモ DVS 605がパスワード保護されている場合、接続時にユーザー名の入力を求められます。アドミニストレーターレベルのアクセスにはadmin と、ユーザーレベルのアクセスにはuser と入力します。これらのユーザー名は小文字で入力する必要があります。ユーザー名を入力した後、パスワードフィールドにパスワードを入力します。

アドミニストレーターパスワードの作成または変更：

1. Administrator Password（アドミニストレーターパスワード）フィールドに、希望のアドミニストレーターパスワードを入力します。
2. Confirm Password（パスワードの確認）フィールドに、アドミニストレーターパスワードを再度入力します。
3. Save（保存）をクリックします。

ユーザーパスワードの作成：

メモ ユーザーパスワードは、アドミニストレーターパスワードが入力されるまで設定できません。

1. User Password （ユーザーパスワード） フィールドに、希望のユーザーパスワードを入力します。
2. Confirm Password （パスワードの確認） フィールドに、ユーザーパスワードを再度入力します。
3. Save をクリックします。

メモ パスワードが設定されると、ブラウザーを閉じて再起動することを求める通知が表示されます。

Reset Device (デバイスのリセット) ページ

このページでは、DVS 605をリセットすることができます。

Reset Deviceボタン Reset Device をクリックして、ページを開きます。

図 5-19　Reset Device (デバイスのリセット) ページ

DVS605では以下の3種類のリセット方法があります。

- IP 設定を維持し、DVS 605 をリセット
- IP 設定を維持し、DVS 605 をリセット。ユーザーファイルを削除。
- DVS 605 をリセット。ユーザーファイルを削除し、IP 設定もリセット。

選択したリセットオプションによって、異なる設定が消去されます。

IP 設定を維持し、DVS 605をリセット — イーサネット設定を除く、入力設定、出力、映像、EDID、PIP、およびオーディオと関連付けられた設定をリセットします。プリセットとオートメモリーも含まれます。

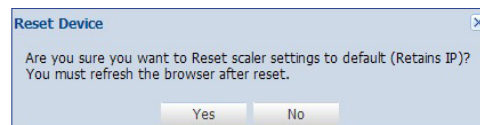
メモ イーサネット設定には、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイIPアドレス、デバイス名、DHCP設定、およびポートマッピングが含まれます。

IP 設定を維持し、DVS 605をリセット。ユーザーファイルを削除 — イーサーネット設定を除き、すべての設定を工場出荷時のデフォルトにリセットします（ユーザーファイルは削除されます）。

DVS 605をリセット。ユーザーファイルを削除し、IP設定もリセット — イーサネット設定を含む、すべての設定を工場出荷時のデフォルトにリセットします（ユーザーファイルは削除されます）。します）。イーサネット設定はDHCPオフ、IPアドレスは192.168.254.254に設定されます。

DVS 605をリセットする:

1. ラジオボタンをクリックします。
2. リセットをクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。
3. ダイアログボックスで、Yes（はい）をクリックして、リセットを実行するか、No (いいえ) をクリックして、リセットを中止します。

6
第六章
設置について

DVS 605の取り付け

DVS605 をラックマウントする場合は、配線する前にラックに取り付けます。DVS605 には4個のゴム足が付属しています。このゴム足は、装置を机や什器上に設置する場合にのみ使用します（以下の「卓上設置」を参照）。

卓上設置

卓上に設置する場合は、付属のゴム足をDVS 605 底部の4 隅に貼り付けてください。

取付け時の注意事項

DVS605をラックに取り付ける際は、以下の注意事項を確認してください。

1. **装置作動中の周囲温度の上昇** — 複数の装置が搭載された密閉ラックに設置する場合、ラック内の周囲温度は室温温度よりも高くなります。そのため、定められた最大周囲温度（Tma）以下の環境になるように工夫してください。
2. **空気流通の低下** — ラックに装置を取り付ける場合、装置が安全に作動するように、十分な空気流通が必要です。
3. **荷重の不均等** — ラックに装置を取り付ける際に、ラックが転倒しないように、ラック全体の重量バランスを配慮してください。
4. **電気回路の過負荷** — 装置は十分な電流容量を持つ電源回路に正しく接続し、過負荷と過電流からの保護を考慮する必要があります。また、各装置のネーム プレートに記載されている規格を守ってください。
5. **正しい接地** — 正しい接地を常に行う必要があります。
   設置と整備は、十分な知識を持った適切なサービス担当者が行う必要があります。

設置について

ラックへの取り付け

DVS 605をラックに取り付ける場合は、電源ケーブルを抜いてから、、ラックマウント用ブラケットを使用してラックに取り付けます（以下の図を参照）。

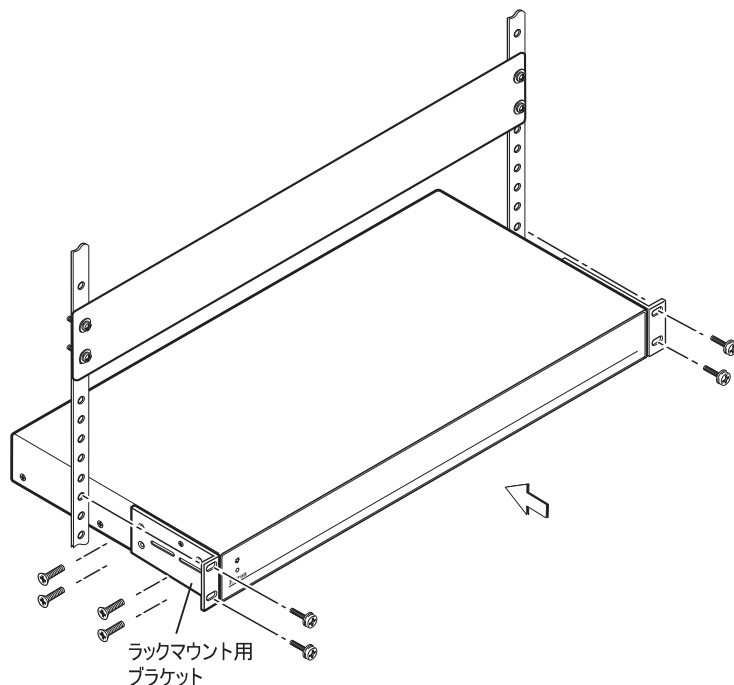



図 6-1　DVS 605 のラック取り付け

什器への取付け

オプションのラックマウント用ブラケット（MBU 149）を使用して、什器類に取り付けることもできます。テーブルなどの下や机の上に本体を取り付けられます（以下の図を参照）。

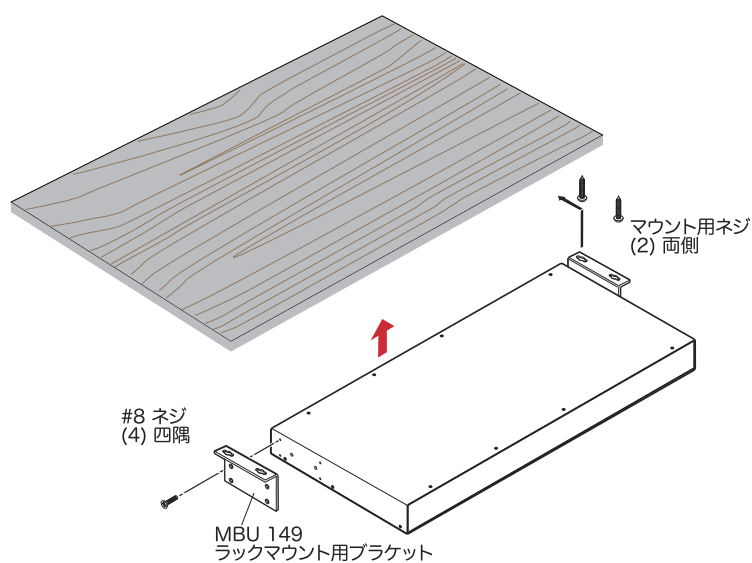



図 6-1-2　DVS 605 の什器取り付け

ＦＣＣクラスＡ通告

注意：本製品はＦＣＣ規則パート15 に基づいてテストされ、クラスＡデジタル装置の規格に合格しています。これらの規格値は、商品環境で使用しても実質的な妨害が発生しないように設計されています。本製品は電磁波エネルギーを発生し、また使用しております。さらに、それを放射する場合もあります。本製品を本書取扱説明書の指示に従って正しく取り付けていない、または正しく使用しない場合は、電磁波を利用した通信に妨害を与える可能性があります。本製品を住宅地で使用すると、ラジオやテレビなどの受信に障害を与える場合があります。障害を与えた場合、その改善作業は自己の費用で行う責任があります。

注意：本製品のテストでは、シールドケーブルを使用して周辺機器を接続しています。従って、本製品の規格準拠確認テストにおいては、必ずシールドケーブルを使用してください。

Extron Electronics の保証規定

本書取扱説明書および本製品に添付されたラベル等の注意書きに基づくお客様の正常なご使用のもとで、保証期間内に万一故障した場合には、無償にて故障の箇所を当社所定の方法で修理させていただきますので、お買い上げの弊社代理店にお申し出下さい。また本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害について当社はその責任を負わないものとします。

尚、次のような場合には、保証期間内であっても有償修理になりますので、ご了承ください。

1. お買い上げ後の取り付け場所の移動、輸送、落下などによる故障および損傷。

2. 使用上の誤り、他の機器から受けた障害、または特殊な設置環境および不当な修理や改造による故障および損傷。

3. 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災、地変あるいは異常電圧などの外部要因による故障および損傷。